



第12回全国高校生金融経済クイズ選手権
エコノミクス甲子園 報告書

認定NPO法人
金融知力普及協会
Association for the Promotion of Financial Literacy

<http://www.apfl.or.jp>

プラチナスポンサー



ゴールドスポンサー



シルバースポンサー



ブロンズスポンサー

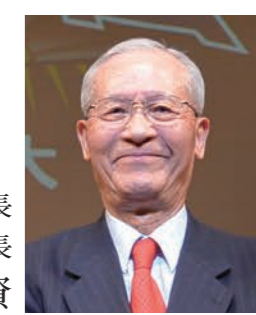


認定NPO法人
金融知力普及協会
Association for the Promotion of Financial Literacy

主催：認定NPO法人金融知力普及協会
エコノミクス甲子園実行委員会



第12回エコノミクス甲子園を終えて



エコノミクス甲子園 実行委員長
金融知力普及協会 理事長
金子 昌資

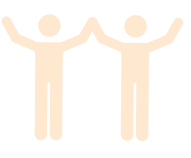
2006年度より実施しております 全国高校生金融経済クイズ選手権 エコノミクス甲子園大会 もこのたび第12回大会を無事終えることができました。これまでこの大会を作り上げてきた、延べ1万人を超える参加者の皆様、地方大会を主催した金融機関の皆様、さまざまなご支援をいただいた協賛・協力企業の皆様、後援をいただいた内閣府、文部科学省、金融庁、金融広報中央委員会の皆様、そして様々な形でこの大会に関わったすべての皆様に御礼を申し上げます。本当にありがとうございました。

第一回大会は全国3か所での地方大会、25校99名の参加者から始まったこの大会も、ネットを含め46の地方大会、517校2,594名の参加者を得るところまで成長しました。現在の教育課程では金融経済の知識についてなかなか学ぶ機会がありません。しかしながら、我々は、よりよい人生を築くためには必須の知識であると考えております。これを楽しみながら身に着ける機会を提供することの価値を多くの方に認めていただいております。現状のように成功できていると感じております。

金融経済の知識をつけるということは、投資で濡れ手に粟のもうけを狙うようなものではありません。豊かな人生を送るために、お金という道具の使い方を学ぶことです。このような考え方は最近少しずつ理解を得られてきたと感じておりますが、まだまだ多くの方に伝えていかねばなりません。そのためにもこれまで以上に多くの高校生がこの大会に参加し、金融知力を身に着け、その後の人生に活かし、そして周りの方に伝播していただければと願っております。

前回大会である第11回大会より、金子・森育英奨学基金を立ち上げました。全国大会出場者の中から、経済的にゆとりある大学進学が困難な若者を対象に、返済不要の200万円の奨学金を授与するものです。前身の第10回記念奨学金を受賞した3名のうち、1名は2017年4月より、2名は2018年4月より大学へ進学しております。引き続き有為の若者を支援してまいります。

10年、20年先も、数多くの若者に金融知力を身に着けていただくため、このエコノミクス甲子園を引き続き成功させるよう、スタッフ一同努力してまいります。ぜひ、皆様の温かいご指導とご支援を今後とも末永く、よろしくお願いいたします。



- ご挨拶 2
- エコノミクス甲子園はこんな大会です! 3
- 概要 5
- 各地方大会+参加高校一覧 6
- 全国大会 31
- NY研修旅行の様子と感想 37
- 全国大会出場者感想 43
- 事前学習教材 76
- 参加者アンケート 77
- メディア掲載実績 79
- 協賛社紹介 80
- Special Thanks 81
- リーダー挨拶 83
- エコノミクス甲子園の歩み 84
- 歴代全体写真 86





1

ポスターや学校の先生に教えられて 出場を決意!

- ・インターネットから応募
- ・参加は無料!



2

金融知力普及協会から送られてくる 事前学習教材で経済を勉強

- ・今日から役に立つ経済の読み方と投資の基礎 …… 寄贈:シティ
- ・ビギナーズのためのファイナンス入門 …… 寄贈:金融広報中央委員会
- ・これであなたもひとり立ち …… 寄贈:金融広報中央委員会
- ・大学生のための人生とお金の知恵 …… 寄贈:金融広報中央委員会
- ・そんぼのホント(フレッシュアーズガイド) …… 寄贈:日本損害保険協会
- ・株式会社制度と証券市場のしくみ …… 寄贈:日本証券業協会
- ・NISAではじめるJリート …… 寄贈:不動産証券化協会
- ・初めてのJリート …… 寄贈:不動産証券化協会
- ・もっと知りたい税のこと …… 寄贈:財務省
- ・基礎から学べる金融ガイド …… 寄贈:金融庁
- ・少額短期保険で描く保険の未来 …… 寄贈:日本少額短期保険協会
- ・ほけんのキホン …… 寄贈:生命保険文化センター
- ・マナブとメグミのお金のキホンBOOK …… 寄贈:全国銀行協会
- ・前払式支払手段ご利用者のみなさまへ …… 寄贈:日本資金決済業協会
- ・わかりやすい投資信託ガイド …… 寄贈:投資信託協会
- ・2017年版 REIT GUIDE …… 寄贈:投資信託協会



3

地方大会に参加

- ・地方大会は各地の地方銀行など
金融機関が地域貢献として開催
- ・生活していく上で是非知っておいて欲しい経済の
基礎知識や地元経済などについての問題
- ・筆記問題(50問)と早押しクイズ、そして決勝ラウンドで競う
- ・地方大会で優勝したチームは全国大会に出場



日本全国の高校生達に
金融経済を学ぶ機会を提供!
将来の日本をリードする人材の育成!



5

優勝チームはニューヨーク・ボストン研修旅行にご招待

- ・現地で活躍する様々な方々へのインタビューや
経済に関する様々な場所を見学



4

全国大会に参加

- ・経済用語をわかりやすく説明するスピーチクイズや
他チームと協力したプレゼンクイズなど、
より深い知識や理解が求められる形式の様々なクイズに挑む





名称 第12回 全国高校生金融経済クイズ選手権大会 エコノミクス甲子園
趣旨 社会にはばたく寸前の高校生が、世の中の金融経済の仕組みを理解しライフデザインやお金とのかかわり方を考える力＝「金融知力」を楽しく身につける為の教育イベントとして開催する。
期日 ・募集開始 2017年8月15日
 ・地方大会 2017年11月5日～12月17日 全国46か所(インターネット大会含む)
 ・全国大会 2018年2月17日～18日
主催 ・地方大会主催 各地の金融機関有志
 ・全国大会主催 認定NPO法人 金融知力普及協会
後援 内閣府、文部科学省、金融庁、金融広報中央委員会

プラチナ
スポンサー



ゴールド
スポンサー



シルバー
スポンサー



ブロンズ
スポンサー



地方大会主催



協力



北海道 石狩・空知・後志・日高・胆振地区予選 11月12日(日)開催

主催 札幌中央信用組合・北央信用組合 **優勝チーム**
参加校一覧 藤女子高等学校、立命館慶祥高等学校、札幌第一高等学校、札幌日本大学高等学校、札幌光星高等学校、北海道札幌西高等学校、北海道札幌清田高等学校、北海道札幌東高等学校、北海道札幌東商業高等学校、北海道札幌月寒高等学校、北海道札幌南高等学校、北海道千歳高等学校 **北海道札幌南高等学校「ヘゲモニー」**
申し込みチーム数 19チーム(12校)
運営スタッフ感想 地区予選大会の開催は今年度で4回目となりますが、参加チーム数・高校数ともに最多となる19チーム(12校)に参加いただきました。昨年のリベンジを目標に、2年連続出場チームもあり、見事に全道大会への切符を手にした優勝チーム「ヘゲモニー」もその中のひとつでした。また、最後に会場入りしたチーム「鉄録会」は、この日のために用意してくれた仮装で登場、一同の爆笑を誘い、満場一致でパフォーマンス賞を受賞しております。
 大会は、第2ラウンドで早押し機のちょっとした接触不良、微妙な回答に審判団もあたふたするハプニングもありましたが、積極的な回答で大いに盛り上がりました。
 決勝ラウンドでは、トップで決勝に進出した昨年の全道大会出場者率いる大本命チームが運用に失敗して脱落する一方、運用に成功して逆転したチームが全道大会進出を勝ち取るなど、波乱の展開となりました。
 過去3年連続で当地区予選突破チームが全道大会を通過、全国大会でも優秀な成績を挙げており、今回こそ全国優勝を!!と願いつつ、全道大会への切符を贈呈いたしました。



北海道 上川・留萌・宗谷地区予選 11月19日(日)開催

主催 旭川信用金庫・留萌信用金庫・北星信用金庫 **優勝チーム**
参加校一覧 旭川明成高等学校、北海道羽幌高等学校、北海道美深高等学校、北海道旭川東高等学校、北海道旭川商業高等学校、北海道士別翔雲高等学校、北海道名寄産業高等学校、北海道下川商業高等学校 **北海道旭川東高等学校「サンマリノ」**
申し込みチーム数 18チーム(8校)
運営スタッフ感想 生徒さんの意欲が高く盛り上がる予選大会でした。お手伝いが出来て楽しかったです。将来の金融機関職員になってくれれば有り難いと思いました。



北海道 オホーツク地区予選 11月5日(日)開催

主催 北見信用金庫・網走信用金庫・遠軽信用金庫 **優勝チーム**
参加校一覧 北海道網走桂陽高等学校、北海道網走南ヶ丘高等学校、北海道北見北斗高等学校、北海道紋別高等学校、北海道北見北斗高等学校、北海道北見緑陵高等学校、北海道遠軽高等学校、北海道湧別高等学校、北海道北見商業高等学校 **北海道北見北斗高等学校「山岳部のエース」**
申し込みチーム数 24チーム(8校)
運営スタッフ感想 昨年の反省を生かし、時間が要していた採点・集計係のスタッフを増加させ、かつ、実際に予行練習を行う等の準備に力を入れたことにより、スムーズな運営を行うことが出来ました。また、昨年と同時期に実施しましたが、降雪にて生徒の来場が心配され、本年も前日のリハーサル日は朝から降雪があり、当日の天候が心配されました。事故等の発生を防止するためにも、早期に開催出来るよう努めて参ります。参加生徒さんからのアンケートによる感想を見ますと、目的である金融知力の普及と大会開催のエンターテインメント性は、十分達成出来たと思います。



北海道 渡島・檜山地区予選 11月19日(日)開催

主催 道南うみ街信用金庫・渡島信用金庫・函館商工信用組合 **優勝チーム**
参加校一覧 北海道福島商業高等学校、北海道江差高等学校、北海道函館商業高等学校、北海道七飯高等学校 **北海道函館商業高等学校「なしたると」**
申し込みチーム数 11チーム(4校)
運営スタッフ感想 大会に向けての準備や当日の運営等、不安な面もありましたが、当日は特に問題もなく、楽しく大会を終えることができました。来年度は、今回参加のなかった高校からも参加して頂けるように準備し、大会をより一層盛り上げていきたいと思ひます。



北海道 十勝地区予選 11月12日(日)開催

主催 帯広信用金庫・十勝信用組合 **優勝チーム**
参加校一覧 江陵高等学校、北海道芽室高等学校、北海道帯広農業高等学校、北海道帯広柏葉高等学校、北海道帯広南商業高等学校、北海道帯広三糸高等学校 **北海道帯広三糸高等学校「鈴木ジュニア」**
申し込みチーム数 9チーム(6校)
運営スタッフ感想 今年で4回目の開催となった十勝地区予選大会には、6校9チームが参加し北海道大会進出を目指して熱戦を繰り広げました。筆記試験、早押しクイズの予選を勝ち上がった6チームによる決勝ラウンド「資産運用クイズ!」では、出題される問題のジャンルと難易度、自チームの保有資産額などから「預金」と「運用」の選択を巡り、各チームの駆け引きが行われました。
 さらに、昨年の地区予選大会優勝チームが、最終問題で「運用」に成功し、3位から優勝に輝く展開には会場が大いに沸きました。大会に参加したチームからは、「本大会に向けた事前学習が金融経済について学ばさかっけとなった」などの声も聞かれ、本大会の意義を改めて感じることが出来ました。



北海道 釧路・根室地区予選 11月12日(日)開催

主催 釧路信用金庫・大地みらい信用金庫 **優勝チーム**
参加校一覧 北海道釧路北陽高等学校、北海道釧路明輝高等学校、北海道釧路商業高等学校、北海道釧路湖陵高等学校、北海道根室高等学校、北海道釧路湖陵高等学校 **北海道釧路湖陵高等学校「文理両道」**
申し込みチーム数 16チーム(5校)
運営スタッフ感想 今年で4回目の開催となった釧路・根室地区予選大会は、元気いっぱいの出場者の熱意とMCの話術に会場中が引き込まれ、例年以上の盛り上がりを見せた大会となりました。
 早押しクイズ・決勝ラウンドの「資産運用クイズ!」ともに、各チームが個性を發揮し、大会終了後は「難しかったが楽しかった」「これからもっと金融・経済に関する知識を身につけたい」と満面の笑みを見ることができ、参加した高校生だけでなく、私たち運営スタッフにとっても有意義な時間となりました。





北海道大会

12月17日(日)開催

主催 **北海道銀行**

参加校一覧 北海道札幌南高等学校、北海道札幌東陵高等学校、北海道札幌西高等学校、北海道釧路湖陵高等学校、北海道釧路北陽高等学校、北海道北見北斗高等学校、北海道湧別高等学校、北海道紋別高等学校、北海道帯広三条高等学校、北海道帯広柏葉高等学校、北海道旭川東高等学校、北海道函館商業高等学校

申し込みチーム数 17チーム(12校)

運営スタッフ感想 道内6か所で開催された地区予選大会には、総勢41校97チームに参加いただき、厳しい戦いを勝ち抜いた17チームで北海道大会を開催しました。地区代表チームを応援しようと、遠方より信用金庫・信用組合の皆さまやご家族が多数応援に駆け付け、例年に増して会場は多めに盛り上がりました。これからも、高校生に金融経済について楽しく学んでもらえるよう信用金庫・信用組合の皆様と一緒に取り組んでいきたいと思ひます。



優勝チーム
北海道札幌南高等学校
「ヘゲモニー」



青森大会

11月26日(日)開催

主催 **みちのく銀行**

参加校一覧 青森県立青森高等学校、青森県立木造高等学校、青森県立青森商業高等学校、東奥学園高等学校、青森県立弘前高等学校、青森山田高等学校、青森県立八戸高等学校、青森県立五所川原高等学校、青森県立青森南高等学校、青森県立田名部高等学校

申し込みチーム数 26チーム(10校)

運営スタッフ感想 決勝ラウンドでは弘前高等学校の昨年優勝チームが中盤までリードするも、「預金」「運用」の選択が運命を分けてきました。最終盤で「運用」を選択時、まさかの不正解。「預金」でこつこつと貯めてきた青森高等学校「なぜ山／」が逆転で優勝となり、波乱万丈の決勝ラウンドは劇的に幕を閉じました。多くの参加者から「また参加したい」とのお声を頂き、来年もこの大会を盛り上げるべくスタッフ一同、決意を新たにしました。



優勝チーム
青森県立青森高等学校
「なぜ山／」



岩手大会

12月10日(日)開催

主催 **北日本銀行**

参加校一覧 岩手県立盛岡第三高等学校、盛岡中央高等学校、岩手県立盛岡商業高等学校、岩手県立盛岡第一高等学校、盛岡白百合学園高等学校

申し込みチーム数 21チーム(5校)

運営スタッフ感想 昨年に引き続き開催された岩手大会ですが、今年は県内5校から18組36名に参加いただきました。クイズを通じ白熱した戦いが繰り広げられ、接戦の末、盛岡第三高等学校の1年生チームが全国大会への切符を手に入れました。今年から初の主催金融機関として参加させていただきましたが、地方大会も無事終了することができ、関係者の皆さまに感謝いたします。



優勝チーム
岩手県立盛岡第三高等学校
「ゴーフエニックス」



宮城大会

12月17日(日)開催

主催 **77 七十七銀行**

参加校一覧 仙台市立仙台青陵中等教育学校、宮城県宮城第一高等学校、宮城県大河原商業高等学校、宮城県石巻商業高等学校、仙台南高等学校、宮城県泉高等学校、宮城県仙台第一高等学校、宮城県白石高等学校、宮城県古川黎明高等学校、仙白白百合学園高等学校、宮城県水産高等学校、東北学院高等学校、宮城県塩釜高等学校、宮城県仙台第二高等学校、宮城県仙台二華高等学校、聖ウルスラ学院英智高等学校

申し込みチーム数 28チーム(16校)

運営スタッフ感想 決勝ラウンドの問題の正解率が極めて高く、「運用」を選択しづらい状況となっていました。当大会に関してはもう少し問題の難易度が高くて良かったのかなと思ひました。



優勝チーム
宮城県古川黎明高等学校
「宮城県古川黎明高」





秋田大会

12月9日(土)開催

主催 **秋田銀行**

参加校一覧 秋田県立新屋高等学校、秋田県立秋田南高等学校、秋田県立能代高等学校、秋田県立秋田中央高等学校、秋田県立秋田高等学校、秋田市立秋田商業高等学校、秋田県立横手高等学校、秋田県立由利高等学校、聖霊女子短期大学付属高等学校、秋田県立湯沢高等学校、秋田工業高等専門学校、秋田県立秋田西高等学校

申し込みチーム数 34チーム(12校)

運営スタッフ感想 過去最多となる12校33チームに参加いただきました。決勝では予選上位3チームが5問目で全問正解、結果として3チームとも正解数が同じ(10問中8問正解)というデッドヒートを繰り広げましたが、「預金」・「運用」の選択の差で由利高等学校チーム「由利高校理数科」がわずかに抜け出し、優勝を飾りました。また、優勝を惜しくも逃した皆さんからは「来年も参加し、リベンジします!」と熱い言葉をいただくことができました。最後に、参加していただいた高校生の皆さん、大会にご協力いただいた関係各所の皆さまにお礼申し上げます。



優勝チーム
秋田県立由利高等学校
「由利高校理数科」



山形大会

12月10日(日)開催

主催 **山形銀行**

参加校一覧 山形県立山形東高等学校、山形県立山形南高等学校、山形県立酒田東高等学校、山形県立上山明新館高等学校、日本大学山形高等学校

申し込みチーム数 19チーム(5校)

運営スタッフ感想 今年の山形大会は19チーム38名の参加により開催され、司会者の軽妙なトークにより場内は盛り上がりました。優勝チームは、決勝ラウンドで「運用」を選択し、勝負をかけたタイミングがドンピシャでした。また、今回は問題によって難易度がまちまちだったような気がします。最後に参加頂いた高校生の皆さん、ご協力いただいた皆様にお礼申し上げます。



優勝チーム
山形県立山形南高等学校
「もるちよつぷ」



福島大会

11月26日(日)開催

主催 **東邦銀行**

参加校一覧 福島県立福島高等学校、福島成蹊高等学校、福島県立福島商業高等学校、福島工業高等専門学校

申し込みチーム数 16チーム(4校)

運営スタッフ感想 地元テレビ局(日テレ系列)の女子アナウンサーが早押しクイズと決勝ラウンドの司会として大会を盛り上げてくださり、会場はさながらテレビのクイズ番組のような素晴らしい雰囲気になりました。決勝ラウンドでは、順調に資産を増やしていった優勝候補が賭けに出たところで逆転されるなど、運が大きく影響する興味深い展開となりました。決勝ラウンドに進めなかったチームも含めみんなで楽しむことができ、高校生にとって良い思い出と素晴らしい学びの場となりました。



優勝チーム
福島県立福島高等学校
「No Idea」



茨城大会

12月10日(日)開催

主催 **筑波銀行**

参加校一覧 茨城県立竹園高等学校、茨城県立古河中等教育学校、茨城県立竜ヶ崎第一高等学校、茨城県立土浦第一高等学校、常総学院高等学校、江戸川学園取手高等学校、茨城県立土浦第三高等学校、茨城県立水戸商業高等学校、茨城県立並木中等教育学校、明秀学園日立高等学校、茨城県立水戸第一高等学校

申し込みチーム数 37チーム(11校)

運営スタッフ感想 今年の茨城大会は、平成29年12月10日(日)に34チーム、68名の参加により、盛大に開催されました。決勝ラウンドでは、今年も白熱した戦いが繰り広げられ、茨城県立土浦第一高等学校「ATG主義者連合」が優勝し、全国大会の出場権を獲得しました。今後も大会を通じて、たくさんの高校生に楽しく金融知力の大切さを学ぶことが出来るよう取り組んでいきたいと考えています。地方大会も無事終了することができ、関係者の皆さまに感謝いたします。



優勝チーム
茨城県立土浦第一高等学校
「ATG主義者連合」





栃木大会

12月17日(日)開催

主催 **足利銀行**

参加校一覧 宇都宮文星女子高等学校、栃木県立栃木高等学校、栃木県立宇都宮高等学校、栃木県立宇都宮女子高等学校、栃木県立佐野高等学校、佐野日本大学高等学校、栃木県立鹿沼商工高等学校、栃木県立石橋高等学校、作新学院高等学校、栃木県立矢板東高等学校、栃木県立真岡女子高等学校

申し込みチーム数 30チーム(11校)

運営スタッフ感想 栃木大会も開催5回目となり、過去最多の8校、25チーム、50人が参加しました。昨年のリベンジ組も多く、闘志みなぎる大会で大変盛り上がりしました。昨年、決勝ラウンドに進出できなかった反省を踏まえて参加したという2年生チームが優勝!「悔いのないように頑張りたい!」と全国大会に向けて決意を語ってくれました。全国大会では毎回途中まで勝ち進むので、そろそろ栃木県が優勝してくれないかと2人に期待しています。運営スタッフとして参加した当行行員にも改善点や意見・感想等のアンケートを行っています。銀行員スタッフから「運営に参加して楽しかった」「高校生の頑張りに触発されてよい経験となった」との感想があり、今後も当行のCSRイベントとして盛り上げていきたいと思っています。



優勝チーム
栃木県立宇都宮高等学校
「シシャモックス」



群馬大会

12月10日(日)開催

主催 **群馬銀行**

参加校一覧 ぐんま国際アカデミー高等部、伊勢崎市立四ツ葉学園中等教育学校、前橋育英高等学校、群馬県立中央中等教育学校、群馬県立前橋商業高等学校、群馬県立前橋高等学校、群馬県立太田高等学校、群馬県立沼田高等学校、群馬県立高崎女子高等学校、群馬県立高崎高等学校

申し込みチーム数 28チーム(10校)

運営スタッフ感想 6回目となる群馬大会は、10校から過去最多となる28チームが参加し、盛大に行われました。特に今年は1年生が11チームと多く、エコミクス甲子園が群馬に定着してきたなど実感しました。決勝ラウンドは、1年生2チーム、2年生3チーム、3年生1チームの対戦となりました。「運用」を選択し続け、積極的に勝負に出るチーム、「預金」を選択し、着実に所持金を増やしていくチームなど各チームの戦略が分かれ、観客も固唾を飲む展開となりました。9問目まで「預金」で着実に資金を増やし2位に付けていた「ブスカドル」は最終問題で「運用」を選択して勝負に出ました。結果、1チームだけ正解となり、大逆転で全国大会への切符を掴みました。「ブスカドル」は、昨年も出場しましたが、一人が風邪で欠席となったので決勝ラウンドに進めず、悔しい思いをしていました。そのリベンジを果たせ、二人ともとても満足した表情を浮かべていました。参加者の皆さんから、「経済に興味を持つことができた」「将来の進路の参考になった」などの声をいただきました。これからも高校生の皆さんが、金融経済について楽しく学べるよう、取り組んでいきたいと思っています。



優勝チーム
伊勢崎市立四ツ葉学園
中等教育学校
「ブスカドル」



埼玉大会

12月17日(日)開催

主催 **埼玉りそな銀行**

参加校一覧 西武学園文理高等学校、栄東高等学校、昌平高等学校、早稲田大学本庄高等学院、埼玉県立浦和高等学校、埼玉県立浦和第一女子高等学校

申し込みチーム数 21チーム(6校)

運営スタッフ感想 今回の埼玉大会には、21チーム42名の高校生の皆さんにご参加いただきました。早押しクイズでは、高校生の皆さんは事前準備がしっかりと行われていたこともあり、問読みに回答してポイントを積み重ねるチームが複数いたことから、白熱した展開となりました。また、決勝ラウンドの資産運用クイズでは、問題の回答だけでなく、「預金」・「運用」のどちらをどのタイミングで選択するか、各チーム同士で駆け引きが行われていました。結果として栄東高等学校の「生徒会ですよ」チームが、激戦を制し優勝しました。今後も、多くの高校生の皆さんにご参加いただき、金融経済の大切さについて楽しみながら学んでいただけるよう取り組んで参りたいと思います。



優勝チーム
栄東高等学校
「生徒会ですよ」



千葉大会

12月17日(日)開催

主催 **千葉興業銀行** **千葉銀行**

参加校一覧 千葉県立千葉高等学校、渋谷教育学園幕張高等学校、翔凛高等学校、千葉県立佐倉高等学校、流通経済大学付属柏高等学校、芝浦工業大学柏高等学校、千葉県立船橋高等学校、市川高等学校、千葉県立東葛飾高等学校、千葉市立稲毛高等学校

申し込みチーム数 22チーム(10校)

運営スタッフ感想 千葉大会は今年で9回目の開催となり、10校21チームに参加いただき、大盛況のうち終了しました。第2ラウンド早押しクイズでは、問読みに解答するチームも多く見られ白熱したゲームとなりました。また、最終ラウンド資産運用クイズでは、最後まで勝敗がわからない手に汗握るゲーム展開となり、最終で再逆転したチーム「NICO向日葵」が全問正解にて全国大会への切符を手に入れました。参加していただいた高校生の皆さん、開催にあたりご協力いただきましたスタッフの皆さん、ありがとうございました。皆さんのおかげで非常に楽しく盛り上がった大会となりました。今後も、高校生に金融経済を楽しく学んでもらえる機会を提供していきたいと思っています。



優勝チーム
渋谷教育学園幕張高等学校
「NICO向日葵」





東京大会

11月23日(木)開催

主催 リソな銀行

参加校一覧 東京都立駒場高等学校、国際基督教大学高等学校、八王子学園八王子高等学校、武蔵野女子学院高等学校、日本学園高等学校、朋優学院高等学校、世田谷学園高等学校、開成高等学校、東京工業大学附属科学技術高等学校、渋谷教育学園渋谷高等学校、桐朋女子高等学校、広尾学園高等学校、本郷高等学校、駒場東邦高等学校、早稲田高等学校、早稲田大学系属早稲田実業学校高等部、筑波大学附属駒場高等学校

申し込みチーム数 43チーム(17校)

運営スタッフ感想 今年の東京大会は過去最多の34チーム68名の高校生が参加しました。参加者数の多さもさることながら、初出場の高校が多数ありエコノミクス甲子園の注目度が上がっていると感じた大会となりました。決勝ラウンドは条件が揃えば一発逆転可能なルールで最後まで目の離せない戦いとなりました。問題の難易度も関係しますが、全体を通して正答が多く皆さんよく勉強されていたと思います。参加者アンケートでは「大会を通して金融経済に対する知識がついた」、「経済をこんなに楽しく学べたと思わなかった」といった感想が多く高校生にとって良い思い出となったようです。今後とも金融知力を楽しんで学べるエコノミクス甲子園を盛り上げていきたいと思ひます。



優勝チーム
早稲田高等学校
「ミモザ」



神奈川大会

12月10日(日)開催

主催 横浜銀行

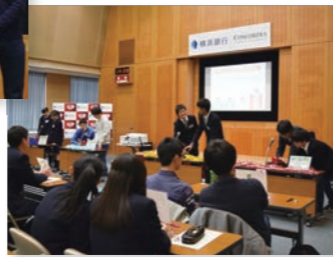
参加校一覧 神奈川県立横須賀高等学校、慶應義塾高等学校、聖光学院高等学校、武相高等学校、神奈川県立麻生高等学校、桐蔭学園高等学校、神奈川県立平塚商業高等学校、桐蔭学園中等教育学校、三浦学苑高等学校、横浜共立学園高等学校、法政大学第二高等学校、神奈川県立横浜翠嵐高等学校、藤嶺学園藤沢高等学校、公文国際学園高等学校、日本大学高等学校、栄光学園高等学校

申し込みチーム数 41チーム(16校)

運営スタッフ感想 第12回エコノミクス甲子園神奈川大会は、38チーム76名の高校生にご参加いただきました。今回は、初参加校からのエントリーも複数あり、エコ甲の知名度が上がってきていることを実感しました。また、昨年のリベンジに燃える強豪チームも多く、特に決勝ラウンドのハイレベルな戦いが印象的でした。参加者からは「とにかく楽しかったので、来年は友人にも勧めたい」「大会のための勉強で終わらないよう、今後も継続していきたい」「今回は他のチームのレベルの高さに圧倒されてしまったので、次回はしっかり勉強して挑みたい」等、うれしい感想を多くいただきました。今後ともたくさんの方の高校生に楽しんでいただけるよう、一層大会を盛り上げていきたいと思ひます。



優勝チーム
栄光学園高等学校
「モナリザ」



新潟大会

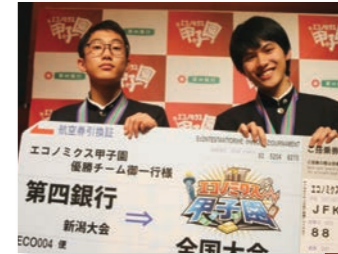
12月10日(日)開催

主催 第四銀行

参加校一覧 新潟明訓高等学校、新潟県立新潟南高等学校、新潟県立燕中等教育学校、新潟県立五泉高等学校、新潟県立直江津中等教育学校、新潟県立新潟高等学校、新潟県立新発田商業高等学校、新潟県立新潟中央高等学校、北越高等学校、新潟県立三条高等学校、新潟県立新潟商業高等学校

申し込みチーム数 32チーム(11校)

運営スタッフ感想 第5回新潟大会では、32チーム64名の高校生にご参加いただきました。昨年より、10チーム増加し、大変賑やかな大会となりました。優勝した「N'信濃 boys」は、1年生から毎年参加し、過去2回とも決勝まで進出するも、優勝には届きませんでしたが、3年生となった今回、最後の大会で栄冠を手にすることが出来ました。そのほかの参加者からも、「またチャレンジしたい!」、「事前教材が忠実に、金融経済をもっと学びたくなった!」など、意欲にあふれる感想を多くいただきました。これからも、新潟の未来を担う高校生のみなさんが、金融経済について楽しく学べる大会の運営を目指して参ります。



優勝チーム
新潟明訓高等学校
「N'信濃 boys」



富山大会

12月17日(日)開催

主催 北陸銀行

参加校一覧 富山県立富山いづみ高等学校、富山県立富山南高等学校、高岡龍谷高等学校、富山県立富山高等学校、富山県立滑川高等学校、富山県立富山中部高等学校、富山県立高岡高等学校、富山高等専門学校 射水キャンパス、富山県立高岡南高等学校、富山県立高岡商業高等学校、富山県立魚津高等学校、富山県立志貴野高等学校、高岡向陵高等学校、片山学園高等学校、富山県立南砺福野高等学校

申し込みチーム数 31チーム(15校)

運営スタッフ感想 今回は31チーム62名の方にご参加いただきました。大会は、予選ラウンドから1点を争う大接戦でしたが、最後は「卓球男子」チームが予選1位通過の貫禄で優勝となりました。参加者から、「学んだことを活かしたい」「これからも経済のことを勉強したい」等のコメントを頂き、スタッフ一同、大変嬉しかったです。来年もより良い大会にできるよう取り組んで参りたいと思ひます。



優勝チーム
富山県立富山高等学校
「卓球男子」





石川大会

11月19日(日)開催

主催 北國銀行

参加校一覧 石川県立金沢商業高等学校、石川県立小松商業高等学校、星稜高等学校、金沢大学人間社会学域学校教育学類附属高等学校、石川県立金沢泉丘高等学校、日本航空高等学校石川、石川県立金沢二水高等学校

申し込みチーム数 18チーム(7校)

運営スタッフ感想 今年は昨年全国優勝を果たした金沢大学附属高等学校の後輩たちが多数参加し、レベルの高いメンバーが揃った大会となりました。

決勝ラウンドでは、各チームがそれぞれの戦略で運用の活用を思惑する中、予選1位チームが見事な逃げ切りを果たし、優勝しました。最後まで優勝チームが分からない展開に会場も大いに盛り上がりました。

参加生徒からは「来年も参加したい」との声もいただき、今後も地域の学生に向けた金融や経済の知識を得られる場を提供していきたいと思いました。



優勝チーム
金沢大学人間社会学域
学校教育学類附属高等学校
「マッキーマウス」



福井大会

12月10日(日)開催

主催 北陸銀行

参加校一覧 福井県立金津高等学校、福井県立藤島高等学校、福井県立坂井高等学校、敦賀気比高等学校、福井県立敦賀高等学校、仁愛女子高等学校、福井県立羽水高等学校、福井県立鯖江高等学校

申し込みチーム数 22チーム(8校)

運営スタッフ感想 今回は22チーム44名と昨年より参加者は少なくなりましたが、決勝ラウンドでは「預金」と「運用」の選択の中でさまざまな駆け引きが生まれ、非常に白熱した大会となりました。参加者からも、「金融知識に触れる良いきっかけになった」「楽しかったので来年も参加したい」等のコメントを頂き、スタッフ一同大変嬉しかったです。来年もより良い大会にできるよう取り組んで参りたいと思います。



優勝チーム
福井県立藤島高等学校
「ジンテーゼ」



山梨大会

12月17日(日)開催

主催 山梨中央銀行

参加校一覧 山梨県立塩山高等学校、山梨学院高等学校、山梨県立甲府南高等学校、山梨県立韮崎高等学校、山梨県立甲府第一高等学校、山梨県立甲府東高等学校、北杜市立甲陵高等学校、山梨県立都留高等学校、駿台甲府高等学校

申し込みチーム数 22チーム(9校)

運営スタッフ感想 山梨大会は今回で7回目の開催となり、9校・22チームに参加いただきました。

実力が伯仲するなか、白熱した戦いが繰り広げられ、優勝したのは甲府南高等学校の2年生チーム「フルーツオレ」。昨年は3位でしたが予選1位を死守し見事リベンジを果たし、全国大会出場への切符を手にしました。

今大会は、昨年に続いての参加者も多く、リベンジに燃えるチームもあり大変盛り上がりました。また、参加者からは「金融経済を学ぶ良い機会になった」「新たな知識が身に付いて良かった」「来年も参加したい」などの感想をいただきました。

ご参加いただきました高校生の皆さま、開催にあたりご尽力いただいた関係者の皆さま、ありがとうございました。皆さまのご協力で笑顔と充実感に満ちた素晴らしい大会になりました。今後も、高校生の皆さまが金融経済について興味を持っていただくきっかけの場として、山梨大会を開催していきたいと思っております。



優勝チーム
山梨県立甲府南高等学校
「フルーツオレ」



長野大会

12月3日(日)開催

主催 八十二銀行

参加校一覧 長野清泉女学院高等学校、長野県松本深志高等学校、佐久長聖高等学校、松本秀峰中等教育学校、インターナショナルスクール・オブ・アジア軽井沢、長野県上田高等学校、長野県諏訪清陵高等学校、長野県須坂創成高等学校、長野県屋代高等学校、長野県長野高等学校

申し込みチーム数 21チーム(10校)

運営スタッフ感想 長野大会は今年で5回目でした。年々参加高校数も増え、今年は9校18チームの高校生が出場しました。最初は緊張していた様子でしたが、クイズが始まると高校生は真剣モード、果敢に挑戦する姿に、運営側のサポーターも驚きました。最終的にチーム「akvo(アクヴォ)」が優勝し、松本深志高等学校は3連覇を成し遂げました。高校生からは「盛り上がって楽しかった」、「来年も必ず参加します」という言葉をたくさん頂きました。中には「問題の難易度をあげて欲しい」、「問題数が少なかった。もっといろんな問題に答えたい」という声もあり、高校生の意欲を感じました。今後もエコノミクス甲子園を通して、金融知力の関心を高められるよう取り組んで参りたいと思っております。



優勝チーム
長野県松本深志高等学校
「akvo」





岐阜 岐阜地区予選

主催 十六銀行
 参加校一覧 岐阜県立岐阜高等学校、多治見西高等学校、岐阜県立瑞浪高等学校、
 帝京大学可児高等学校、岐阜県立大垣南高等学校、富田高等学校、
 岐阜県立大垣東高等学校、岐阜市立岐阜商業高等学校、
 鶯谷高等学校、岐阜県立岐阜商業高等学校
 優勝チーム 岐阜県立岐阜高等学校
 [withT]
 申し込みチーム数 17チーム(10校)
 運営スタッフ感想 第2ラウンドの早押しクイズでは、参加者からも「楽しかった」「TVでよく見る機械に触ることができたのも嬉しかった」の声があがるなど盛り上がった。
 岐阜本選進出チーム決定のラウンドでは、通常の決勝ラウンドの問題であったからか、参加者からは「問題が難しい」との意見もあった。予選では、敗者復活となるため、問題の難易度にばらつきをもたせても良いと感じた。

11月5日(日)開催



岐阜 飛騨地区予選

主催 十六銀行
 参加校一覧 岐阜県立飛騨高山高等学校、高山西高等学校、岐阜県立斐太高等学校
 優勝チーム 高山西高等学校
 [秋水]
 申し込みチーム数 11チーム(3校)
 運営スタッフ感想 本選出場決定ラウンドでは、6チーム中5チームが全問「預金」を選択するなか、残り1チームが全問「運用」を選択した。当チームは結果的に本選出場を逃したものの、その積極的な姿勢に会場が盛り上がった。
 過去のエコノミクス甲子園で3年連続全国大会出場の実績がある当行員が特別ゲストとして出席し、高校生を激励した。

11月12日(日)開催



岐阜大会

主催 十六銀行
 参加校一覧 岐阜県立岐阜高等学校、多治見西高等学校、帝京大学可児
 高等学校、岐阜県立大垣東高等学校、鶯谷高等学校、岐阜県
 立飛騨高山高等学校、高山西高等学校、岐阜県立斐太高等
 学校
 申し込みチーム数 20チーム(8校)
 運営スタッフ感想 敗戦に涙するチームもあり、生徒たちの本気度が伝わって来
 ました。

12月9日(土)開催



優勝チーム
 岐阜県立岐阜高等学校
 [withT]



静岡大会

主催 静岡銀行
 参加校一覧 静岡サレジオ高等学校、沼津工業高等専門学校、静岡学園高
 等学校、常葉学園橘高等学校、静岡雙葉高等学校、知徳高等
 学校、静岡県立御殿場南高等学校、磐田東高等学校、静岡県
 立藤枝北高等学校、富士市立高等学校、静岡県立島田商業
 高等学校、浜松開誠館高等学校
 申し込みチーム数 22チーム(12校)
 運営スタッフ感想 7回目を迎えた静岡大会では、初参加校が3校を数えるなど、
 県内各地から多くの高校生が参加しました。参加者同士はもち
 ろん、スタッフとの活発な交流のもと、楽しい大会となりました。
 決勝ラウンドは白熱した戦いとなり、予選ラウンド1位の「最低
 賃金 832 円」が10問全問正解で勝利を収めました。優勝チ
 ムの知徳高等学校は、昨年に続き全国大会への切符を勝ち
 取ることができ、全国大会への意気込みも十分ありました。昨
 年の先輩の雪辱を果たすとともに、静岡県からの参加校として、
 過去最高順位となるよう活躍を期待しています。

12月17日(日)開催



優勝チーム
 知徳高等学校
 [最低賃金832円]



愛知大会

主催 愛知銀行
 参加校一覧 名古屋大学教育学部附属高等学校、名古屋市立名東高等学
 校、名古屋市立向陽高等学校、名古屋高等学校、愛知県立千
 種高等学校、愛知県立岡崎高等学校、愛知県立旭丘高等学
 校、東海高等学校、海陽中等教育学校、滝高等学校
 申し込みチーム数 27チーム(10校)
 運営スタッフ感想 今回のエコノミクス甲子園愛知大会には、9校 23 チームが
 参加し、大いに盛り上がりました。参加した高校生たちは、本
 大会を通じて、戦友と金融知力を競い合い、多くの思い出がつ
 くれたことと思います。来年は、今年以上に多くの学校に参加
 していただき、エコノミクス甲子園の良さを幅広く知っていただ
 くとともに、地元金融機関として地元高校生の金融リテラシー向
 上に貢献していきたいと思ひます。

12月10日(日)開催



優勝チーム
 東海高等学校
 [不連続]





三重大会

12月10日(日)開催

主催 **百五銀行**
FRONTIER BANKING

参加校一覧 高田高等学校、桜丘高等学校、三重県立津高等学校、三重県立津西高等学校、三重県立津商業高等学校、三重県立松阪高等学校、三重県立松阪商業高等学校、三重県立川越高等学校、三重県立宇治山田商業高等学校、三重県立四日市商業高等学校、三重県立伊勢高等学校、セントヨゼフ女子学園高等学校

申し込みチーム数 30チーム(12校)

運営スタッフ感想 三重大会も7回目となりました。昨年に引続き30チーム60名の皆さんにお申込みいただきました。また本年は、初出場の高校も増えたため、参加高校数が過去最高の12校となりました。年々エコノミクス甲子園の認知度が、高まりつつあることを実感することができました。大会当日は、残念ながら2チーム欠場となりましたが、筆記クイズから高校生のみなさんの真剣な表情が見受けられ、早押しクイズ、決勝ラウンドと進むにつれ、会場内の熱気が高まっていくのを感じました。三重県教育委員会さまや高校の先生方をはじめ、ご協力いただきました方々に感謝いたします。参加高校数も増え、これまでも増して大変活気のある大会となりました。また、年々参加される高校生の皆さんの金融知力の向上が見られることに驚かされます。今後も更なる金融知力の向上のため、楽しい大会の運営に努めて参ります。



優勝チーム
三重県立伊勢高等学校
「熱盛ベマーズ」



滋賀大会

12月17日(日)開催

主催 **関西アーバン銀行**

参加校一覧 滋賀県立彦根翔陽高等学校、滋賀県立膳所高等学校、滋賀県立国際情報高等学校、幸福の科学学園関西高等学校、滋賀県立彦根東高等学校、滋賀県立水口東高等学校、滋賀県立東大津高等学校、滋賀県立守山高等学校、滋賀県立高島高等学校、滋賀県立八日市高等学校、立命館守山高等学校、滋賀短期大学附属高等学校

申し込みチーム数 26チーム(12校)

運営スタッフ感想 滋賀県での地方大会開催も3回目となり、当日は10校22チームの参加をいただきました。参加者の皆さまは、予選ラウンドの開始直前まで参考書等を確認されており、我々も身が引き締まる思いでした。予選ラウンドは非常に接戦となり、最終的に決勝ラウンドに進出した6チームは全て異なる高校の対戦となりました。決勝ラウンドでは、予選ラウンド1位のチームがそのまま勢いを加速させ、着実に所持金を増やして優勝しました。最後に、開催にあたりご協力いただきました教育機関や関係者の皆さま、ありがとうございました。次回も、多くの高校生の皆さんに参加いただき、金融リテラシー向上の一助となれますよう、滋賀大会を盛り上げていきたいと思っております。



優勝チーム
滋賀県立守山高等学校
「神道守山」



京都大会

12月17日(日)開催

主催 **京都銀行**

参加校一覧 京都府立洛北高等学校、立命館高等学校、京都光華高等学校、京都府立南陽高等学校、洛南高等学校、東山高等学校、京都市立堀川高等学校、日星高等学校、京都教育大学附属高等学校、京都府立嵯峨野高等学校、立命館宇治高等学校、京都府立城南菱創高等学校、京都市立西京高等学校、平安女学院高等学校

申し込みチーム数 21チーム(14校)

運営スタッフ感想 今回の2回目となった「京都大会」は、参加申し込みがあった17チームで無事に開催することができました。開始直前まで、テキストで勉強する姿も見られ高校生の大会にける意気込みを感じました。大会は正答率の高いハイレベルな戦いとなりましたが、参加者の皆さまからは「楽しかった」「来年も参加したい」とのうれしい声を聞くことができました。参加いただいた高校生の皆さま、開催にあたりご尽力いただいた関係者の皆さまに感謝申し上げます。金融リテラシー向上の一翼を担えるよう、来年はより一層熱く盛り上がる大会にしたいと思います。



優勝チーム
洛南高等学校
「こたつむり」



大阪大会

12月17日(日)開催

主催 **近畿大阪銀行** **りそな銀行**

参加校一覧 関西創価高等学校、大阪府立茨木高等学校、四天王寺学園高等学校、大阪府立天王寺高等学校、開明高等学校、大阪星光学院高等学校、大阪教育大学附属高等学校 平野校舎、大阪府立北野高等学校

申し込みチーム数 21チーム(8校)

運営スタッフ感想 今回の大阪大会は昨年より3チーム増え、計20チーム40名の高校生たちに参加いただきました。予選ラウンドでは早押しで競り負け、悔しい思いをしたチームもありました。決勝ラウンドでは、接戦となり、正解しても、他のチームとの得点差がなかなか詰められず、全チームがやきもきする展開。最終問題となる10問目で、勝負にでた「SG65K」チームが見事運用に成功し、大逆転で優勝。会場は大盛り上がりでした。優勝した「SG65K」チームには大阪代表として全国大会でも活躍していただきたいと思っております。他のチームも「リベンジしたい!」との声が多く、是非来年度も挑戦していただきたいと思っております。最後に、運営にあたり、金融知力普及協会のみなさまをはじめとする関係各位のご協力をいただいたことに厚く御礼申し上げます。



優勝チーム
大阪星光学院高等学校
「SG65K」





兵庫大会

12月17日(日)開催

主催 **池田泉州銀行**

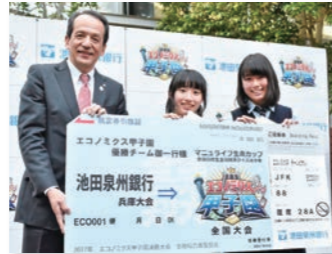
参加校一覧 雲雀丘学園高等学校、神戸女学院高等学部、甲陽学院高等学校、甲南高等学校、灘高等学校、兵庫県立芦屋高等学校、兵庫県立東灘高等学校、兵庫県立川西緑台高等学校、兵庫県立太子高等学校、兵庫県立国際高等学校、兵庫県立三田祥雲館高等学校

申し込みチーム数 21チーム(11校)

運営スタッフ感想 今回で3回目となる兵庫県大会は、20チーム40名が参加しました。昨年からの連続出場メンバーも7名おり、熱い戦いが繰り広げられました。

筆記クイズでは兵庫大会初となる100点満点を獲得したチームを始め、高得点チームが続出し、事前学習の余念のなさがうかがえました。決勝ラウンドでは大多数のチームが「預金」を選択する膠着状態が続く中、最初に「運用」を選択するという勇気ある決断を行った神戸女学院高等学部の「radius」が見事な大逆転を果たし、優勝となりました。

参加いただいた高校生や関係者の皆様のおかげで、非常に盛り上がり、楽しい大会となりました。今後も、高校生に楽しく金融知識への興味を持ってもらえるよう、取組んでいきたいと思っております。



優勝チーム
神戸女学院高等学部
「radius」



奈良大会

12月17日(日)開催

主催 **南都銀行**

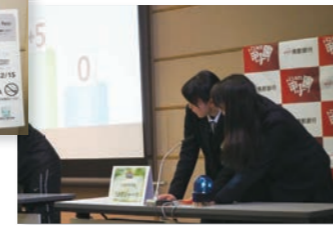
参加校一覧 西大和学園高等学校、智辯学園奈良カレッジ高等部、東大寺学園高等学校、帝塚山高等学校、天理高等学校、奈良工業高等専門学校、奈良学園高等学校

申し込みチーム数 29チーム(7校)

運営スタッフ感想 今回は2組が欠席し27チームでの対戦となりましたが、決勝は白熱したレベルの高い戦いが繰り広げられ、大いに盛り上がりました。ご参加いただいた高校生の皆さま、また、ご尽力いただきました関係各所の皆さま、ご協力ありがとうございました。



優勝チーム
東大寺学園高等学校
「あをによし」



和歌山大会

12月10日(日)開催

主催 **紀陽銀行**

参加校一覧 和歌山県立桐蔭高等学校、和歌山信愛高等学校、和歌山県立那賀高等学校、智辯学園和歌山高等学校、和歌山県立向陽高等学校、和歌山県立神島高等学校、開智高等学校、和歌山県立和歌山商業高等学校、和歌山県立田辺高等学校

申し込みチーム数 27チーム(9校)

運営スタッフ感想 和歌山大会は初めての開催でしたので、手探りでの準備作業で高校生の皆さんに楽しんでもらえるか不安もありましたが、皆さんから「楽しかった」「また来年も参加したい」「開催してくれてありがとう」などの言葉をいただき、大変嬉しく、今後ももっともっと楽しんでもらえるような大会にしたいと今から意気込んでいます。

大会を盛り上げてくれたのは、一生懸命勉強して真剣にチャレンジしてくれた参加者の皆さんです。ありがとうございました。また来年、皆さんと再会できること、新たに挑戦してくれる方に出会えることを楽しみにしています。



優勝チーム
智辯学園和歌山高等学校
「Red Blaze」



鳥取大会

12月9日(土)開催

主催 **山陰合同銀行**

参加校一覧 湯梨浜高等学校、鳥取城北高等学校、鳥取県立鳥取東高等学校、鳥取県立米子南高等学校、鳥取県立倉吉総合産業高等学校、鳥取県立鳥取西高等学校、青翔開智高等学校、鳥取県立鳥取商業高等学校

申し込みチーム数 25チーム(8校)

運営スタッフ感想 6回目となる鳥取大会には、開催史上最多となる24チームが参加しました。前日の雪の影響もあり、会場の外は厳しい寒さでしたが、高校生の熱気で寒さも吹き飛び、大変盛り上がる大会となりました。

予選ラウンド、決勝ラウンド共に白熱した戦いが繰り広げられ、接戦の末、湯梨浜高等学校の女性チーム「しずかちゃん」が全国大会の切符を手に入れました。鳥取大会の代表として、全国での活躍をスタッフ一同楽しみにしています。

ご参加いただきました高校生の皆さま、関係者の皆さまのご協力に感謝申し上げます。



優勝チーム
湯梨浜高等学校
「しずかちゃん」





島根大会

12月10日(日)開催

主催  山陰合同銀行

参加校一覧 開星高等学校、島根県立出雲商業高等学校、島根県立松江北高等学校、島根県立松江南高等学校、島根県立松江商業高等学校

申し込みチーム数 34チーム(5校)

運営スタッフ感想 6回目となる島根大会には、開催史上最多となる28チームが参加しました。開始までテキストを開いて真剣に勉強する高校生を見て、この大会にける熱い思いを感じました。決勝ラウンド「資産運用クイズ」では、最終問題まで優勝チームが予測できない手に汗握る展開となり、大いに盛り上がりました。接戦の末、松江商業高等学校の3年生チーム「ビッグドーナツ」が全国大会の切符を手に入れました。島根大会の代表として、全国での活躍をスタッフ一同楽しみにしています。ご参加いただきました高校生の皆さま、関係者の皆さまのご協力に感謝申し上げます。



優勝チーム
島根県立松江商業高等学校
「ビッグドーナツ」



岡山大会

12月17日(日)開催

主催  中国銀行

参加校一覧 岡山県立岡山操山高等学校、玉野市立玉野商業高等学校、岡山白陵高等学校、岡山県立倉敷南高等学校、岡山県立倉敷古城池高等学校、岡山学芸館高等学校、岡山県立笠岡商業高等学校、山陽女子高等学校、明誠学院高等学校、岡山商科大学附属高等学校、岡山県立岡山南高等学校、倉敷市立精思高等学校、岡山県立倉敷天城高等学校、岡山県立倉敷商業高等学校、岡山県立岡山芳泉高等学校

申し込みチーム数 45チーム(15校)

運営スタッフ感想 例年に比べ、参加数はすくなく、学校関係者や参加者の友人など観覧者も多くおこしになり、大会は大いに盛り上がりました。高校生の金融経済への関心が深めることができたと感じています。次回も高校生の期待に応えられる大会にしたいと考えています。



優勝チーム
倉敷市立精思高等学校
「チームわかば4」



広島大会

11月12日(日)開催

主催  もみじ銀行

参加校一覧 広島市立基町高等学校、広島県立総合技術高等学校、広島県立呉商業高等学校、広島県立広島高等学校、AICJ高等学校、広島県立広島商業高等学校、広島大学附属福山高等学校、広島女学院高等学校、広島大学附属高等学校、安田女子高等学校、広島県立広島井口高等学校、広島県立三次高等学校、広島学院高等学校、修道高等学校、広島市立広島商業高等学校

申し込みチーム数 37チーム(15校)

運営スタッフ感想 今年の広島大会は14校37チームの参加があり、県内の高校生にエコノミクス甲子園が浸透してきたと感じました。早押しラウンドでは、高校生、観客、そしてスタッフまでもがクイズや応援に熱くなり会場は熱気に溢れていました。また、今年の決勝ラウンドは広島大会で初めて女性チームが優勝し、観戦に来られた学校の先生と手を取り合って喜んでおられました。大会が終わり高校生たちからは「こんなに楽しい大会とは思わなかった!」「来年も絶対に参加します。」と沢山の声を聞くことができ、私たちスタッフも達成感に満ちています。



優勝チーム
安田女子高等学校
「なしりんご」



山口大会

11月19日(日)開催

主催  山口銀行

参加校一覧 大島商船高等専門学校、山口県立宇部高等学校、誠英高等学校、下関市立下関商業高等学校、梅光学院高等学校、慶進高等学校、山口県立下関西高等学校、山口県立西京高等学校、聖光高等学校、山口県立防府商工高等学校、宇部鴻城高等学校、早鞆高等学校、野田学園高等学校

申し込みチーム数 28チーム(13校)

運営スタッフ感想 今回で6回目となる山口大会は、熱意いっぱいの13校27チームの参加となりました。3年連続での出場となるチームや、昨年のリベンジに燃えるチームなど、大会にける意気込みあふれる展開となりました!

白熱の決勝ラウンドを制したのは、大島商船高等専門学校「レクセル彗星」!筆記クイズ、早押しラウンドから気合十分で、大会を牽引した二人が見事優勝を納めました。

全国大会の舞台でも彗星のように輝く活躍を期待しています!参加者の皆さん、保護者・高校関係者の皆さま、山口大会にご協力いただきありがとうございました。



優勝チーム
大島商船高等専門学校
「レクセル彗星」





徳島大会

12月16日(土)開催

主催 阿波銀行

参加校一覧 阿南工業高等専門学校、徳島県立脇町高等学校、徳島県立川島高等学校、徳島県立高等学校、徳島県立城東高等学校、徳島県立城ノ内高等学校

申し込みチーム数 14チーム(6校)

運営スタッフ感想 初出場の方が多く、硬くなると思いきや、他校の生徒を含めお互いをリスペクトしあう雰囲気の良い大会となりました。また、予選を含め、飛び抜けたチームがないデッドヒート、最後の最後まで全チームに優勝の可能性がある戦いが繰り広げられました。優勝は、正直良い思い出を作りたいと語っていた「しよこら」となりましたが、決勝のパートナーを信頼した戦略は見事だったと思います。是非全国大会でも、パートナーとの絆を大切に、臨んでいただきたいと思ひます



優勝チーム
徳島市立高等学校
「しよこら」



香川大会

12月10日(日)開催

主催 百十四銀行

参加校一覧 香川県立高松高等学校、香川県立丸亀高等学校、香川県立高松桜井高等学校、香川県立小豆島高等学校、香川県立観音寺第一高等学校、香川県立大手前高松高等学校、香川県立高松西高等学校、高松第一高等学校

申し込みチーム数 25チーム(8校)

運営スタッフ感想 今年は8校 25チーム 50名の高校生にご参加いただきました。女子生徒の参加数も多く、とても華やかな大会になりました。第2ラウンドの早押しクイズ、決勝ラウンドともに大いに盛り上がり、特に決勝ラウンドでは、当初はどのチームも「預金」を選択するという固めの戦略でしたが、「運用」を選択したチームが一人勝ちすることがきっかけとなり、「運用」で果敢に攻め込んでいくチームが出るなど白熱した戦いとなりました。この戦いを制したのは高松高等学校「もさもさ」で、予選6位通過からの逆転勝利となりました!参加された高校生からは「また来年も参加したい」「楽しかった」という声が多く聞かれ、私たちスタッフも達成感に満ちています。来年も多くの高校生に「参加してよかった」と思っただけのような大会にしたいと思います。



優勝チーム
香川県立高松高等学校
「もさもさ」



愛媛大会

12月10日(日)開催

主催 伊予銀行

参加校一覧 愛媛県立三崎高等学校、愛媛県立今治北高等学校、愛媛県立松山西中等教育学校、愛媛県立西条高等学校、愛媛県立大洲高等学校、愛媛県立宇和島高等学校、愛媛県立松山南高等学校、愛媛県立土居高等学校、愛媛県立松山東高等学校、愛光高等学校、愛媛県立小松高等学校、愛媛県立今治西高等学校、松山東雲高等学校、愛媛県立川之江高等学校、愛媛県立松山北高等学校、愛媛県立宇和島中等教育学校

申し込みチーム数 30チーム(16校)

運営スタッフ感想 今大会は参加チームが定員の30チームに達し、また例年と同様ショッピングセンターでの開催ということで、多くの観客の皆さまが見守る中、大いに盛り上がった大会となりました。参加されたとのチームの生徒も大会に向けてしっかりと準備しており、非常にレベルの高い熱戦が繰り広げられ、決勝ラウンド後、悔し涙を浮かべる生徒もいるなど、生徒たちの熱意が改めて伝わり、スタッフも感動させられました。今後もエコノミクス甲子園をきっかけに「金融」や「経済」に少しでも興味を持ち、将来の「生きる力」を身に付けることのできる高校生を増やしていけるよう支援して行きたいと思ひます。最後になりましたが、愛媛大会開催にあたりご支援を賜りました金融知力普及協会の皆さま、ご後援を賜りました皆様に心より感謝申し上げます。



優勝チーム
愛媛県立今治西高等学校
「螢雪」



高知大会

11月26日(日)開催

主催 四国銀行

参加校一覧 高知市立高知商業高等学校、高知県立山田高等学校、高知県立安芸高等学校、土佐女子高等学校、土佐塾高等学校、高知学芸高等学校

申し込みチーム数 22チーム(6校)

運営スタッフ感想 本年は前回を上回る21チーム(初出場校1校を含む)42名が参加し、予選から決勝ラウンドまで熱戦が繰り広げられました。決勝ラウンドでは予選2位の高知学芸高等学校「ヒイラギ」が優勝を成し遂げ、全国大会の切符を手に入れました。当日の様子を高知ケーブルテレビの年末30分番組で計10回放映をいただく他、地元新聞の記事にも掲載いただきました。参加者の感想では「他校の生徒との交流を深めることができ、良い刺激となった」、「金融について興味があった」、「参加できて楽しかった」、「次回も参加したい」といった感想をいただき、スタッフも大変嬉しく感じております。今後さらに多くの高校生に参加いただけるような大会にできるように趣向をこらしていきたいと思ひます。



優勝チーム
高知学芸高等学校
「ヒイラギ」





福岡大会

12月10日(日)開催

主催 北九州銀行

参加校一覧 久留米大学附設高等学校、福岡県立筑紫丘高等学校、北九州市立高等学校、大牟田高等学校、福岡県立修猷館高等学校、福岡県立育徳館高等学校、久留米信愛女学院高等学校、福岡雙葉高等学校、福岡工業大学附属城東高等学校

申し込みチーム数 21チーム(9校)

運営スタッフ感想 今回の福岡大会は、冬の寒さを吹き飛ばす熱い戦いとなりました!第2ラウンドの早押しクイズでは、観戦しているチームが「がんばれ!」とお互いに声援を送るなど、にぎやかで温かい雰囲気が進みました。決勝ラウンドでは、昨年のリベンジを誓って再挑戦した福岡工業大学附属城東高等学校の「比較生産費説」チームが見事優勝を収めました!全国大会の活躍をお祈りしています。参加者の皆さん、ご協力いただきました高校の皆さま、関係者の皆さま、本当にありがとうございました。



優勝チーム
福岡工業大学附属
城東高等学校
「比較生産費説」



佐賀大会

12月10日(日)開催

主催 佐賀銀行

参加校一覧 早稲田佐賀高等学校、佐賀県立鳥栖商業高等学校、弘学館高等学校、佐賀県立神埼清明高等学校、佐賀清和高等学校、佐賀県立佐賀商業高等学校、佐賀県立唐津商業高等学校、佐賀県立致遠館高等学校、佐賀学園高等学校、佐賀県立杵島商業高等学校、佐賀県立佐賀西高等学校、佐賀県立鳥栖高等学校

申し込みチーム数 22チーム(12校)

運営スタッフ感想 今大会は12校20チームが参加しました。前回佐賀大会の優勝、準優勝チームが再び参戦し、決勝ラウンドでも順調に得点を伸ばしましたが、終盤の大逆転劇で、弘学館チームが見事優勝しました。単に知識や学力があるだけでは優勝できないシステムで、問題ごとにトップが入れ替わる状況に、予選敗退のチームも観客席から大いに盛り上がりました。参加者からは「楽しかった」「ドキドキした」といった感想とともに、「経済は奥が深い」「知識不足だったので勉強していきたい」といった感想も寄せられ、将来に繋がる意識も培えました。



優勝チーム
弘学館高等学校
「弘学館」



長崎大会

12月3日(日)開催

主催 十八銀行

参加校一覧 長崎県立佐世保商業高等学校、長崎女子商業高等学校、青雲高等学校、長崎県立諫早商業高等学校、長崎県立長崎西高等学校、長崎南山高等学校、長崎日本大学高等学校、精道三川台高等学校

申し込みチーム数 15チーム(8校)

運営スタッフ感想 今回で8回目となる長崎大会は、前年度の優勝者 長崎西高等学校2年生チーム「パイナップル再び」がその名の通り、優勝しました。「期末テストの勉強をしながら取り組んだ」という高校生が多い中、筆記クイズから高得点の争いが見られました。決勝ラウンドでは、デッドヒートを繰り広げ、白熱した試合展開となりました。「預金」、「運用」の選択による獲得点数が表示されると、決勝ラウンド進出者のみなさんは一喜一憂し、会場も大いに盛り上がりました。高校生のみなさんはもちろんのこと、当りスタッフにとっても楽しい大会となりました。今後さらにも多くのチームに参加していただけるよう工夫していきたいと思えます。



優勝チーム
長崎県立長崎西高等学校
「パイナップル再び」



宮崎大会

11月12日(日)開催

主催 宮崎太陽銀行 宮崎銀行

参加校一覧 宮崎第一高等学校、宮崎県立宮崎南高等学校、宮崎学園高等学校、宮崎県立宮崎西高等学校、宮崎県立宮崎北高等学校、宮崎県立宮崎大宮高等学校

申し込みチーム数 20チーム(6校)

運営スタッフ感想 決勝ラウンドでは複数チームが、近い所持金で10問目を終える接戦となりました。手作りの大会で、当日の運営で小さな失敗もありましたが、参加いただいた高校生、観客の皆さんの理解や、司会のアナウンサーの方のサポートや理解もあって、アットホームな宮崎県大会だったのではないかと感じています。



優勝チーム
宮崎県立宮崎大宮高等学校
「けしうはあらず」





鹿児島大会

12月17日(日)開催

主催 鹿児島銀行

参加校一覧 鹿児島県立鹿児島南高等学校、鹿児島県立甲南高等学校、鹿児島県立鹿屋高等学校、鹿児島県立加世田高等学校、鹿児島実業高等学校、尚志館高等学校、ラ・サール高等学校、鹿児島県立鶴丸高等学校、鹿児島県立明桜館高等学校

申し込みチーム数 23チーム(9校)

運営スタッフ感想 初参加校が4校あり、盛り上げ役となりました。初参加予定の加世田高等学校がインフルエンザのため、不参加となったのは残念でした。決勝ラウンドの前半は全チーム正解が多く、「運用」が生かされない展開となりましたが、後半は「運用」による逆転劇があり、大変盛り上がった大会となりました。ラ・サール高等学校の「QLIA」が昨年優勝チームである鶴丸高等学校に雪辱を果たし、優勝しました。



優勝チーム
ラ・サール高等学校
「QLIA」



沖縄大会

12月9日(土)開催

主催 沖縄銀行

参加校一覧 沖縄尚学高等学校、昭和薬科大学附属高等学校、沖縄県立那覇国際高等学校、沖縄県立開邦高等学校、沖縄県立球陽高等学校、沖縄県立首里高等学校、沖縄県立南部商業高等学校、沖縄カトリック高等学校、沖縄県立名護商工高等学校、沖縄県立与勝高等学校、沖縄県立小禄高等学校、沖縄県立浦添高等学校、沖縄県立向陽高等学校

申し込みチーム数 40チーム(13校)

運営スタッフ感想 当日は4組のキャンセルが出て、36組の参加となりました。決勝ラウンドでは出場高校が重なることもなく、初参加の高校も決勝へ進出し優勝する等盛り上がりしました。昨年の優勝チームが決勝まで進出し、緊張感のある決勝ラウンドとなりました。「預金」と「運用」の選択で明暗が分れる場面もあり、最後まで結果がわからず面白かったです。今回は、会場移動がなかったので進行はスムーズに行えました。



優勝チーム
沖縄県立球陽高等学校
「3K宇宙放射」



インターネット大会

12月17日(日)開催

主催 住信SBIネット銀行

参加校一覧 京都明徳高等学校、聖ウルスラ学院英智高等学校、立命館高等学校、大阪府立八尾高等学校、聖光学院高等学校、大分東明高等学校、芝浦工業大学柏高等学校、安田女子高等学校、石川県立金沢商業高等学校、渋谷教育学園渋谷高等学校、岩田高等学校、北海道釧路北陽高等学校、神奈川県立横須賀高等学校、島根県立横田高等学校、愛知県立木曾川高等学校、北海道音更高等学校、野田学園高等学校、茨城県立下妻第一高等学校、三浦学苑高等学校、栃木県立大田原高等学校、栃木県立石橋高等学校、茨城県立水戸第一高等学校、長野県松本深志高等学校

申し込みチーム数 34チーム(23校)

運営スタッフ感想 今回で6回目の開催となるインターネット大会では、現在話題となっている「仮想通貨」や「AI」など時事的な問題を中心に出题いたしました。インターネットを通じての大会ですので、他の大会と違って非対面での開催となりますが、皆さんの高レベルな回答を見て、熱心に取り組まれている皆さんの姿が目に見えようでした。この大会をきっかけに金融経済に興味を持って理解を深めて頂ければ、大会実施者として大変嬉しく思います。ご参加いただいた高校生の皆さま、開催にあたりご尽力いただいた関係者の皆さま、本当にありがとうございました。



優勝チーム
島根県立横田高等学校
「だんだん」

住信SBIネット銀行特別賞
(論述問題で特に優秀だった2
チームに贈られます)
神奈川県立横須賀高等学校
「りくぶ」
渋谷教育学園渋谷高等学校
「たむちゃんず」

台北大会

主催 東京スター銀行

運営スタッフ感想 前回大会に引き続き海外チームの招聘を行うとのことで、台北代表チームとして参加した国立台湾師範大学附属高級中学ペアをサポートいたしました。

日本で、かつ、全て日本語で開催される大会への参加は、台北代表ペアにとっては決して簡単なことではありませんでしたが、全国大会に向けての事前準備も含めて、エコノミクス甲子園に参加したことは非常に有意義な体験になったと思います。

私達の応援が、少しでもお役にたてたのであれば、大変嬉しく思います。



国立台湾師範大学附属高級中学
「怠惰のゴッドイーター」



1 日目

エコノミカ大会

2月16日金曜日、各都道府県で行われた地方大会を優勝した高校生たちは、前もって配られていた、「経済トレーディングカードゲーム エコノミカ」の大会に参加しました。

エコノミカは、対戦型のカードゲームでありながら、投資の持つリスクとリターン、円安と円高などの関係性についても学べ、その場の判断力や決断力など実際の投資でも求められる勝負強さも身につく優れたものです。

上位入賞者には賞品も用意され、参加した高校生たちは優勝目指して戦いながら、親睦を深めました。

2 日目

■ プレゼンテーションラウンド
「地域から日本を元気にするビジネスを考案せよ! 2020×ローカル」

毎年恒例になっているプレゼンテーションラウンド。今年のテーマは地域とビジネスを結び付け、4チームで作られた全12グループが、くじで引いた都道府県を舞台に「地域から日本を元気にする」ビジネスプランを提案しました。

また基調講演として、旅行サイト「一休.com」の創業者で、現在は株式会社ウィーンの森代表取締役社長の森正文様に登壇していただき、現在の活動やその理念についてお話をいただきました。

プレゼンテーションはパソコンでスライドを作って行い、予選審査を勝ち抜けた上位3チームが、高校生や地方大会主催金融機関の方、審査員の方など約200名を前に決勝プレゼンを行いました。

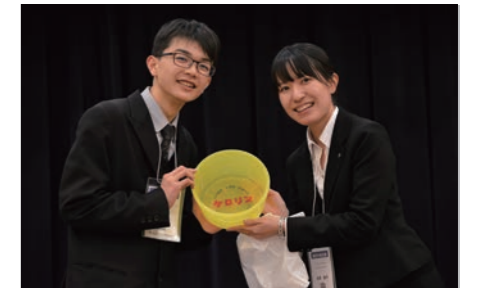
どのチームも実現性や収益性も考慮しつつ、発想力豊かなビジネスモデルを考案し、発表の仕方やスライドも工夫しながらプレゼンテーションを行いました。

その結果、山梨県を舞台にした観光アプリケーションを提案した、岐阜、知徳、ラ・サール、球陽の4チームからなるFチームが優勝しました。



■ 前夜祭

高校生は、プレゼンテーションが終了して間もなく前夜祭に参加しました。プレゼンテーションの健闘をお互いに称えあう姿や、来賓の方と楽しく交流する様子がとても印象的で、和やかな一幕となりました。前夜祭では、スポンサーや各地方大会主催金融機関の方に提供していただいた各地の物産品が当選するビンゴ大会が行われ、大いに盛り上がりました。このビンゴ大会では、ビンゴシートのマスをうめるために他の参加者の氏名、出身地を記入します。そのため、出会ったばかりの高校生もご来賓の方々もみなさん積極的に会話を楽しんでいました。



■ 筆記ラウンド

前夜祭での楽しい雰囲気もつかの間、その後待ち構えていたのは筆記クイズでした。高校生たちは、慣れない環境で疲れている中、地方大会の筆記クイズより難易度が高い問題や、地方大会には無い記述問題に挑みました。今年は全国大会でも2人ペアで協力しながら解く形式で、互いに得意な分野を解いたり、相談したりしながら一生懸命挑んでいました。





3日

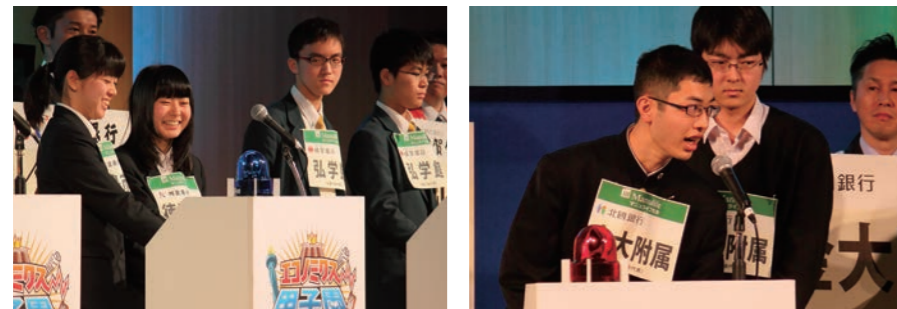
■ 第1ラウンド 「タイミングが命!インフレ早押しクイズ!」

エコノミクス甲子園名物の早押しクイズは、6チーム1組で行われ、1組3問の早押し問題が出題されました。1問目から段々と難易度が上がるにしたがって獲得できるポイントも10ポイント、20ポイント、30ポイントと上がります。しかし、各チーム3問通して正誤に関わらず1度しかボタンを押すことができません。高校生たちは何問目で押すか悩みながら解答していました。

2日に行われたプレゼンテーションラウンド、筆記ラウンド、そしてこの3日目の第1ラウンドの合計点により、準々決勝に進む12チームが決まりました。

準々決勝進出チーム

ラ・サール、岐阜、藤島、新潟明訓、大阪星光、球陽、知徳、安田女子、宇都宮、土浦第一、福島、長崎西 以上12チーム



■ 第2ラウンド 「寄せろ!ニアピン勝ち抜けクイズ!」

第1ラウンドで準々決勝進出を決められなかった35チームが2組に分かれて勝ち抜けを争うこの第2ラウンド。そのルールは、まず全員で4択の問題に解答し、その正解チームのみが近似値クイズと呼ばれる答えが数字になるクイズにボードで答え、最も正解に数字に近い1チームが勝ち抜けを決めるというものです。松江商業は日本を訪れた外国人の数をほぼ正確に当てて、勝ち抜け、会場からは驚きの声があがっていました。これを繰り返し、各組4チーム、計8チームが準々決勝進出を決めました。

準々決勝進出チーム

福工大城東、松江商業、宮崎大宮、青森、渋谷幕張、古川黎明、横田、守山 以上8チーム

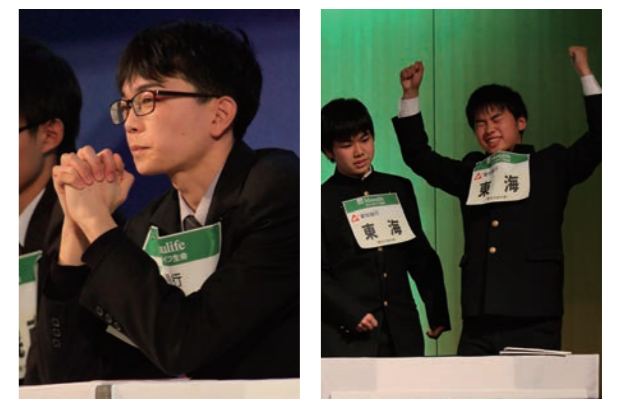


■ 第3ラウンド 「時は金なり!タイム・イズ・マネー・クイズ!」

準々決勝進出最後のチャンスとなる第3ラウンドは、ペアの2人がそれぞれ1分間で12問の3択クイズを解く「タイム・イズ・マネー・クイズ」。第9回大会でも人気だったこのルールに27チームが2組に分かれて挑み、合計正解数が多かった各組2チーム、計4チームが最後の切符を手に入れました。

準々決勝進出チーム

四ツ葉、東海、早稲田、東大寺 以上4チーム



■ 準々決勝 「崖っぷち!監理ポストクイズ!」

第1ラウンドから第3ラウンドまでのそれぞれの勝者、24チームが2組に分かれて争う準々決勝は、生き残りをかけたサバイバルゲーム。初めに第1ラウンドから勝ち抜けたチームは帽子2つ、第2ラウンドから勝ち抜けたチームは帽子1つ持ち、第3ラウンドからのチームは帽子が無い状態からスタートします。ボードに書いて答える形式の問題に間違える度、帽子が一つ没収され、帽子が無い状態で間違えると失格になります。つまり、第3ラウンドから勝ち抜けたチームは1問も間違えられない厳しい状態で戦いました。2組でそれぞれ4チーム、計8チームが準決勝へ進出しました。

準決勝進出チーム

ラ・サール、藤島、知徳、大阪星光、安田女子、長崎西、岐阜、土浦第一 以上8チーム



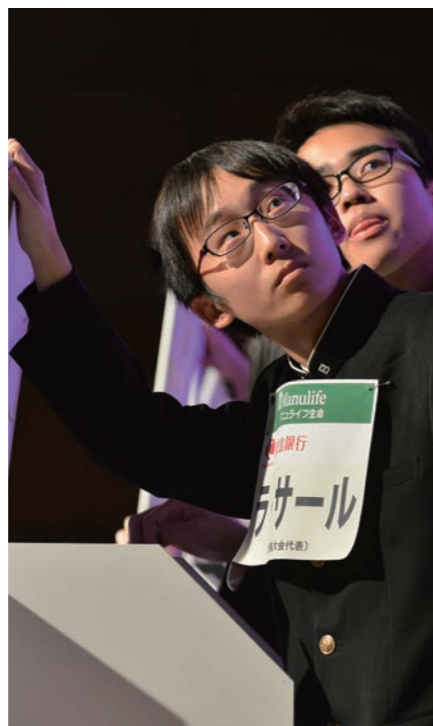


■ 準決勝 「競り落とせ!区画整理クイズ!」

8チームで争われる準決勝はオークションを題材にした、戦略を問われるラウンドでした。正解するたび得られる資金でオークションに出品される土地を買収していきます。1番高い入札額を提示したチームがその額で土地を落札しますが、2番目に高い入札額を提示したチームは、土地を貰うことはできないうえ、その提示額は支払わなければなりません。難問に正解しながらも、オークションの場面では他のチームの状況を見ながら、いくら入札してくるかを読み合う熱戦は、大いに盛り上がりました。

決勝戦進出チーム

ラ・サール、安田女子、長崎西、土浦第一 以上4チーム



■ 決勝戦 「見極めろ!風説の流布クイズ!」

全国1297チームの頂点を定める決勝戦は、例年とは一味違うルールで行われました。出される問題は金融・経済用語の正しい説明を選ぶ5択クイズ。ただし、正解以外の4つの選択肢は、それぞれ決勝戦に参加する4チームがその単語だけを見て作った嘘の説明をしたものです。各チームは1~3ポイントを賭けて解答し、正解すると賭けたポイントが倍に、間違えたとその偽物の選択肢を作ったチームにポイントが渡ります。正解を当てるだけでなく、いかに上手に偽物の選択肢を作るか、より高度な知識が問われました。決勝戦はどの高校が勝つか最後まで分からない見ごたえがあるものとなり、幾度もの逆転を経て、長崎西高校が優勝をつかみ取り、第12回エコノミクス甲子園は幕を閉じました。

最終成績

- 優勝 長崎代表 長崎西
- 準優勝 広島代表 安田女子
- 3位 鹿児島代表 ラ・サール
- 4位 茨城代表 土浦第一





長崎県立長崎西高等学校
山口 温大

雪だ。2018年4月2日、ニューヨーク2日目、La Guardia 空港は雪に覆られていた。この日はボストンに飛び、マンハッタングループ会社である John Hancock 社を訪問、ハーバードにも行く予定だった。それが、朝起きると、外は雪である。もう4月なのに。次のフライトがあることを信じ、空港までは行ったものの、結局飛行機は飛ばず、ボストン行きは断念することになった。こうして、アクシデントから始まったNY研修旅行であったが、今、振り返ると本当に充実した6日間だった。

4月1日。長崎空港から羽田空港、羽

田空港から約13時間のフライトの後、ニューヨーク、JFK 空港に到着した。ホテルにチェックインし、近くの店でサンドイッチを食べた後、自然史博物館に行った。映画「ナイトミュージアム」でも馴染みの動物の剥製や恐竜たちに会うことができた。次に行ったのはタイムズスクエア。テレビでもよく見るが、本当にすごい。まさに映像建築だ。通りにはたくさんの人種の人が行き交っていた。本当にNYに来たのだなと感ずることができた。移動には主に、地下鉄を使ったのだが、ホームにはゴミが多く、ネズミまでいた。メトロカードというチャージ式の回数券があるのだが、磁気カードで壊れやすい。地上の道路も穴があいて凹凸が多い。NYのインフラは老朽化が進んでいるようだった。とはいってもその古さがニューヨークのおしゃれな雰囲気を演出して

いる。日本ではインスタ映えが流行っているが、NYはインスタに上げるのも憚られるほどのおしゃれな街だ。

2日目も、ボストン行きを断念したあと、観光をすることができた。バッテリーパークから自由の女神像を眺め(リバティ島行き船には長蛇の列が出来ていて断念した)、グラウンド・ゼロ、フェデラルホール、インディアン博物館などに行った。ウォールストリートの名物、ブルとも写真を撮った。この日は水谷さんの美味しいお好み焼きを頂き、翌日に備えた。

3日目。待望の企業訪問が始まった。最初に伺ったのが Russel Investment だ。Russel ではマルチマネージャー、マルチアセットの話聞いた。Russel では、世界中のファンドマネージャーを調査し、格付けし、ファンズオブファンドを構成しているようだ。

だ。代わりに、フィンテックが盛んになる中で、金融業の周辺の仕事には発展があるのではとおっしゃっていた。将来の仕事を考えている自分にとってはとても参考になる話だった。この後、とても美味しいステーキをご馳走になった。ありがとうございました。

4日目は午前中にメトロポリタン美術館に行った。本当に巨大な博物館で、1時間くらいではとても見きれなかったが、エジプトの遺跡やゴッホの自画像など、有名な作品の本物を見ることができた。世界史を勉強していない理系の僕達にも楽しむことができたが、世界史を勉強している人はもっと楽しんだらう。

その後、日本領事館に伺った。ここには財務部があり、金融の最先端であるニューヨークで調査等を行っているようだ。ここでも様々な話を伺うことができたが、最も印象

に残っているのは「マインド」についてだ。日本では長いデフレの影響で、いわゆる「デフレマインド」が染みついていて、アメリカでは積極的に投資を行う、前向きな姿勢があるようだ。確かに、ニューヨークの物価はかなり高い。これには旅行者としては不満を抱いていたが、この物価の高さが経済を支えていると考えてみると納得がいく。また、日本では家計の約半分が預金で運用されているが、アメリカでは、投資信託、株などへの投資の割合が大きい。(これには、公的年金制度の有無なども影響している。)更に、アメリカの企業は、決断力が強く、投資を積極的に行うようだ。このような、お金を積極的に使おうという「マインド」がアメリカ経済の強さを支えているということだ。そしてもう一つ、強調されていたことが、日本のアメリカでの存在感の低下だ。これ

は街を観光していても感じられることだ。例えば、NYの地下鉄の券売機には、韓国語、スペイン語などの表示があっても、日本語の表示がないことがある。しかも、最近導入された機械ほど、日本語がないことがあった。バブル景気時代にはアメリカ人に恐れられるほどだったそうだが、今では存在感が低下していることを感じる事ができた。領事館の方は、「これを冷静に受け止め、真のグローバル化に備える必要がある」とおっしゃっていた。

金融の企業も今は、ウォールストリートからミッドタウンへと移動しているそうだが、次に訪れたのはウォールストリートにオフィスのある大和投信だ。重厚感あるオフィスからブルックリンを眺めることができた。ここではアナリストの仕事についてのお話を聞くこと



頂いた資料の中に、大型株、小型株、債権、現物資産、コモディティーなど様々なアセットの各年のパフォーマンスを示す資料があったが、それを見ると、毎年、示すパフォーマンスが異なっていた。このようなデータを分析し、クライアントの要望に合うアセットアロケーションを考えているのだろうか。

建築が美しいニューヨーク市立図書館に寄った後、次はCITIに伺った。広いトレーディングルームに入ると、大量のモニターに圧倒される。1人につき6枚ほどのモニターが置かれていた。ここでは、株、債権などの調査部門、実際の取引部門などにエリアが分かれていて、お話を伺った川村さんは、アジア株の調査を担当されているようだ。時差を考えると、アメリカからアジアでの取引を行うのは難しいのではないかと考えていたが、やはり、時差の問題のため

デイトレードよりも中長期的なアジアへの投資が盛んであるようだ。日本市場の世界からの注目度をお聞きすると、「低い」とおっしゃっていた。日本の市場は変動が少なく、利益を得る機会が少なく、注目度はかなり低いようだ。これは日本人として残念に思った。しかし、この事実は、この後の研修でも度々聞くことになる。

次に、Bloomberg社へ伺った。ここは、金融の情報を提供している会社だ。ここでのオフィスの綺麗さには感動した。オフィスの壁はほとんどが透明なガラス張り、誰が何をしているかが簡単に分かるようになっている。壁にはいくつも水槽があったり、大きなホールには無料のドリンク、お菓子、フルーツが大量に置かれていたりしている。株価の変動で色が変わる照明などもあった。ここでは出身地などの多種多様なバックグラウンドを

持つ優秀な社員が働いて、その人たちが快適に、生産性の高い仕事ができるようになってきた。このオフィスには強い憧れを抱いたが、優秀な社員がいるからこそ、このようなオフィスを作り、生産性を上げることができるのだらうと感じた。

次に、ヘッジファンド、Tiger Pacific Capitalに伺った。ここでは、世界中の様々な会社を調査し、株価が割高、割安のバリューストックを探しだすことを行っているようだ。NYにいて、逆に、日本にいても会えない日本企業の社長などとも会うことができるとおっしゃっていたのは意外だった。武神さんには様々な話を伺ったが、中でも、「将来、金融の仕事はお勧めしない」という言葉が印象的だった。金融業そのものにはこれ以上の発展が見込めず、同じ大きさのパイの奪い合いになるのではということ

ができた。アナリストは株などを分析し、割高か割安かを考えるのだが、その調査には、PERなどの数値を見る定量的調査と企業面談などを行う定性的調査があり、最近では、定性的調査の重要性が増しているようだ。企業訪問をしてオフィスが整理整頓されているかを見ただけで、企業の今後が分かるという話も面白かった。

この日の夜はオブロードウェイのミュージカル、ストンプを見に行った。時差に慣れず眠れていなかったことで睡魔に襲われたりもしたが、言語を全く使わないエンターテインメントは面白かった。

5日目。物価が高いと言いながらデリで朝食を食べた後、NYSE、ニューヨーク証券取引所に行った。NYSEにはアメリカのみならず、世界中の企業が上場していて、本当に国際的な取引場となっている。はじ

めに、お話を伺ったのだが、近年は中国企業のIPOが多いという話が印象的だった。最近上場した企業の社長の写真や、会社のロゴマークが表示されているモニターなどが多くあったが、確かに、中国企業が多かった。その後、念願のトレーディングルームに足を踏み入れた。テレビでよく見る、あの場所だ。株価が表示されている電光掲示板、慌ただしく動く人々。あの憧れの光景だ。午前9時30分。取引開始を告げるオープニングベルが鳴り響く。取引所内にあるテレビスタジオでも中継が始まる。毎日行われていることなのだろうが、活気に満ち溢れているように感じた。この活気こそが、ここNYが金融の最先端たる所以なのかもしれない。

この後は、国連本部、トップ・オブ・ザ・ロック、エンパイアステートビル(人が多すぎて

上れなかった)などに行ったり、買い物を楽しんだりした。

6日目。食料調達に通ったスーパーや、6日間暮らしたホテルに別れを告げ、JFK空港へ。空港ではラウンジに入れさせていただいた。初日に借った時差の13時間を清算し、あとは羽田、長崎へと帰るだけだ。振り返ると、最高の5泊7日の旅だった。金融の最先端を見たり、自分の足りないところを認識したり、と本当に実りある研修旅行だった。次にNYに来るときは相応のコミュカと英語力を持って来たい。また来れますように。

この研修旅行を企画、引率してくださった金融知力普及協会の鈴木さん、水谷さん、大学生スタッフの亀山さん、山田さん、訪問を受け入れてくださった方々、本当にありがとうございました。



長崎県立長崎西高等学校
深松 恵杜

4月1日 長崎空港を早朝出発し、20分遅れで羽田空港に到着。

そこから国際線ターミナルへ行き、ニューヨークへと飛び立った。13時間越えのフライトでかなり疲労もあったが無事にニューヨークに到着した。一度ホテルに行き、そこからアメリカ自然史博物館へ。恐竜の化石や古代の生物の剥製などがあった。日本コーナーもありとても驚いた。

一番印象深かったのは、アメジストが析

出している岩石が天井近くまであり、これほど大きいものは今まで一度も見たことがなかったので感動した。その後タイムズスクエアへ。たくさんの電光掲示板があり、ここが世界の中心といっても過言ではないくらい派手で凄く圧倒された。ホテルへと戻り次の日のポストンに向けて早めに就寝した。

2日目、起きてみると外は真っ白。まさかの雪。4月なのに。

鈴木さんのもとに飛行機の変更についてのメールが届くなど朝から少しパニックになっていた。空港に何度も電話し、やっと繋がると、別の便の目度立ち、とりあえずラガーディア空港へ。雪が積もっている高速道路を進み空港に到着すると振り換えた飛行機

もキャンセルに。鈴木さんがカウンターで話をすると次の便は1時だったがその便も3時に順延し、あえなく断念。ホテルに戻り午後からニューヨーク市内散策へ。自由の女神に行こうとしたが、600m程の行列ができており諦めた。その後9.11メモリアルパークなどに行った。雪の積もったニューヨークというめったにない景色を経験できたのは大変よかった。

3日目、朝からRussel Investmentsへ。ここはマルチマネージャーという企業を業績などでランク付けしていく会社である。今回私が英語で苦戦したのが2か所ありそのうちの1つがここであった。専門用語のオンパレードで半分以上聞き取れず頂いた資料



4日目、急遽午前がオフになり、メトロポリタン美術館へ。1時間という短い時間だったがテレビでよく見るゴッホの自画像やモネの水蓮など見るのができ、満足のできるものであった。

午後から日本領事館へ。藤山さん、久米さん、田中さんから様々な話をいただいた。その中でも特に印象に残ったのはチップについてとトランプ大統領についてだった。チップは、数十年前は通常8%であったが今では20%近く支払わなければならないということでチップも値上がりをするのかととても驚いた。トランプ大統領はツイッターでのツイートが日本でもかなりの頻度でニュースになるが投資家達は今まで政策をあまり実

現できていないことから意外と冷静に聞きださぶ温度差があると思った。

その後大和投信へ、塩田さんからリサーチ部について教えていただいた。また近年大手の金融関係の会社はウォール街からミッドタウンの方へと拠点を移していると聞き時代の波を感じた。また大和投信はラテンアメリカ株も取り扱っていて、やはり振動が激しいそうできちんと見極めていく必要があるとおっしゃっていた。

その日の夜、STOMPというショーを見に行った。これは楽器ではなく体や身の回りのものを使ってリズムを奏でるもので英語が出てこなかったので十二分に楽しめた。しかし途中から全て同じリズムに感じることもあっ

たので半分の時間なら簡潔でより良かったかもしれないがかなりおすすめできるものだった。今後ニューヨークに行く人は是非参考にしてほしい。

5日目 待ちに待ったNYSE ニューヨーク証券取引所へ。ここではまず話を聞いた。一番印象に残ったのは中国の台頭についてだった。今では日本よりも中国の方が活発で取引所内に主な金融に携わる方々の写真があり、一際大きかったのはアリババの社長の写真だった。日本は最近世界で力がなくなってきていると改めて感じた。そしてテレビなどでよく見る多くの画面がある所へ、今年取引開始の時を見学できた。テレビ番組も撮影されていた。画面は取引



を見てやっと理解できた。その後、ニューヨーク市立図書館へ、図書館とは思えない見目で蔵書数も多くお土産コーナーもあり、観光地みたいだった。

次にcitiへ。ここではWangさんの引率のもと主に日本の株を扱う川村さんから話を聞きした。今、世界の目が日本に向かなくなってきているとおっしゃっていた。アベノミクス後株価が動き、注目されていたが、安定してきた今はそうではないということだった。またリサーチ部という企業の製品や業績などを細かく調べ、その上で今後どうなるかを予測し、投資家に提示する仕事を詳しく知ることができた。

次にBloombergへ。このオフィスには度肝を抜かれた。まず形が円錐の下の方で中心部分がえぐりとられたような形をしていて、中は壁があまりなく広々としていた。そして何より驚いたのは休憩スペースがとても広くあり、ここなら様々な部門の人が自由に話ができ、より柔軟なアイデアが生まれそうと思った。日本でもこのようなオフィスが増えるよと思った。ここでも半分ほどしか英語が聞き取れず、自分の英語不足を改めて感じた。

夕方からタイガーマネジメントの武神さん、金さんのもとへ。オフィスが高層階にあっ

たが、生憎の天気でも何も見えず残念だった。ここでも日本経済についての話をした後、最後に今、日本で流行っているものを問われ、咄嗟に出てこなかった。おそらく外国人に同じことを聞かれても同様の反応だっただろう。こんな時に備えておくことがこれから日本をアピールしていく上で大切だと思う。また金さんからは将来目指している薬学の話もお聞きできたのでよかった。その後お二方と一緒にステーキをご馳走になった。見たことないほど分厚いステーキはとてもおいしかった。その間にも様々なジャンルの話をし、同じ話題でもこういった違う見方でもできるのかとまた勉強になった。

が終了した日経などを映していた。辺りを見回していると段々と騒がしくなりベルがなり拍手とともに取引スタート。同時に画面が切替わる。グラフが動き始め、活気づく場内。それはもう感動以外の何物でもなかった。その後水谷さんから「今は証券業界の関係者でも簡単にここには入れない」と教えて頂きとても貴重な体験をさせてもらったんだなあ改めて感じた。

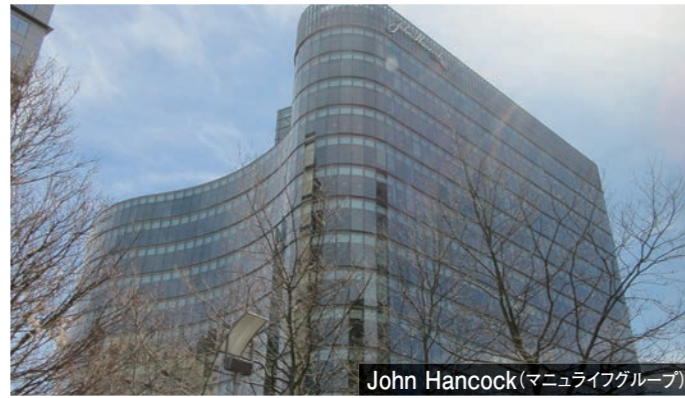
6日目、7日目、夢のような5泊7日の旅も終わり、飛行機を乗りついで長崎へ戻った。私がこの旅で一番感じたことは世界における日本の存在感低下である。今回この旅行中に思ったのは、NYで日本人がほと

んどいない、街中にある新型の機械には日本語版がなく旧型のものしかついていない、日本のニュースも全く見ないということである。近年の日本の存在感の低下については、訪問先の方が口を揃えて言っていた。このままではいけない。しかし明るい話題もある。最近アメリカではラーメンが人気になってきており町にも「ramen」の文字を实际よく見た。日本がもう一度脚光を浴びるヒントはやはり日本文化である。いまや寿司はかなり浸透しさまざまな形で売られている。このような人気が出る可能性を秘めている日本文化は必ずある。例えば、天ぷら、アニメ、アイドル、他にもいろいろある。日

本の企業にはこういった事をうまく紹介でき、浸透させるための事業を展開して欲しいと私は思った。

最後にこのような素晴らしい貴重な旅行を計画して下さい金融知力普及協会の鈴木さん、水谷さん、大学生スタッフの亀山さん、山田さん、見学を受け入れて下さった企業の皆さん本当にありがとうございました。

この経験はどのような形であっても必ず生かしたいと思えます。



John Hancock (マニュライフグループ)



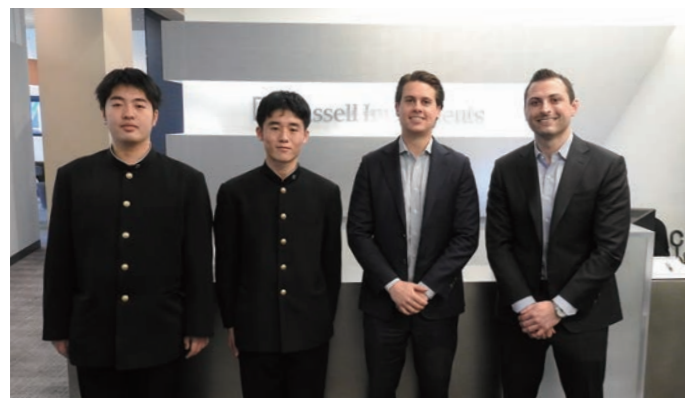
なんと時ならぬ大雪で残念ながら
ボストン行きはキャンセルになって
しまいました。



CITI



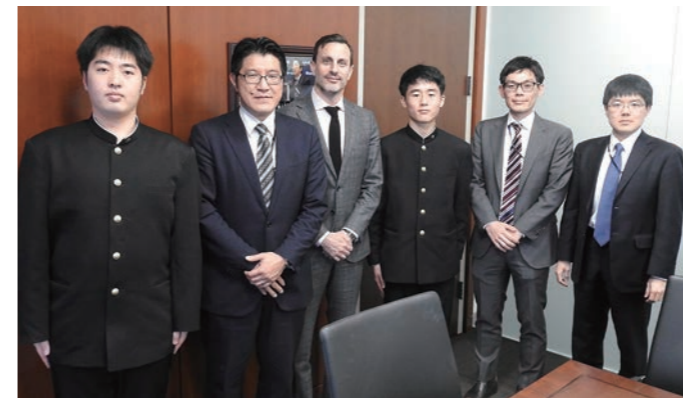
大和投資信託



Russell Investments



Tiger Pacific Capital



日本領事館



NY Stock Exchange



Bloomberg



北海道大会代表 北海道札幌南高等学校 2年
泉 翔太

憧れの舞台が終わってしまいました。正直、ただただ悔しいです。もっと努力していれば、違った景色を見たかもしれない、敗退後の客席でそんなことを考えていました。

全国大会2日目は本当に濃い1日でした。基調講演や前夜祭では、ビジネスの世界で活躍されている方々の生の声を拝聴し、チャレンジな生き方に強く感銘を受けました。プレゼンラウンドは、抽選で同じグループになった全国各地のメンバーと、奈良県とベンチャービジネスについて5時間語り合う特殊な体験でした（笑）同学年のメンバーはみんな実践的な能力が高く、すばらしいビジネスプランが出来たと思います。エコ甲に出なければおそらく出会うことなかった人達から影響を受けることができたのも、エコ甲に出て良かったと思うことです。

3日目はまさに2年間憧れた舞台でした。第1・第2ラウンドで勝ち抜けることができず、後が無くなった第3ラウンド。それまで会場の雰囲気、中塚くんの、「焦らないように」とのアドバイスのおかげもあり、集中して自分のベストが出せたと思います。しかし知識量は他チームに及ばず敗退してしまいました。

この2年間エコ甲の勉強が生活の一部になっていたため、全国大会が終わって心にぽっかりと穴が空いたような気がします。来年は大学受験でエコ甲に出ることは出来ないと思いますが、エコ甲の経験をモチベーションに勉強に励みたいと思います。応援してくれた家族や友人、すばらしい地方予選を主催して頂いた金融機関の皆さま、良きライバルだった北海道の皆さま、憧れの舞台を作って頂いたエコ甲スタッフの皆さまや協賛機関各位、そして2年間一緒に戦ってくれた中塚くんに感謝の気持ちでいっぱいです。

北海道大会代表 北海道札幌南高等学校 2年
中塚 陸朗

大会1日目 エコミカ大会

エコミカに向けての対策は充分と言えない程で不安な部分は大きいありましたが、本番になってみるとなかなか手応えがあり、楽しんで対戦できたので満足しました。

大会2日目 プレゼン大会 筆記

ほぼ1日を占めたプレゼンはこれまた人生初の体験でした。これは、コミュニケーション能力云々よりも単純に題材が難しく、考えても考えても皆を納得させられるような名案は出てきませんでした。時間もギリギリでしたが、班全体で協力して、僕らが納得できたものを作れ

たので僕としては満足しました。

前夜祭の途中、大人達が「喉が乾いた」というので僕は浴場外に出て、連れられたのは筆記会場。大体予想はしていたが、危うく眠気負けるところでした。僕としては力を出し切れた感触でした。

大会3日目 エコミクス甲子園本戦

この日は流石に緊張しました。また、僕はトップバッターであったので問題さえもどのようなものかわからず、焦りました。この日の1ラウンド目は間違えたが、このラウンドはチャレンジする必要があると翔太と話したので後悔はしていません。しかし、第2ラウンド、第3ラウンドに関しては知識の不確かさと薄さを露呈してしまい、まさかとは思いましたがあっさり敗北する結果となりました。対策は結構したと思ひ込み、そこに安住していたことが直接の敗因となった気がします。

経済の知識だけでなく様々なことを学べた今大会は充実していたが、悔しさは残りました。暫く経済学の勉強をする余裕はないですが、これからは目的を忘れずに努力するという心掛けていきたいと思いました。



青森大会代表 青森県立青森高等学校 2年
橋本 雅史

去年から引き続き出場した、エコミクス甲子園。不安しかない中、青森代表になり、「自分なんかでいいのか、もっと相応しいチームがいるのでは」と自問自答しました。それでもこのような貴重な経験を逃してはならないと思い、出場する決意を固めました。

1日目はエコミカ大会でしたが、私は前の日までルールすら知りませんでした。初めてのゲームで困惑した部分もありましたが、他校の方達と交流がとれ、楽しい時間となりました。

2日目、この日はグループごとに分かれ、プレゼンテーションを行いました。私たちは福島県がテーマでした。他のグループとは違う農業をメインに考えて発表しましたが、上位プレゼンに選ばれませんでした。上位に選ばれたところは話し方、見せ方が上手く、参考になる部分が多かったです。その後、前夜祭が終わり、ビンゴが当たることなく、筆記テストになりました。ここでは自分の知識の無さを実感しました。ここまで地方大会との差が歴然とは思いませんでした。この日は悔しい気持ちのまま、終わってしまいました。

最終日、この大会の本戦が始まりました。序盤の早押し、四択からの近似値を通り、準々決勝進出を果たしました。準々決勝は二回間違えたと即脱落というルールの下行されました。序盤の簡単な答えを変な間違いで落としてしまい、ここで落ちてしまいました。

私は来年参加することは出来ず、後輩に任せるしかできないです



が、私の相方が優勝を成し遂げてくれるでしょう。それでは、この大会を開いてくださった皆様に感謝を申し上げます。このような素敵な大会に参加させていただきありがとうございます。

青森大会代表 青森県立青森高等学校 1年
吉田 康平

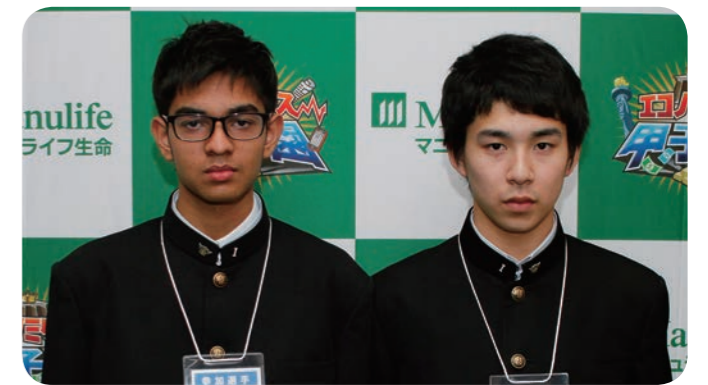
私がエコミクス甲子園に参加することに対して感じていたことは「不安」であった。青森大会で勝つなど、微塵も思っていなかった。それ故、全国大会に向けての準備もどうすればいいかわからなかった。何冊もの参考書を目の前にして、何故こんなことに…と思っていた。自分でもわかる怠惰な性格。果たしてまともに戦えるのかとばかり思っていた。

全国大会1日目。自分にしては珍しく「あーあ、来ちゃった」といった後戻りの出来ない後悔は感じなかった。エコミカ大会の初戦は同じく東北の1年。エコミカをするうちに気が楽になってきた。エコミカは全敗であった。

2日目。講演以外は何をやるかわからない、正直一番不安だったのが2日目だ。まさかのプレゼンの作成。話し合いは得意といったら嘘になる。それでも、無い知恵絞って話し合ううちに、全国から来た人達と共に協力して活動していることが、無性に嬉しく思われた。やはり、多くの人と接するという事は必ず自分の力になると感じた。

3日目。遂にエコミクス甲子園本番である。正直、1、2日目がかかなり濃い2日間だったので、そこまで興奮した感じではなかった。だがしかし、実際の舞台に入ると、次第に胸が高まった。舞台上で早押しボタンが設置され、「あのランプいいなあ」と思う。クイ研の性である。ボタンを押して答えることもでき、何とかして準々決勝までやってきた。敗れ無敗退。先輩の悔しそうな顔を見ると、リベンジすることを思わずにはいられなかった。3日間ではあるが、中々名残惜しくなってしまうものだと思う。

エコミクス甲子園を通して、人と共に協力し、時には本気でぶつかり合うことがどれだけ素晴らしいことか、わかったような気がする。それだけでなく、金融や経済の世界に触れる機会にもなった。正直、まだ金融の仕組みなどはわからないところも多々あるが、興味を持つようにはなった。将来は経済に関する仕事に就く気はないが、この経験は何であれ役に立つと信じて、より一層勉学に励んでいきたい。



岩手大会代表 岩手県立盛岡第三高等学校 1年
柏田 蓮星

私は第12回エコミクス甲子園の全国大会に参加して、今まで以上に経済や金融に対する興味が増したのはもちろん、ほかの県の人たちとの交流やプレゼンラウンドでの協力を通して、協調性もつけることができたと思います。

1日目のエコミカ大会や3日目の本戦など、たくさんの経験をさせていただきましたが、とくに印象に残っているのは2日目のプレゼンラウンドです。前日にチームを振り分けられ、課題テーマは直前に言い渡されるというもので、そのような経験は初めての事だったのでどうなるのかなと思っていたけど、他の県の人たちがとてもいい人たちで、すぐうちとけることが出来て、話し合いもとてもスムーズに進んでいきました。私自身、大会の2日前にも学校でプレゼンを行っていたので、その経験なども活かしながら意見を出したりしてより良いものをつくらうとみんなで本気になって取り組むことが出来ました。パソコンに強い人がいたり、一見ぶっ飛んだ意見だけど実現性がある意見を出すような人がいたり、自分にはまだない力を持った人が多くいて、自分もさらに頑張っていかなければいけないということも感じました。プレゼンは私の相方が行い、結果としては3位をとることが出来たので、心の底から嬉しい気持ちになりました。3日目の本戦では、予選敗退というとても悔しい結果になってしまったけど、本当にいい経験をさせてもらったなと感じました。

私たちは1年生なので、まだまだ勉強をして知識を深めていくことができると思います。今回の大会を通して感じた他のチームとの差や雰囲気を忘れずにこれからも勉強を重ね、さらに経済や金融に精通して行きたいです。本当にありがとうございました。

岩手大会代表 岩手県立盛岡第三高等学校 1年
ラーマン アリアン

私は第12回エコミクス甲子園に参加してみ、金融知力の大切さとコミュニケーションをとることの大切さを実感することができました。クイズの対策をするのにあたって今まで知らなかったような経済的な考え方や経済用語を学び、それらを説明することができるようになりました。例えば、外部不経済が生じている場合、その分だけ企業などの経済主体に課す税の「ピグー税」や、国民の間で生じている所得、貯蓄の差をグラフ化した「ローレンツ曲線」、それを数値化した「ジニ係数」などのことを初めて理解することができました。また「囚人のジレンマ」など前から知っていたことでもこんなことがどのように経済学と関わっているのかが理解することができました。この



大会を通して培った知識はこれからも大切に、経済学に対する理解を深めていこうと思いました。また、経済学の面白さも肌で感じることができました。

コミュニケーションの大切さにおいて、グループプレゼンテーションで始めて会った人でも腹を割って本音でぶつかりあえたため自分たちの満足のいくプレゼンテーションを作ることができました。そして発表では自分のグループの会社の理念と目標をしっかりと投資家に伝えることができたと思いました。自分の思いを相手に伝えるとはどういうことなのか、どのようにして伝えれば相手に伝わるのか、自分のチームメイトと正直に思っていることを交わすこと、などのことを考えるととても良い機会でした。

自分はこの大会に来て良い成績を出せるのが心配でした。しかしそれ以上に新しい友情を見つけることができました。だから私にとっての第12回エコノミクス甲子園はとても大切な財産であり、自分をもっと成長させてくれた機会だったと思います。主催者の方々を始めスタッフのみなさん、共に戦った高校生の仲間本当に感謝しています。この経験はきっと一生忘れられないと思います。



宮城大会代表 宮城県古川黎明高等学校 1年 岩佐 遥介

私は、第12回全国高校生経済金融クイズ選主権に宮城大会代表として参加しました。この感想文では、私が大会参加に至った経緯やその後について書いていこうと思います。

そもそも、私の在籍している宮城県古川黎明高等学校は、地方大会への参加自体が初めてでした。宮城大会への参加校は県内屈指の進学校ばかりであり、自分たちが勝ち上がれるとは到底思えません。加えて高校1年生2人で構成した私たちのチームが、過去に出場経験のある2年生や3年生の先輩方を差し置いて地方大会の決勝に進めるとしておらず、参加当初は「来年に向けた下見をする」という感覚で相手とクイズ選手権を戦うことになりました。しかし、地方大会がいざ終わってみれば優勝という輝かしい成績を残すことができました。予選落ちを覚悟していた私と相手は、優勝が自分のことでありながら、誰よりもその結果に驚嘆し、興奮が収まらないほどでした。私の通う古川黎明高校は宮城県の県北に位置し、県北の学校が優勝を手にしたというのは、初めての快挙でした。この快挙は地元の地方紙にも一面で取り上げられる程のものであります。地方大会での優勝が決まった直後は、その喜びの余韻に浸っていたものの、時が経つにつれて自分が「宮城県」という地域を背負った代表であるという重圧に襲われました。それと同時に、全国大会という大舞台に挑む宮城大会代表に恥じぬ「振る舞い・知

識量」を備えなければ、という使命感に駆られ全国大会へ向けた勉強をスタートさせました。それは2017年の年末のことでした。

全国大会では、他地域の生徒のレベルの高さに圧倒されるばかりでした。代表の誰もが気さくではありながら、いざ本戦が始まると「獲物を狙う貪欲な眼差し」といっても過言ではないほど目の色を変えて自らの金融知力を如何なく発揮していたことを覚えています。

私だけでなく、全ての選手一同は出身地域を代表し、全国大会という輝かしい大きな舞台に立ちました。全国大会に向けた単なる知識の詰め込みではなく、日々の営みにおいて活用ができる、所謂「実学」の精神に基づき自らの金融知力を磨いてきたことは偽りのない事実であると言えます。本番では、これまで積み重ねてきた努力が実った選手、実らなかった選手と思いは様々です。しかし、1つの物事を達成させるために寝る間を惜しんで取り組んできたであろう努力は何にも代えることのできない宝物であったはずで。私は、第12回大会で経た経験を「経済・金融」という範囲にとどめず様々な場所で活用し、明日の日本を担う人材として未来に羽ばたくことを誓います。

宮城大会代表 宮城県古川黎明高等学校 1年 白戸 玲寿

私は2018年2月16日から18日にかけて行われたエコノミクス甲子園全国大会に出場しました。

1日目は正午ごろ東京行きの新幹線に乗り込みました。東京については電車では会場へ移動しました。会場についてから受付で配布物を受け取り、写真撮影をしました。その後エコノミカ大会があり、ここでは全国から集った高校生たちと交流を深めることが出来ました。

2日目にはまずプレゼンテーションラウンドがありました。ここでは東京・奈良・山口の代表の方と一緒にプレゼンを作りました。決勝にはいけませんでしたがとても良い経験になりました。

3日目は六本木に移動しての開始となりました。準々決勝で惜しくも敗れてしまいました。

私はこの大会に参加して金融経済の知識はもとよりこの大会に出なければ会わなかったであろう、さまざまな地域の高校生たちと交流するという素晴らしい経験が出来ました。来年もまた全国大会に出場するため努力していこうと思える大会でした。

また大学生スタッフの方々が懸命ながら、楽しそうに働いているのを見て、私も大学生になったときにはぜひスタッフとして参加したいと思いました。



秋田大会代表 秋田県立由利高等学校 3年 佐藤 恵大

私は、エコノミクス甲子園の全国大会に出場させてもらって、今まで身近ではあったけどあまり詳しくなかった金融について勉強することができて、とてもよかったと思っています。高校の授業などでライフプランをたてることがありますが、それは何になって何歳でこうしてなど大雑把なもので、あまりイメージが湧かずにやっている高校生がほとんどだとも思います。ですが金融知力があればそれをより具体的なプランにできると思います。なのでこのエコノミクス甲子園は高校生のうちから金融を交えた生活の捉え方や社会の見方をできるようにするきっかけになるのだとも思いました。全国大会ではクイズ形式での競技だけではなくグループごとにわかれたプレゼンテーションなどがあり、ただこういうことをしたいではなく、これをするためにどのくらいのお金がかかってどのくらいのお金を儲けられるか、そこまで求められて、普段学校などでやっているプレゼンテーションとの違いを感じつつ、そこまで考えられるようになりたいと思いました。そして僕が一番驚いたのが大学生のボランティアスタッフです。あの大会の運営をはじめ地方大会から全国大会の問題を考えるなど、大会中の働きを見て本当にすごいと思いました。その他にもいろんな方の話を聞くことができてためになりました。本当にこの大会に参加できて良かったです。

秋田大会代表 秋田県立由利高等学校 3年 佐藤 陸

エコノミクス甲子園は、僕にとって一生忘れられない思い出となりました。

1日目、最初に感じたのは「不安」でした。軽い気持ちで地方大会に応募し、まさか自分たちが全国大会に出場することができると思わず、大学受験とも重なってしまい、ほとんど全国大会に向けた対策もできず本番を迎えてしまいました。

会場に着くと、すでに多くの他県の代表、スタッフがたくさんいて、みんな真面目そうとても怖かったです。エコノミカや「たほいや」を通して他の参加者の方たちともすこし話することができたので良かったです。

2日目、朝早く起きてラジオ体操をしました。10年ぶりのラジオ体操はとても寒かったです。その後貴重なお話を聞くことができ、グループに分かれてプレゼンテーション作成に移りました。最初は、グループ内でもあまり意見が出なかったが、徐々に打ち解けて最終的にはまとめきれないほどたくさんの意見が出て苦労しました。その後

の筆記もボロボロでした。

3日目は、たくさんの観客がいらして、とても緊張しました。最初の早押しクイズは、答えられる問題があったにも関わらず、一度も答えることなく終わってしまったので残念でした。その後のラウンドには上がることができませんでしたが、進んだ方々の金融知力の高さに驚きました。特に決勝は、ルールも面白く、見ていてとても楽しかったです。

この3日間で、普段は体験できない様々な貴重な体験ができました。結局受験は受けられませんが、それ以上に大きな収穫があった気がします。

ありがとうございました!!



山形大会代表 山形県立山形南高等学校 1年 池田 航

今回初めてエコノミクス甲子園に参加して様々な貴重なことを学ばせていただきました。まず始めに山形大会から全国大会までたくさんの方に支えられ楽しく安全に大会に参加できていたと思います。本当にありがとうございました。1日目はエコノミカや「たほいや」など楽しめるゲームが多く、緊張がほぐれとても面白かったです。いよいよ2日目から本番という感じがして、身も引き締まっている中でプレゼンテーションという難題。とても苦労したことを覚えています。それでも同じグループのメンバー達とアイデアを出し合い、話し合い少しでも良い発表になるよう頑張りました。結果、全体で2位という良い結果を得られてとても嬉しかったです。ですが、夜の筆記テストでは全くと言っていいほど書けず、知識量が足りなかったです。もったいない。3日目からは会場も変わり、緊張がマックスになっていました。第1ラウンドの早押しクイズからうまくやることができず、第2、第3ラウンドでも準々決勝に進出することができませんでした。そこでもやはり知識量が足りず、わからない問題が多く勉強が足りなかったと反省しています。準々決勝、準決勝、決勝と見ていてレベルが高く、そこでも勉強が足りなかったと感じました。3日間を通して1番に思ったのはやはり「楽しい」ということです。しかし、勉強が足りなかったことがあり、心の底からは楽しめていなかったと感じています。これから約1年勉強して来年リベンジします。最後に大会運営に携わってくださった皆様、スポンサー各社様、本当にありがとうございました。

山形大会代表 山形県立山形南高等学校 1年 石川 魁人

本番当日まで、エコノミカ大会やプレゼンテーション大会など、様々なイベントがあったが、それらの多くは仲間との協力やコミュニ



ケーション力を必要とするものだった。

特に、土曜日に行われたプレゼンテーション大会では、4チーム一丸となってプレゼンするという仕組みだったため、他の県の代表者の人達と打ち解け合うことが大前提だと思った。仲間達とテーマを考え、企画を考え、様々な観点からその企画について考察し、原稿を作成する、ここまで筋を通すことが出来たのは、仲間との協力とは言うまでもない、僕らにはプレゼン大会での優勝に対する熱意が、他のグループより断然あったと確信している。その熱意をもってプレゼン大会に臨んだ結果が、2位である。話し合いのまとめ役となっていた大阪星光学院の2人は特に喜んでいて。

土曜日の大半の時間はプレゼン大会に使ったため、時間の経過が異常に早かったことを覚えている。そしてあつという間に本番当日になってしまったが、金曜日、土曜日と続いて勉強時間が予想以上に無かったため、焦った。当日の最初のラウンドは早押し問題だったが、1問も答えられなかった。そしてクイズ形式が面白かった。準々決勝進出に影響するのはプレゼンの結果と筆記問題の点数、そして早押し問題でのポイントだった。プレゼンで2位になった仲間達はみんな準々決勝に進んでいたが、僕らは無理だった。早押しは良しとしても、筆記問題がほとんど分からなかったのが当然の結果だと思った。完全に僕らは勉強不足だったことを、準々決勝、準決勝、決勝戦を見て確信した。とても苦しくて仕方なかった、これは来年も参加するしかない。



福島大会代表 福島県立福島高等学校 2年
菅野 楽人

僕は昨年度のエコ甲には不参加で、今回が初参加でした。福島大会では、まさか自分が勝ち上がれるとは思っておらず、全国進出が決定した時は、嬉しさと混乱の気持ちで溢れていました。

2日目のプレゼンラウンドでは、単純な知識だけでなく、独創的なアイデアを出したり、考えを取り纏めたりする力が求められていました。自分達の班の他校の生徒さんを見ていると、「こんなにもリーダーシップのある人たちがいるのか」と素直に感心してしまい、また、僕にはあまりその能力が無いので、反省させられました。他の班の発表を見ても、まるで本物の会社でのプレゼンを見ているようで、大変勉強になりました。

3日目の本戦ラウンドにおいては、自分と他の生徒さんたちとの実力や努力の差が露呈してしまいました。僕たちのチームは一度も正答を出すことが出来ずに、なんとも呆気ない幕引きとなってしまいました。自分の努力不足を悔やむとともに、全国大会というものの厳しさも改めて実感しました。

今大会全てにおいては、一つ一つが貴重な経験であると感じました。僕にとって、日本の様々な都道府県の学生と交流する機会は殆ど無いため、様々な価値観を持つ見知らぬ人たちと話すことは楽しく、良い経験になったと思います。また、自分はクイズ研究部であるため、この大会を部活動に生かしていきたいです。

今大会は、何もかも面白く、何もかも貴重でした。本当にありがとうございました。

福島大会代表 福島県立福島高等学校 2年
渡邊 隆斗

初めに言ってしまう。私がエコノミクス甲子園の全国大会に出場できたのは、相方の奮闘と地方大会決勝でとんでもないどんでん返しがあったからです。全国大会出場は死ぬ程嬉しかったのですが、全国レベルの高校生が一堂に会する中、果たして戦績を残せるのか、そこが不安でなりません。

そんな不安を抱えつつ迎えた1日目のエコノミクス大会。何も考えずに楽しませていただきました。そのおかげか、以降は緊張しすぎて固まるということはありませんでした。

そして2日目、他県代表の方々とプレゼン制作をすることになりました。地域から日本を元気にするビジネスを作る、という内容でしたが、(恐らく誰もが考えたであろう)観光を推すことも難しく、議論の果てに茨城県の酒を推す方向になりました。そして、その独自性が評価されたのか、プレゼンラウンドではチームで2位。それによって3日目の準々決勝に進出することが出来ました。Dチームの皆と一緒になれた幸運、そしてDチームの皆には感謝しかありません。

その後の前夜祭でのビンゴ大会や筆記クイズなどで一喜一憂してから就寝し、遂に迎えた3日目。プレゼンラウンドで稼いだ点数によって準々決勝まで進出したものの、肝心のクイズが不調で敗退。勉強不足がここで祟ってしまいました。

以降は椅子に座って準決勝や決勝を眺め、レベルの違いを見せつけられることになりました。金融の知識を使いこなし、ルールを利用して逆転を起こし、勝利を掴み取っていくその姿は本当に輝いて見えました。

結果だけ見れば準々決勝敗退となりましたが、この大会で得られたものは非常に多いです。本来なら一生会うことのない人と交流し、時には協力し、時には競い合い、そして普段は気に留めることのない経済について限りなく深く知り、考えを深められる。こんな非日常的体験が出来ただけでも参加した意義があったと言えます。むしろ断言出来ます。来て良かった。

この感想を書くために大会を振り返って、改めて多くの方々にお世話になっているのだと実感しています。大会運営スタッフの皆さん、各金融機関の皆さん、Dチームの皆、そしてここまで頑張ってくれた相方に無上の感謝を送ります。そして、志望大学に受かった暁には直接的な恩返し、つまり私自身もスタッフとして助力させていただこうと思います。

本当に、本当にありがとうございました。



なく出場に向けて準備を始めました。

不安が募る中迎えた1日目のエコノミクス大会はあれよあれよという間に過ぎてしまいました。自分のチームメイトの戦術しか知らない中での大会は新鮮で、自分の中に元気が再び湧いてきました。2日目のプレゼンテーションラウンドは私の中で全国大会本戦に勝るとも劣らないほど印象に残っています。私は学校の授業としてプレゼンテーションを行ったことは何度もありましたが、偶然決まった岩手・新潟・栃木の代表チームと初対面で侃々諤々とした議論しながらのプレゼンテーションを、わずか6時間程度で完成させるという経験はありませんでしたから、プレゼンテーションの内容もさながら、この日に(立食パーティーでの談笑の甲斐もあり)できた友情は私の宝です。待ちに待った3日目の全国大会本戦、私のチームは私の誤答で幕を開けました。しかし、我々のモットー「明るく 楽しく 元気よく」に従って最後まで落ち着きを失わなかったことや、チームメイトのファインプレーもあって、決勝戦まで勝ち残ることができました。

この一連の大会で、私は金融・経済に関する知識を参加前に比べ大幅に伸ばすことができましたが、それだけではなく、かけがえのない友人もたくさんできました。私たちより後の世代も同じように、知識と友情を育ててくれることを願ってやみません。



茨城大会代表 茨城県立土浦第一高等学校 2年
手塚 尚哉

エコノミクス甲子園は経済や金融の知識を競うクイズ大会である、という認識は間違いではないが、少なくとも全国大会においては的確であるとも言えないと思う。知識はもちろんのことだが、何よりも重要なのはコミュニケーション能力である。このことを一番強く感じたのは、2日目のプレゼンテーションラウンドであった。私が所属したJチームはプレゼンテーションの準備開始直後から喧々諤々の議論を行い、初対面であるにもかかわらず皆が活発に意見を出して、私も彼らの積極性に大いに触発された。その結果プレゼンテーションラウンドでは3位という好成績を残したばかりでなく、チームのメンバー全員とたいへん親しくなることができたのだ。エコノミクス甲子園の素晴らしいところはなかなか友人の輪が広がることであって、その実現のためにはコミュニケーション能力が不可欠なのである。

そして、3日目。私たちのペアは2日目の夜の筆記クイズで振るわなかったものの、決勝戦に勝ち残り、全国大会4位となった。問題と各ラウンドのルールはとてレベルが高く、また全国的にも有名な高校と肩を並べて戦うのだから、決勝の舞台では不安でいっぱいだった。しかし、筑波銀行の皆さまやプレゼンテーションのJチームのメンバーたちが私たちに力強い声援を送ってくださった。私たちがどれほど救われたかは筆舌に尽くしがたく、最後まで応援してくださった方々に心より感謝を申し上げたいと思う。

大会を通して私は人間的に大きく成長したと自負している。私が思うに、エコノミクス甲子園は人的資本を育てるイベントだ。過去の全国大会出場者の多くがスタッフとして今回の大会を運営されたことはその証である。

大会関係者及び運営スタッフの皆さま、そして全国から集まった参加者のみんな、私に成長の機会を与えてくださり、ありがとうございました。

茨城大会代表 茨城県立土浦第一高等学校 2年
逆井 遥暉

私がエコノミクス甲子園に参加するのはこれで2回目になります。昨年も県大会に出場しましたが、地方大会敗退で全国大会へ進むことはできませんでした。その悔しさを糧として、今年は満を持して出場し、県大会優勝を勝ち取れた瞬間は喜びよりも驚きが勝り、頭が真っ白になりました。その時から、本校の定期テストと全国大会の日程が重複しているということはもちろん認識していましたが、迷う暇も



栃木大会代表 栃木県立宇都宮高等学校 2年
奥田 剛崇

クイズ大会に参加したことはないが、クイズ大会と聞いても私は別段面白みや魅力を感じない。テレビで見る印象がそのままあるからだ。しかし、エコノミクス甲子園はクイズ大会ではあるが、それのみならず、他参加者との関わりという醍醐味を持っている。パワーポイント作成に長けた人、プレゼンが上手い人、英語がペラペラなコミュニケーション能力の高い人等々、自分の持っていない能力を持っている人や生活環境が大きく異なる人と関わりを持って、全く違った考え方に触れるのは面白いものである。当然ながら、他者の考えに触れる機会は他にも多くあるが、エコノミクス甲子園でそのような機会を持つ利点は興味関心の一致する人が多いということである。自分ではそれなりに金融経済について知っているつもりでも、いざ話してみると不意に相手の口から謎の言葉が発せられ、自らの無知を自覚することができる。当然ながら話し相手は同じ高校生のため、自らの勉強不足に焦りを感じ、相手に感化される。金融経済に焦点を絞っているエコノミクス甲子園だからこそ成し得ることである。

エコノミクス甲子園は他参加者と関わる時間が多く設けられており、自己の見聞を広げ、さらなる学習意欲の向上を図ることができる。



それに加えて、あわよくばニューヨークに行くことができる。他のクイズ大会がどうかは全く知らないが、少なくともエコノミクス甲子園は、クイズ以外の魅力や面白みを多分に備えている。その意味で、エコノミクス甲子園に参加したのは大変有意義であった。

栃木大会代表 栃木県立宇都宮高等学校 2年
出井 太郎

最初に結論から言うともちゃくちゃ楽しかったです。栃木大会ではハッキリと言ってやる気なんて何もなかったです。相方の奥田くんについて行って気がつく優勝していたという感じでした。栃木大会では僕の通う宇都宮高校のクイズ研究会が4年連続優勝していたのですが、そんな中奥田くんの金魚のフンの僕が優勝しているのだからと不安にも思いました。しかし、優勝したからには全国大会で頑張ろうと思ひ、全国大会の1ヶ月前から勉強をはじめました。はじめてちゃんと学ぶ経済学は普段生活で使うのによく分からない貨幣のことや今ニュースで話題になっているビットコインのことなど様々なことを僕に教えてくれました。とても面白くかなり力を入れて勉強をしました。

そして迎えた全国大会、全国各地からやってくる高校生達が、異様に頭が良さそうに見えてとても緊張していました。1日目にはエコノミカで色々な人と仲良くなれました。2日目は最初のプレゼンテーションラウンドでチームの皆で力を合わせて3位入賞を果たすことが出来て、非常に嬉しかったです。チームの皆で出した発想を化学反応させてより良いものにするのはとても刺激的でした。後は筆記クイズもありました。3日目は1ラウンド目の早押しで回答出来ず予選を通過できるか不安でしたが筆記とプレゼン3位のおかげで9位通過出来てホッとしました。

これ以外は特筆することも無いですが、3日目は全国の壁の高さを知りました。

エコ甲の楽しさは600字では語りきれません。刺激的で非日常的な素晴らしい3日間でした。ありがとうございました。



群馬大会代表 伊勢崎市立四ツ葉学園中等教育学校 2年
池田 怜

相方の止むを得ない欠場により、全国大会への挑戦権すら与えられない状況で参加した地方大会から一年と少し。私たちは過去問が公開されていないために貴重であった、一度の出場経験から得た情報と事前教材を研究するのはもちろんのこと、情報源を書籍や新聞、様々なサイトへと拡大させた。それらが功を奏し、全国大会

の出場資格を得ることができたため、その後は一層新たな知識の獲得に努めた。

私たちに全力を尽くして挑んだ全国大会。1日目は、純粋にエコノミカ大会を楽しむことができた。2日目のプレゼンは、良い結果は出なかったものの、チーム内で試行錯誤を繰り返し、ひとつのものを創りあげてゆく過程が面白かった。前夜祭では様々な方と関わることができ、貴重な機会であったと思う。そして3日目、案の定、最初の段階では準々決勝進出を決められなかったため、敗者復活戦へと移った。運も味方につけられた私たちは第3ラウンドでなんとか勝ち上がることができ、迎えた準々決勝。あと一問というところで敗れてしまった。もちろん悔しさはあったが、全力を出し切ったという達成感がそれを上回っていた。ただ、その後の準決勝、決勝戦を観戦し、自分の視野がどれほど狭いか、これまでの勉強がどれほど愚かなものであったかに気付かされた。情報源は自分が想像するよりはるかに多いようで、また、御来賓の方々のお話にもあったように、知識のみを追い求めるのでは不十分で、知識を自ら活用する能力をも獲得しようとする姿勢が必要だと痛感した。それなくしては、実社会で生きていけないのはもちろんのこと、論理的な思考力も得られないのではないと思う。

私にとってのエコノミクス甲子園は、金融知力を身につける良いきっかけとなったものであり、自分の勉強を見つめ直す機会でもあった。総じて、大変充実していて、楽しい3日間だったと思う。これも、金融知力普及協会の方々、群馬銀行の方々、大学生スタッフの方々、出場者の皆さん、そして相方の落合君の支えがあってこそのものである。

本当にありがとうございました。

群馬大会代表 伊勢崎市立四ツ葉学園中等教育学校 2年
落合 竜平

以前から経済には少し興味がありましたが、今まであまり学ぶ機会がありませんでした。そのような中で、エコノミクス甲子園は経済について自主的に深く学ぶとてもよい契機になりました。

経済と一言に言ってもその内容は保険や預貯金といった比較的身近なものから、複雑な金融商品、国家の財政や国際経済などの広さに及ぶため、勉強するのは思っていた以上に難しく驚きました。しかし同時に奥深い経済学のおもしろさも理解できたように思います。

エコノミクス甲子園では単に知識を問うだけではなく、実際の経済にならったさまざまな形式のクイズもあり、非常に楽しませていただきました。特に地方大会では決勝最後の問題で逆転を果たし、全国大会出場への切符を手に入れることができたのでとても嬉しかったです。全国大会にはできるだけ勉強をして臨みましたが、それでも本番の問題には全く知らなかったことが多くあり、衝撃を受けました。また、自分たちが答えられないような問題もやすやすと解きこなしてゆくチームもあり、悔しさを感じるとともに良い刺激を受けました。

学校では経済について深く学ぶことは少なく、まして投資や金融にまで触れることは稀ですが、こうした知識は現代社会を生きていく上で必要なものだ今回改めて実感しました。それとともに、学問としての経済学のおもしろさもわかり、一層の興味が湧きました。今回エコノミクス甲子園の全国大会に出場できたことをきっかけとして、今後も生涯を通して経済を学び、自分がこれからの社会を生きていくための力とともに、他の人々や社会全体のために知識を生かしていきたいと思ひます。



学習を開始して再び全国大会に出場し、必ずやりベンジを果たしてアメリカに行きたいと思ひます。



埼玉大会代表 栄東高等学校 1年
佐々木 丈二

まず始めに、エコノミクス甲子園の全国大会に関わってくださったたくさんの方々のおかげで充実した3日間を過ごせたこと、一生残る濃い思い出となるような経験をさせていただけた事に御礼申し上げます。

全国大会からもう2週間も経過したことに驚いています。あの3日間は凄く長かったように思えます。埼玉大会を優勝し、全国大会に進みましたが、聞いていた通り、周りを見ると強者だらけだなと思ひました。結果はとても残念な成績でしたが、将来に全国大会の事を役立てられることは何ら変わらないし、私自身がクイズ研究部に所属しているのも、もし次回全国大会に出場できなくても、部員達のために、全国大会に出たという貴重な経験を生かしたいと思ひます。3年前に部活の先輩方が全国大会で入賞されていて、2年前は全国大会に先輩が出ていましたが残念な結果でした。昨年度、私の学校は全国大会に出場できず、そして今年の大会でした。

エコ甲シーズンが終わった今も経済の勉強を続けて、未来へのアドバンテージとしていこうと思ひます。

埼玉大会代表 栄東高等学校 1年
椿 丈

中学1年生のときに先輩が全国5位になり、表彰されたのを間近で見て以来、エコノミクス甲子園の全国大会は私にとって憧れの場所だったので、そこに高校1年生にして出場できたことは非常に光栄でした。

エコノミクス甲子園がなければ、少なくとも高校のうちにはここまで経済を勉強することはなかったと思うので、高校の授業の範囲を越えた内容を高1のうちに学べたことは非常に良かったと思ひます。

また、エコノミクス甲子園がなければ、まずもって今治西高校で、クイズをやっているわけではなく、しかも他学年であるようなひとと交流をもつことはなかったと思うので、そのような貴重な機会を得られたことも非常に良かったと思ひます。

また、プレゼンはうまくいかなかったと思うので、経済以外にその修行も必要かと思ひますが、幸運か不運か優勝した長崎西高校と同じグループだったので、来年は自分があの立場になりたいと、よりいっそう感じました。

全体としては非常に楽しかったですが、プレゼンや、それを踏まえた日曜日の結果は非常に悔しかったです。

今回の結果ではあまりにも悔しすぎるため、来年はもっと早くから



千葉大会代表 渋谷教育学園幕張高等学校 2年
吉野 裕

この度はエコノミクス甲子園全国大会に出場することができとても貴重な体験をすることができました。僕は昨年も地方大会にエントリーはしたものの全国大会への切符を手に入れることはできませんでした。ただの実力不足であったので今年はその反省を生かして分析と対策をして臨んだら見事地方大会を勝ち抜くことができました。では全国大会を振り返っていこうと思ひます。

1日目はエコノミカ大会が印象的でした。不思議なカードゲームではありましたが初心者の僕でも楽しむことができ面白かったです。2日目はプレゼンテーションが大変でした。僕たちのグループは佐賀県だったのですがなかなかうまく問題点と解決策を見つけることができず大変でしたが、みんなで協力をしたことによってようやくいいビジネスプランを提示することができました。しかし決勝プレゼンに行くことはできませんでした。決勝プレゼンはどれも画期的であったので凄いなとただ呆然としてしまいました。そしてそのあとのパーティーでは同じクイズサークルのみんで集まって雑談できたのでとても楽しかったです。筆記は難しく、やばいなと焦ってしまったのはもったいなかったです。そして最終日3日目、早押しクイズで開幕したのですが、誤答してしまったのでメンタルがボロボロになってしまいました。案の定第1ラウンドを抜けることができず第2ラウンドへ進んだのですが、そこで相方の大屋が近似値問題をほぼドンピシャに当てたので何とか第2ラウンドを1抜けして準々決勝に進むことができました。準々決勝では僕より大屋のほうが得意な分野であったため助かりましたが、最後は判定で大阪星光に負けてしまいここで敗退となってしまいました。さらに準決勝以降の問題は僕のほうが得意な分野で行きたかったなとただ悔しさでいっぱいでした。しかし、この3日間を通じて大屋とさらに仲良くなることができ、様々な仲間と出会えてので、とても有意義な3日間になりました。

最後になりますが大会運営をしてくださったスタッフの皆さんありがとうございました。

千葉大会代表 渋谷教育学園幕張高等学校 2年
大屋 祐馬

私は昨年度もこの大会に出場しました。きっかけは学校の現代社会の授業で教科担任の先生が勧めてくれたこと。学校の定期テ



スト期間と被っていましたが悩んだ末出場することにしました。しかし残念ながら地方大会敗退となってしまいました。ひとえに勉強不足だったと思います。高3は受験と重なるため出れない、そのため今年にかけていました。昨年度と同じペアで出場し、対策の結果なんとか地方大会では優勝し全国大会への出場権を手に入れました。あまり感情を表に出さないタイプですが素直に嬉しかったです。

迎えた全国大会当日。極度の人見知りである私はせっかくの全国大会でも誰とも話さないで終わるんじゃないかと不安に思っていました。同室の方やプレゼン班の方々が優しい人ばかりで大会が終わった今でも連絡を取りあっています。1日目のオリエンテーションに始まり2日目のプレゼンテーションなど全てが新鮮で楽しかったです。結果的に3日目は実力不足で上手くいかず悔しさが残りましたが、全国の皆さんと競い会えたことはとてもいい経験になりました。この大会を通じて得た経済・金融に関する知識と全国の皆さんとの繋がりは確実に私の人生を豊かにすると確信しています。この大会を開催してくださった金融知力普及協会や各銀行の皆様、そしてこの大会に携わってくださった全ての方々に感謝申し上げます。また私自身大学では経済学部への進学を希望していたのですがこの大会を通してその思いが一層強まりました。広い視野を持って世の中の様々なことに関心を持って生活したいと思えます。本当にこの大会に参加して良かったです。来年度以降、後輩が全国大会で優勝することを祈っています。



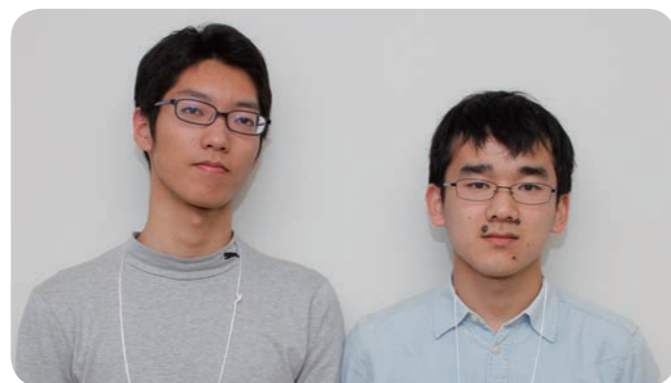
東京大会代表 早稲田高等学校 1年
関根 詩人

「エコノミクス甲子園と一緒に出てみない？」
そう高2の釜堀さんが言ってくれたのは8月の部活でのことだった。僕自身、エコノミクス甲子園のことは他の先輩から聞いていたし、出てみようかなと思っていた矢先のことだったので二つ返事で了承した。
その後東京大会では、かなり釜堀さんに頼った部分もあったが、何とか勝つことが出来て晴れて全国大会に出場することになった。
しかし、正直全国大会に向けての勉強はあまりしてこなかった。やりたいことが次々に出てきて、経済に関しての勉強はほとんど積むことが出来なかった。
そんな中出場した全国大会。印象に残っていることが2つある。1つ目はプレゼンラウンドだ。その日初めて会う人と一緒にテーマを引き出し、それについてのプレゼンを短時間で考えなければならない。ここまで厳しいことは経験したことがなかった。
自分はほとんど貢献していないが、最後は皆でいい発表をできた

と思う。決勝ラウンドには行けなかったが、とても良い経験になった。
そして2つ目は、最終日の決勝戦。自分の知識不足を痛感したが、とても楽しむことが出来た。特に同学年の方の活躍にはとても刺激を受けた。
3日間を通して、全国各地の方々と交流できて、間違いなくとても貴重な体験であった。
ただこれで終わってはいけないと思う。ここで得た知識・経験を無駄にせず、将来に生かしていきたい。
最後に、エコ甲を主催・運営・後援して頂いた皆さん、交流させて頂いた全国の方々、そして相方の釜堀さん。本当にありがとうございました!

東京大会代表 早稲田高等学校 2年
釜堀 恵輔

エコノミクス甲子園に参加して、一番印象に残っているのは2日目のプレゼンテーションラウンドです。
その日初めて会った人たちと新しい事業を一から考え、それをプレゼンとしてまとめるというのは、なかなか大変なことでした。僕らの班のテーマは秋田県だったのですが、僕は秋田に行ったことがなく、秋田についての特別な印象も持っていなかったため、アイデアを出すのに苦戦しました。
結局秋田県の地価が安いということに目をつけ、土地を仲介する事業を考えました。僕はスライド作成を担当したので、なるべく見やすく、わかりやすいスライドを作るよう心がけました。
このプレゼンテーションラウンドでは入賞こそできませんでしたが、うまく発表を終えられたときはかなりの達成感がありました。また、普段学校などでプレゼンをする機会はあまりないので、今回のこのラウンドはとても貴重な経験になりました。
これまで「地方創生」というテーマは自分とは関係のないものだと思っていましたが、このラウンドを通じて一度真剣に考えてみたことで、より身近なものとして感じられるようになりました。
最後に、(2日目のことしか書きませんが、) 3日間こうした素晴らしい大会を開いてくださったスタッフの皆様、スポンサーの皆様、本当にありがとうございました。



神奈川大会代表 栄光学園高等学校 2年
丸山 大貴

第11回大会で4位に終わったあの日から早1年、地方大会を勝ち抜け、とうとう全国への切符を手に入れたわけですが、全国大会



のレベル感というものが分からず、苦労しつつも勉強していた日々を思い出します。
そして迎えた当日、プレゼンに悪戦苦闘したのを今でもはっきりと覚えています。プレゼンをするというのも簡単なことではなかったし、何よりビジネスプランを考えることの難解さというものを思い知らされた気がしました。筆記試験を何とかやり終え、3日目の早押しへ。私たちは先へ駒を進めることはできませんでしたが、決勝ラウンドなどは非常に見ごたえのあるものでした。
クイズ大会から得られるものも当然多いのですが、もう一つ、「全国の高校生との交流」という大きな経験を得ることができました。高校生同士が常に火花を散らしている感じを想定していたのですが、全然そういうことはなく、むしろ前夜祭などでは和気あいあいと話す感覚で非常に楽しかったです。また、同世代の人との出会いというのは、自分の努力がいかに足りなかったかなど、いい意味で刺激になりました。
最後になりましたが、このようなかけがえのない、すばらしい経験ができたのも、ひとえに支えて下さった全ての方々のおかげです。この場をお借りいたしまして御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

神奈川大会代表 栄光学園高等学校 2年
井手 将人

今回、このエコノミクス甲子園の全国大会に参加できて多くのものを得ることができた。本格的に、始まったのは2日目からだった。2日目は「一休.com」を創業した森正文氏の講演から始まり、その講演はとても興味深く普通の高校生はなかなか聞くことのできない話で、とても貴重な経験をする事ができた。その後、各グループ4校ずつに分かれてプレゼンを作った。最初は初めて話すメンバーと何時間もかけてプレゼンをするのは不安だったが、うちとけることができ、活発に意見を出し合うことで最終的によいプレゼンを作ることができたと思う。結果的に、上位3チームに入ることはできなかったが、楽しく濃密な時間を過ごすことができてよかった。夜に開かれた前夜祭では普段ほとんど話すことのない、会社の偉いや各都道府県の金融機関の人と話すことができ、多くの興味深いお話を聞くことができたし、他の都道府県の高校生とも交流できた。その後の筆記では、今年は二人一緒に解く形式だったが問題数が多めで時間に追われてしまった。3日目のクイズでは不運も重なり思うような成績を残せなかったのが悔しかったが、ハイレベルな争いを見ることができて面白かった。
今回の全国大会に出たことによってより深い金融知力が得られただけでなく、今後に生かせる大きな経験を得ることができた。大会運営に携わっていただいたすべての方に感謝申し上げたい。



新潟大会代表 新潟明訓高等学校 1年
田村 元希

私は今回エコノミクス甲子園に出場して思ったこととして、1番感じたことは「本気」ということだ。なにを行うにも本気だと感じた。
例えば1日目のエコノミクス大会では自分でバックを買ったりする人もいれば、エコノミクス自体戦略を立てて自分の戦略通りに進めたりまさかここまで本気だとは思っていなかった。圧倒された。しかし、圧倒される暇はほんの一瞬で自分もこの雰囲気についていけなくちゃと思った。
ルームメイトと積極的に本気で話す、これが最初の本気だった。去年も出てる人だったからか自分に火がついた。おかげで2日目のプレゼンテーション大会で全てのグループの中で1番仲良く、そして本気になったと思う。1、2回目のプレゼンの後もずっと一緒に行動していた。持つべきものは友なんだと思った。これはその通りで3日目、グループのみんなと一緒に本気で応援し敗退した時は一緒に本気で悲しむという気持ちの中で仲間のような感情が生まれた。今、この感想文を書いている途中でもLINEのグループでの会話が続いている。優勝はできなかったものの、本気で楽しめ、本気の友達ができ、本気で挑めたエコノミクス甲子園だった。
来年までにペアを探してまた、この舞台に帰ってきたい、また体験したいと思う大会であった。

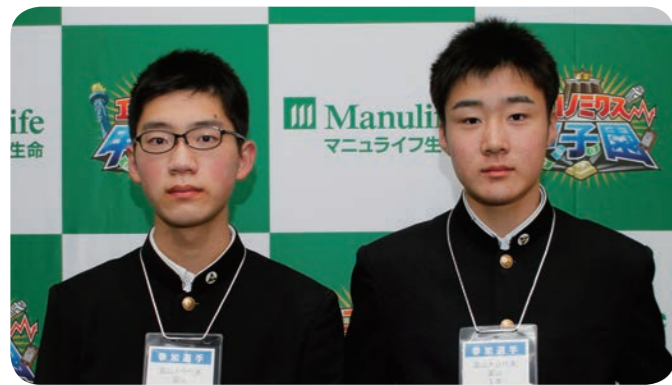
新潟大会代表 新潟明訓高等学校 3年
鈴木 悠希

私は1年生のころから地方大会に参加してきました。1、2年生の時は全国に進出できず、3年生でやっと全国大会に出場することができました。私は受験もあったため、1日目は大学から直接向かい、疲れながらも参加しました。
そして迎えた2日目、基調講演を聞いた後にあったプレゼンラウンドでは、東京オリンピック後の課題を交えて、高知県の魅力を紹介するというものでした。そこで出会った仲間たちと高知県の課題を総ざらいし、魅力を見つけ、プレゼンをすることができました。私たちのプレゼンは予選を3位で通過し、決勝で披露することができました。ここで出会った仲間たちとはその日にあったとは思えないほど仲が良くなり、かけがえのない友となりました。その後パーティーがあり、筆記クイズがありました。そこでは、一緒にプレゼンをした仲間を互いに健闘を誓った後で回答しました。記述問題や製図問題など、全国大会のレベルにふさわしい難問ぞろいでした。
そして3日目、いよいよ本戦です。私たちは予選を4位で通過しまし



たが、準々決勝では本来の実力を発揮できずに終わってしまいました。

おそらく、もっとできることはあっただろうし、もっと上を目指せたいです。当然悔しさもありましたが、そこで出会った人たちとはかけがえない出会いをできたと心から思っています。もしも、この大会に出場しようか迷っているならば、参加して、そして地方大会を勝ち抜いて全国大会という素敵な場所に立ってほしいと思います。



富山大会代表 富山県立富山高等学校 1年
紙井 健人

今回エコノミクス甲子園に出場させていただきとても貴重な経験とさせていただきます。

1日目の「たほいや」は、間違いの選択肢を他のチームに選ばせるというものでした。ただ知識を知っているだけではだめで、いかに相手に選ばせるような選択肢を作るということが重要なゲームでした。これが今後の自分が身に付けていくべき金融知力への道しるべとなるような気がしました。

2日目のプレゼンラウンドでは、各班に分かれて他の都道府県の代表と共同で1つのビジネス案を作り上げるものでした。お互いに意見をぶつけ合い議論するような、能動的な経験は机上では得られない物事の本質を捉えたものだと痛感しました。また他の班のプレゼンを見てこんな考え方があったのか、と驚くことが多々ありました。このように能動的に物事を捉えることをこれからの人生においても心がけていきたいと思えます。前夜祭などでの他の都道府県の代表との交流も自分の視野を広げるよい機会となりました。自分が持っていない様々なことを知っている人や、株などへの実体験に基づいた深い知識を持った人などとの交流により、大きな刺激を得ることができました。当たり前のことかもしれませんが、世の中には様々な人がいるということを強く感じ、自分の今まで生きていた世界がちっぽけに感じるほどでした。

今回のエコノミクス甲子園を通して自分の勉強不足を改めて感じました。今後も金融知力を身につけていくとともに、知識に偏らない、実践的な経済への造詣を深めていきたいです。最後になりましたが、一緒に出場してくれたパートナーや、お世話になった金融知力普及協会の方々や地方金融機関の方々、学校の先生方の存在なくして、エコノミクス甲子園でこのような貴重な経験は得られませんでした。誠にありがとうございました。

富山大会代表 富山県立富山高等学校 1年
林 良彦

エコノミクス甲子園の地方大会に出場を決めて出場し、優勝してとても嬉しい気持ちになっていましたが、それから全国大会まではあつという間に経ち、その全国大会もすぐに過ぎ去ってしまいました。

今振り返ってみると、エコノミクス甲子園参加の経験はとても良い貴重な経験になったと思っています。他県の高校生の方と二泊三日の生活を共にすることは普段の高校生活にはなかなかないので、とても充実したものでした。参加前は知らない人たちと生活することになかなか気持ちが前向きにならずテスト前の大切な休日がつぶれることもあり、東京についてお土産を買ってすぐに帰らなくなったのが本音だったのですが、その気持ちもエコノミクス大会に参加してすぐに消えました。他県の新しい友達もでき、他県のチームと共にグループワークをできたこともとても刺激的でした。グループワークやエコノミクス甲子園の大会自体の結果は満足のいくものとはなりませんでしたがとても楽しい思い出になりました。

しかし、今回の大会では悔しい思いをしたのも事実です。僕たちは他県のチームに比べて圧倒的に勉強量不足であったことを痛感しました。エコノミクス甲子園は勝ち抜くには運も多少ありますが、やったらやっただけ結果がついてくるものであると感じました。今回感じた悔しさを糧にこれから日々学習し、来年のエコノミクス甲子園にもぜひ参加させていただき、今回優勝された長崎西高校のチームのようにリベンジを果たしたいと強く思いました。

富山に帰り、周囲の人に感想をよく聞かれました。僕は「めっちゃ楽しかった!」と返します。エコノミクス甲子園への参加は本当に夢のような体験でした。誰でも参加すれば楽しめるものだと確信しています。興味のある人にもぜひ勧めたいです。

今回得た金融に関する知識はこれからの人生の中で大きく役に立つものであると思っています。金融に興味を持って生活し、将来株取引もしてみたいと思えます。

最後になりましたが、今回エコノミクス甲子園に参加させていただくにあたり、地方大会、全国大会を開催していただいた関係者の皆様は大変お世話になりました。ありがとうございました。



石川大会代表 金沢大学人間社会学域学校教育学類附属高等学校 2年
白石 廉

今回私たちは、将来社会人になって就職した時しっかりとお金を扱えるように学んでおこうと思い、先生から勧められたエコノミクス甲



子園に出場しました。予選となる地方大会では事前に配られた事前教材の多さに驚きながらもしっかりと勉強したので筆記クイズはよく解けました。地方大会の決勝戦でも、日頃から時事問題や世界情勢を、新聞を通して注目していたお陰か、2位と競りながらも堅実に勝ち進むことができました。全国大会は僕にとってははじめての大きな大会であり、初めてのことが多かったけど緊張しながらも大会関係者の協力のおかげで無事に過ごすことが出来ました。特に2日目のプレゼンラウンドでは初めて県外の学生や台湾の学生と話すことができ非常に楽しく有意義な活動でした。時には意見がぶつかりあう事もありましたが、しっかりと合意形成し最終的には一つの案にまとめることができ良い経験になりました。さらに、上位3チームのプレゼンは僕たちにはない視点から提案されているものが多くまた実際に具体的な試算がなされていて素直に驚きました。3日間で特に緊張したのがやはり本戦の早押しでした。1問でも間違えれば、予選敗退ということになるとか2問目にして答えることができました。しかし予選を通過できず第2・第3ラウンドを生かすことができなかったのは非常に残念でした。

予選敗退という結果にはなりませんが、非常に密度の濃い日を過ごすことが出来、この大会を運営してくださった方々にはすごく感謝しています。本当にありがとうございました。

石川大会代表 金沢大学人間社会学域学校教育学類附属高等学校 2年
石井 諒亮

僕が、この大会に参加して一番感じたことは、世間は広いということです。

僕たちは、地方大会を優勝して、もしかしたら、全国でも優勝できるかもしれないと思っていました。しかし、1日目のオリエンテーションの「たほいや」をしてみて、あつと驚かされました。まんまと偽の選択肢に引っかかりました。おそらく全員がたほいや初体験であるにも関わらず、巧みに選択肢を作っていました。そして、2日目のプレゼンテーション。自分たちの班は、悪戦苦闘しながらも、うまくプレゼンテーションをまとめたと思っていましたが、上位3チームのプレゼンを聞いて、やっぱりまだまだだな、と痛感しました。自分たちは、他の都道府県との差別化ができておらず、ビジネスのヴィジョンがしっかりできていなかったと思いました。さらに3日目は、多種多様なクイズ。こんな答えられないだろうというような問題も他の高校生は答えており、同じ高校生とは思えませんでした。そうこうするうちに敗退しました。悔しいと思うと同時に新たな世界を見れたなと思いました。

僕たちは、エコノミクス甲子園を終えました。しかし、新たな出発点だと思えます。全国の高校生と協力し、また競い合ったことで、新たなものの見方、またこれから自分がしたいことへのモチベーションが生まれました。僕は、新たな人との出会いのために、大学受験に向けて、頑張ります。そして、大会で学んだ金融知力をこれからの人生に活かします。



福井大会代表 福井県立藤島高等学校 1年
坪田 実那美

東京に降り立つと、数時間前までは見ていた山のように積もった雪はもうどこにも無く、風はとても乾いていて、本当に東京に来てしまったという実感とともに、一気に不安な気持ちに駆られた。地方大会を勝ち抜いた凄いい高校生たちとこれから戦うのかと思うと、少しばかりの期待はあったが緊張の方が大きかった。

1日目、会場に入った途端、高校生の皆さんの雰囲気によって圧倒された。宿舎では洛南、知徳さんと相部屋で、すぐに打ち解けていろいろな話ができてとても安心したのを覚えている。2日目、プレゼンラウンドでは、東海、徳島市立、精思さんのチームだった。地方創生×2020×ローカルという複雑なテーマだったが、チームが打ち解けて仲が深まるうちにだんだんアイデアもまとまってくるのがわかった。上位プレゼンには残れなかったが、とても良い経験になったし、何よりメンバーのことはずっと忘れられないと思う。そして前夜祭は沢山の高校生とお話しできて楽しいひと時だった、と思えば容赦無く筆記クイズが始まった。やはり全国大会、レベルが高い。終了後は2人とも落胆しながら宿舎に戻った。3日目、六本木ヒルズへの道中では、もうここまで来てしまったのだから最後まで粘って全力で楽しむと自分に言い聞かせた。予選の早押しでは、クイズに挟まれながらも、運を味方につけられたのか、押し勝って最高得点の30ポイントを手に入れられた。さらに中間発表ではラ・サール、岐阜に次いで3位で予選を通過、望外の結果だった。好機が来たと、とにかく粘った。そして準々決勝を勝ち抜き、準決勝へ駒を進めた。だがあまり上手く戦えず、最終結果は8位に終わってしまった。問題には正解したのに運用に失敗して所持金が減ってしまうのは非常にもどかしかった。ただ、積極的に攻めに行けたので、自分たちの悔いの残らない戦い方ではあった。エコ甲の過酷さを味わった。決勝は自分たちのレベルより何段階も上だったが、だからこそさらに力をつけて、来年もここに帰って来たいと思わせてくれた。

そしてこの3日間で最も印象深かったのは、沢山の高校生の皆さんと仲良くなったことだ。行く前に想像していたよりも遥かに充実した濃密で刺激的な3日間だった。最後に、エコ甲スタッフの皆さん、北陸銀行・太田さん、そして全ての出場者の皆さん、貴重な経験をさせて頂き、本当にありがとうございました。

福井大会代表 福井県立藤島高等学校 1年
鷺田 樹音

私の友人は色々な大会で全国へ行き、友達を作っていて、私は



彼が県外に沢山の友人を持っていることが羨ましかったです。ですが、今回私もエコノミクス甲子園全国大会に出場したことで、多くの友人を得ることができました。

そもそも私がエコノミクス甲子園に出場したのも彼がきっかけでした。私は今までこのような大会に自発的に出るタイプではなかったので、彼からこの大会のことを聞かなければ知りもしなかったでしょう。そして偶然にも、彼から話を聞いた後、今の相方に誘われたのです。

エコノミクス甲子園の全国大会は私にとってとても刺激的なものでした。行く前はかなり緊張していて、初対面の人と上手くやれているか不安でしたが、いい人ばかりでした。1日目のプレゼンテーションでは他県の優秀な高校生とチームを組み、レベルの高い話し合いができたことは感動でした。「エコ甲は知力以上にコミュ力が必要だ」と相方と話したものです。このプレゼンのおかげで交友が広がったのは良かったと思います。

今回の結果は8位。と一歩届かずな成績でしたが、来年は必ず優勝したいと相方と2人で意気込んでいます。しかし、結果よりも、私はこの大会で多くの友人を作れたことが一生の財産であり、「来年は絶対優勝してな!」と励ましてくれる彼らのためにも、来年またこの舞台に戻ってきたいです。



山梨大会代表 山梨県立甲府南高等学校 2年
渡邊 舜平

エコノミクス甲子園は私にとって楽しくもあり悔いの残った大会でした。

2日目のプレゼンラウンドでは、くじで引いた県に関連した起業をプレゼンするものでしたが、私達が引いた県にはそれといった特徴が無く（その県の方には申し訳無いですが）かなり苦労しました。ですが、その中でもグループの中で活発に議論ができ完成までもっていったことは良かったです。今までにない貴重な経験ができました。山梨県のプレゼンをしたチームが優勝したので、是非皆さんも山梨県に来てください。

3日目第1ラウンドの早押しクイズでは、1問目に答えることができたのですが、3問目にも答えることのできる問題がでてしまい、少し後悔しました。

第2ラウンドでも私達は4択問題の4問全てに正解したにもかかわらず、その後の近似値クイズで勝ち抜けることができませんでした。相方には本当に申し訳無く思っていますし、私自身もこの悔しさは一生忘れないだろうと思います。

私達は予選で敗退してしまいましたが、ただのクイズ好きがこのような舞台に立つことができ、またエコノミクス甲子園を通して金

融知力と全国各地の友人を得ることができ、本当に嬉しく思います。この3日間常に楽しく過ごすことができました。ここでの経験と悔しさを糧にして今後の人生を生きたいと思います。このような素晴らしい大会を開催してくださりありがとうございました。

山梨大会代表 山梨県立甲府南高等学校 2年
大野 昂

エコノミクス甲子園には前回から参加した。きっかけは、学校に掲示されたチラシで、友人とクイズが出来るならやってみようということから山梨大会に参加した。結果は、3位だった。リベンジとして参加した今回は、優勝することができ、全国大会に進んだ。

1日目は、初めて他県の代表とも会い、ついに始まるのだという思いで、少し緊張した。だが、エコノミクス大会やその後の「たほいや」などで、徐々に緊張がほぐれてきた。また、同じ部屋に泊まった人も気さくで、すぐに仲良くなった。

2日目は、まず森様の講演とプレゼンの作成があった。講演からは「迷う前からやってみよう」など、今後の人生でも参考になることを学べた。プレゼンでは、他県の高校生とともに地方創生ビジネスを考えた。ビジネスモデルを考えるということは、あまりなじみがなく、はじめは苦労した。それでも、次第にアイデアが出てくるようになった。その日に初めて会った人たちと意見を闘わせるというのは中々刺激的な経験だった。前夜祭をした後は、筆記クイズがあった。金融経済に関する理解力が問われる内容で、普通の問題とは違って面白かった。

3日目は、ついに六本木で全国大会の日だった。早押しクイズ、3択クイズなど盛りだくさんだった。この日は、それまで勉強してきた分もあって、クイズを楽しむことができた。

今回の大会を通して、金融経済の知識はもちろん増えた。ただ、それ以上に全国の優秀な高校生に出会えたのは、非常に得難い経験だった。



長野大会代表 長野県松本深志高等学校 2年
水上 健吾

エコノミクス甲子園に参加して感じたことは、「もっと勉強しておけば良かった」ということです。去年の長野大会では決勝に残れず、今回初めて全国大会に出場することが出来ました。初めての全国大会だったので、どのような問題が出るか検討がつかず、とにかく事前に頂いた教材を読むことに専念しました。他にも現代社会の資料集や新聞を意識して見たりして対策をしていました。しかし、実際



に全国大会に参加して問題の難易度の高さや、他の高校生のレベルの高さに圧倒されてしまいました。

2日目の筆記クイズ。金融の仕組みに関して説明する問題で、なんとなく覚えていた事を問われたのでうまく記述できない部分もあり、知識の基礎をあまり固められていなかった事を痛感しました。

3日目では、準々決勝に進出するための大事な問題で、教材に書いてあった事が問われましたが、記憶が曖昧で答えることが出来ませんでした。ここでも勉強不足を感じて、非常に悔しかったです。

全国大会では力を発揮できず悔しい思いをしました。しかし、この大会を通して金融知力だけでなく、多くの高校生と交流ができ貴重な経験を得ることが出来ました。この経験はこれからの人生に必ず生きてくるとし、何より3日間楽しい時間を過ごせたので、全国大会に参加して本当に良かったと思います。

エコノミクス甲子園を作り上げてくださった全ての皆様、本当にありがとうございました。

長野大会代表 長野県松本深志高等学校 2年
丹羽 優希

第12回エコノミクス甲子園全国大会に参加させていただいたことに大変感謝しています。とても良い経験になりました。

3日間全て良い経験ではありましたが、その中でも最も印象深いのは2日目のプレゼンラウンドです。渡されたテーマが困難なものであっただけに、うまく案がまとまらないこともありましたが、同世代の優秀な方々と話し合い意見をぶつけ合い一つの方向に向かって協力しながら進んでいくというのはこの上なく楽しいものでした。あれほど楽しい経験は、3年間の高校生活の中で何度もできるものでは無かっただろうと思います。

肝心の3日目の大会ですが、自分たちは予選で敗退してしまい、壇上を見上げることとなりました。ラウンドが進んでもわかる問題が多く、とても悔しい思いをしました。しかしその中でも全く見当のつかない問題もあり、金融、経済の奥の深さというものを感しました。またそういった問題を答える学校もあり、同世代にこれほど優秀な人がいるのかと衝撃的でもありました。

この全国大会に参加し自分はとても得をしたと思っています。経済に関する知識はもちろん、ともに高め合える仲間や、戦った相手に追いつこうという意識など大会に参加して得られたものは大きかったです。大会から帰ってきてからは経済に関するニュースなどにも以前より目を通すようになったり、毎日の勉強時間が増えたり、大会への参加は自分にとって良い影響を与えました。今後の自分というものを考える時この大会は欠かせないものになるだろうと思います。このような場を与えてくださったスタッフの皆さんには大変感謝しています。ありがとうございました。



岐阜大会代表 岐阜県立岐阜高等学校 1年
今村 真輝

第12回 全国高校生金融経済クイズ選手権への出場が私の金融経済に対する思いを強くさせてくれました。私はもともとこの分野について興味があり、色々なことを学んでみたいと思っていました。しかし日々の生活に追われる中でそういった機会は中々得られません。そんな時このエコノミクス甲子園への出場をきっかけに金融経済の勉強への一歩を踏み出すことができました。地区予選から始まり、事前教材をペアの子と共に学習し様々な知識を得ることが出来たのはとても良いことだったと思います。そしてその積み重ねの結果、全国大会出場が決まった時は心から喜びました。また、その全国大会では各都道府県を勝ち上がってきた人達に良い刺激をもらいました。

特に私が印象的だったのが2日目のプレゼン大会です。突如知らされた知らない人とのグループでその日中にプレゼンを作成する。そんなことができるのかと不安もありましたが、グループ全員が熱く語り合い時にぶつかり合いながらも同じ方向に向かっていく、その過程において今まで感じたことのない充実感を得ることができました。3日目のクイズではもちろん楽しめましたが、自分の学習してきたことが結果に反映されて嬉しく思う反面、今までの学習姿勢について考えさせられることもありました。やはり差がついたのは事前学習教材ではなくそれを超えてどれだけ貪欲に他の知識を得ようとしたかだと思います。これまで多くの経済界の先駆者達が長い歴史の中で創造してきた経済学を本数冊で学べるはずありませんし、金融経済は時代と共に変化します。常に社会の動向を探り、どれだけ高いアンテナを張って情報を得ているか、それに尽きると思います。実際にベンチャー企業など起業して実業界で成功している人は社会を見つめ、未開拓の市場をターゲットにするなど未来を見据えている人だと思います。そうした意欲的に積極的に学ぼうとする姿勢、社会に目を向ける姿勢の重要性に改めて気付かされました。

来年はより発展的に金融経済を学び、また全国の場に立ちたいと思います。エコノミクス甲子園という素晴らしいイベントを開催していただいたスタッフの皆様、並びにスポンサーの皆様本当にありがとうございました。

岐阜大会代表 岐阜県立岐阜高等学校 1年
磯部 元政

私は、今回のエコノミクス甲子園全国大会を通じて、2つのことを学びました。



1つ目は、金融知力の獲得です。予選から多くの事前教材を用いて、それまで知らなかった金融経済のことをたくさん知ることができました。当初は用語だけ覚えていけば何とかなるだろうという気楽な気持ちでしたが、学習を深めていくうちに経済とはそんなに単純なものではなく、社会情勢、様々な法則、計算などが複雑に絡み合っており、出来ているものだと身をもって実感しました。

2つ目は、プレゼンの難しさと楽しさです。いきなり出会ったチームといきなり与えられたテーマで限られた時間でプレゼンを完成させるという難度の高い内容でした。最初のほうは案を出すたびに、欠点が見つかり、議論をする堂々巡りでしたが、チームの方々や昼食の時間も含めて活発に議論をし、なんとかプレゼンを完成させることができました。私たちのチームも精一杯努力しましたが、何よりもFチーム（鹿児島、沖縄、静岡）の方々の力があってこそそのプレゼン優勝だと思っています。本当にFチームの皆さんには、感謝しています。ありがとうございました。このプレゼンのおかげで普段はすることのない特別な体験をすることができました。

今回の大会で大事なことの1つはもちろん優勝を狙い、精一杯努力することです。しかし、それ以上に大切なことは、経済を通して自らを成長させることだと思います。今大会のおかげで私は、大きく成長することができたと思います。企画、運営をしていただいたスタッフ、金融機関、金融知力普及協会の方々には本当に感謝しています。ありがとうございました。



静岡大会代表 知徳高等学校 2年
下條 航大

エコノミクス甲子園地方大会への出場は高校の先輩方が去年全国大会へ出場していたこともあり、既定事項であるかのように決まりました。

勉強を始める前は社会が比較的得意だったこともあり、恐らく大丈夫だろうと楽観視していました。しかし、実際に勉強を始めると自分が金融に関していかに無知であるかを思い知らされました。それでも、なんとか地方大会を勝ち抜き全国大会への出場を決めることができました。

ただ、このままでは全国大会では全く通用しないだろうとわかっていました。そのため、地方大会終了後全国大会までの2ヶ月間は、県大会までの勉強とは量においても質においても違った勉強をしなければなりません。口でいうのは簡単ですが、クイズに出るような金融知力を周りの人と比べるとということは難しいので自分のレベルが把握できずどこまで勉強すればいいのかかわからず、とても大変でした。

それでも、全国大会では2日目のプレゼンテーションで良い順位だったことが大きく、幸運にも勝ち上がることができ、結果的には準決勝まで残ることができました。

今回のエコノミクス甲子園を通して金融知力と自信を手に入れることができました。この金融知力はこれから大学生や社会人になっても非常に大きな武器になると思います。そしてこの武器をより良いものにできるように努力して、ひとりの人間として成長できるように頑張っていきたいです。

静岡大会代表 知徳高等学校 2年
森 愛美

エコノミクス甲子園の3日間で、何が最も印象に残っているか?と聞かれたら間違いなく2日目のプレゼンテーションと答えます。日常的に学校などでプレゼンをしていたわけではなかったので初めての挑戦でした。たまたま対象地域が地元に近い山梨県なのは私達の強みだ!とペアと話し合っていましたし、他のグループの対象地域と比べ首都圏に近いのも強みだと思いましたがそんなに簡単ではありませんでした。ラ・サール、岐阜、球陽と共に沢山の種類の案や山梨の課題を出すことに成功しましたが、沢山の案が出たことで意見がまとまらずに時間だけが過ぎて行きました。何となく自分自身の集中力が切れてきたのを感じたので昼食休憩を提案し、みんなでお昼ご飯を食べに行くことにしました。結果的にこのお昼休憩中に出たARアプリの案を採用してビジネスプランを組み立てることに決めました。ここまで来るのに相当時間がかかってしまっていたこと、他のグループの進捗が全く見えないことがとても不安だったのを覚えています。パワーポイントも発表の台本も任せっきりにしてしまっていたので、発表する係に名乗りをあげ、発表をさせてもらいました。予選の審査まで時間が無くてほぼ練習なしだったのでみんなには本当に申し訳ないと思いつつ本選の会場に移動しました。結果は予選で1位通過…。嬉しくもありましたが、そんなことよりも130人ほどの人の前で発表しなければならないプレッシャーで吐きそうでした。しかし、ここまで来た以上やらなくてはと思い、他の2グループが発表している間に予選での台本に修正を加えていました。発表中の記憶はあまりありません。とりあえず、同じグループのみんなに良かったよって言われたのでちゃんと喋れて良かったと安心しました。結果、プレゼンテーションラウンドを優勝という形で終わったのはとても大きかったです。前夜祭でも沢山の方にお声がけ頂きとても嬉しかったです。ありがとうございました。正直、同じグループのみんなと比べてしまったら全てが劣っていると思っていましたが、こんな風に褒めて貰えるところが自分にもあるのか!!という発見はエコ甲の大会中だけに限らず自分の自信につながりました。これも同じグループだったみんなのおかげです。ありがとう。

今回のエコ甲では金融知力はもちろん、自信、友人など様々なものを得ました。中でも、同世代にこんなにも優秀な子達が沢山いるんだ!という事はエコ甲に参加してみんなと話してみなければ分からなかったことで、とてもいい刺激でした。結果的に3日目の準決勝では全く歯が立たなく、7位という結果だったもの上に述べた通りに沢山得るものがありました。

最後に、金融知力普及協会の皆様、大会を援助して下さいの皆様、大学生スタッフの皆様、そして静岡銀行の皆様、良い経験をさせていただき本当にありがとうございました!!



愛知大会代表 東海高等学校 2年
岸 克真

2日目のプレゼン大会では福井、岡山、徳島と同じグループでした。プレゼンを作成するのは簡単なことではなく、時間ギリギリまで構想を練っていましたが発表までにはきちんとまとめることができ、大人の方々の質疑応答にも比較的スムーズに答えられたのではないかと思います。決勝大会に進むことはできませんでしたが、このグループで知り合った人たちと仲良くなることができ、またその上でコミュニケーション能力を高めることができたのは一生の財産です。

3日目の大会本番、緊張を相方が和らげてくれたおかげで第1ラウンドでは早押し正解することができたもののその段階で準々決勝出場が決まる12校には選ばれず、第2ラウンドも負けてしまい後がなくなりました。最後のチャンスとなる第3ラウンドではとても緊張しましたが今まで身に着けた知識に自信を持ち、勝ち抜くことができました。しかしその後の準々決勝で負けてしまいベスト24に終わってしまいました。

元々今大会に参加したのはクイズ大会というものに惹かれたからでした。経済に関する知識は高1のときに授業でやった程度のことしか知らなかったのですが、大会の対策をしていき経済に関する知識を付けていくうちにその奥深さに少しずつ興味を持つようになりました。大会の結果には少し悔いの残る感じとなりましたが、この3日間の経験と、大会に向けて身に着けた知識は今後の人生に生きていくと思います。素晴らしい大会をありがとうございました。

愛知大会代表 東海高等学校 2年
山田 航

エコノミクス甲子園に参加して、手に入れた大切なものが2つあります。1つ目はもちろん金融知力です。将来必ず必要となってくる金融知力ですが、なかなか学ぶ機会がないものでした。しかしエコノミクス甲子園はチームの相方と2人で切磋琢磨しながら勉強する機会を与えてくださいました。勉強するための教材は事前に配られるので、クイズに今まで関わったことがない僕でも活躍することができました。本戦におきましても、楽しく日本中のライバルたちと金融知力だけでなく、それを応用して競い合える大会ルールなどが有り、とても充実した時間を過ごすことができました。

2つ目は、たくさんの友達です。1日目は、全員がライバルだという緊張感でいっぱいでした。しかしそれは2日目のプレゼンの準備時間に一切なくなりました。与えられた難しいお題に対する改善点や、投げかけられるだろう疑問点を考えるのは、ほんの6時間程度では足り

ませんでした。ただその追い詰められた時間の中で、自然と気さくに話せるようになり最終的には友達と言える仲にまで発展したと僕は考えています。その他にも友達を作る機会はたくさんあって、北は北海道から、南は沖縄まで友達ができました。

最後にとても楽しかったエコノミクス甲子園を企画していただいた方々ありがとうございました。そして誘ってくれた相方の岸ありがとうございました!



三重大会代表 三重県立伊勢高等学校 2年
清水 寛太

地方大会で謎の勝利をおさめ、その後十分な対策もできぬまま東京へ向かうこととなった。着くとすぐにエコノミカ大会があるのだが、そこではルールも曖昧な状態で2勝2敗というなんとも言えない成績を残した。その後「たはいや」で勝利をおさめ（今大会で唯一の勝利）図書カードを獲得するなどした。そして1日目の行事は終了し部屋に向かった。岩手県の人と同部屋であった。仲良くしていただき非常に良かった。2日目は謎のラジオ体操から始まった。その後のプレゼンラウンドでは他の人のすごさを痛感した。そして次の決勝プレゼン（我々は出場できなかった）でも他の人たちの凄さを痛感した。その後前夜祭があった。ビンゴ大会では自明に敗北を喫した。そしてその後もう21時ぐらいでしかも飯を食べた後で眠気に襲われそうなのだがここで筆記クイズである。地方大会と比べればセンター試験と東大ぐらいの難易度差である。この時点でもう少し対策をすれば良かったという後悔の念に襲われた。3日目ついに外に出た。東京メトロで乃木坂駅まで行き「君の名は希望」を聞いたのち会場へ向かった。クイズは楽しかったが結果は出せなかった。予選落ちである。その後プロたちの戦いを見て感銘を受けたのち帰路についた。圧倒的な実力の無さを痛感した3日間であった。

三重大会代表 三重県立伊勢高等学校 2年
奥山 貴康

地方大会5ヶ月前の夏、相方に出ないか?と言われ、本大会に参加することになった。地方大会には消極的で、事前学習はほとんど相方に任せ、自分はよく分からないまま当日を迎えた。地方大会では相方の活躍により運良く優勝することが出来た。相方も含めて大した勉強はしていなかったため優勝したときはあまり実感が無かったし、狐につままれたような気分だった。優勝後はインタビュー、地方TV番組への出演、県知事への訪問などで、大いに持ち囃され、また全国大会での活躍を期待された。地方大会から全国大会までの長いようで短かった2ヶ月間は普通の学校の勉強と上手く両立する





全国大会感想 Final tournament report

ことが出来ず、大会への準備はあまり出来ずに過ぎていった。全国大会の1週間前から事前学習教材さえも修了していなかったことから強い焦燥感に駆られ、学校の授業中も、帰ってから必死で勉強した。しかし、「時既に遅し」といった感じで、間に合うはずなかった。そして、十分な準備も出来ず、2月16日（金）、僕達は東京に向かった。たくさんの人の期待を背負いながら。

新幹線の中で、勝てる見込みもないのに、わざわざ遠く離れた東京まで行くのかと思うと不思議に感じたが、エコ甲全国大会だと思えばと高揚するという2つの相反するような感情が湧いてきた。

そして東京に着き、16、17日の会場へと向かった。会場に着くと、まず大学生のスタッフさんが温かい雰囲気の中、笑顔で迎えてくれた。そこでチェックインを済ませ、本大会最初のビッグイベント(?)であるエコミカ大会へ参加した。3戦全勝の好成績を収めた。(優勝者の)名前を呼ばれるのは僕かもしれない、と1人内心ドキドキしていたが、結果は虚しく上位入賞はかなわなかった。その後はレクリエーションを含めたオリエンテーションがあった。このとき会場内の他県代表の方とも交流することが出来た。どの人もとても仲良くしてくれて良かった。特に偶然対面で座った福岡代表の方とは共通の趣味である乃木坂46の話でとても馬が合った。大会を通して福岡代表と話せたのはこのときだけだったのでとても残念だった。今でも彼らはどうしているのかなと気になるほどである。

1日目はエコミカ大会とオリエンテーション(たはいや含む)だけで終わり、与えられた部屋に帰った。

部屋は岩手代表の方と相部屋になった。2人ともとても仲良くしてくれ、スポーツや勉強の話などで盛り上がったのでとても良かった。

こうしてエコミクス甲子園全国大会の1日目は終わった。2日目は朝6:30くらいに起こされ、なぜかラジオ体操をさせられた。それから朝食を済ませた。その後、一休の創業者のとてもありがたいお話を聞いた。とても貴重な話が聞け、濃密な時間になった。

その後は夕暮れまでプレゼンラウンドだった。このプレゼンラウンドではいきなりお題を発表され、他校の人とグループでプレゼンを完成させるのだが、出されたお題に関して何も知らなかったし、どの方向性で攻めたら良いのかも分からなかったため、本当に辛かった。それでも、他校の方と力を合わせてなんとか完成させた。しかし、努力は届かず、そこで修めた成績は開示されていないが、おそらく下から数えた方が早いくらいだったと思う。その後は前夜祭で夕食を済ませてから筆記試験が行われた。筆記試験を終え、部屋に戻り、風呂に入り、疲れきった岩手代表を含めた我々はすぐに寝てしまった。

いよいよ最終日である3日目がやってきた。朝6時に起き、朝食を済ませ、全体で大会会場の六本木ヒルズハリウッドホールへ向かった。六本木ヒルズへ行く途中に地下鉄を利用した。ここで、乃木坂駅を利用したのだが、乃木坂ファンの自分としてはかなり嬉しかったし、嬉しかったのは自分だけではなかったはずだ。乃木坂駅で君の名は希望を聞き、気分は高揚したまま六本木ヒルズの会場に到着した。3日目は最初に早押しラウンドが行われた。ここでは上手く結果が振るわなかった。この時点でプレゼン、筆記試験、早押しの合計点から次のラウンドに進める上位12チームが発表された。わかってはいたが、この12チームには残れなかった。同じプレゼンの組だった、大会優勝した長崎西が12位でギリギリ通過した。今考えるとプレゼンで同じ組だった洛南(筆記はよく出来たと言っていた)も通過できていなかったことから、プレゼンの順位(開示されていない)が相当悪かったのだなと思った。

敗者復活ラウンドでも振るわず、結果は予選落ちということになってしまった。十分な準備が出来ていなかったのも、悔しいというより



恥ずかしいという気持ちの方が遥かに強かった。ここまで支えてくださった方々、期待して下さった方々、特に地方大会から全国大会までずっと支えてくださり、ときには気さくに話してくれた百五銀行のMさんに非常に申し訳なく思った。

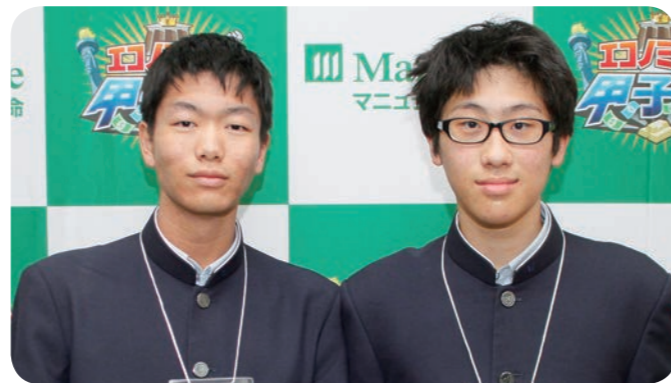
それ以降は参加者から傍観者になり、大会の進行を与えられた席で座りながらただ静かに見ていた。長崎西が優勝したときも嬉しかった。それは彼らがプレゼンの時の仲間だったり、長崎西高校が樺坂46の長濱ねるの出身校であったり、修学旅行で長崎を訪れたことから個人的に長崎が好きだったからなどのいろいろな理由があったが、一番は長崎西のペアは2年連続で出場しており、1年越しの努力が報われたと思ったからだ。大会終了後に百五銀行のMさんが励ましに来てくれたが、やはり残念そうだった。もう1度言うが、本当に申し訳なかった。

こうして、3日に及ぶ大会は幕を閉じ、我々は帰路についた。

地方大会から全国大会まで俯瞰して見てみると、参加したいへん良かったと思う。また、大会の運営して下さった大学生スタッフさんは全員とてもいい方たちで、1度も不快な感情は起こらず、むしろ自分は人見知りなところがあるので不快な思いをさせてしまったのではないかとさえ思う。運営に携わって下さった大学生スタッフさん(とその上司さん)に加え、大会を通して支えて下さった方には、筆舌に尽くし難いが、とても感謝している。

この大会で培った金融知力はこの先の私の人生の財産であり、この現代を生きる上で必要なものだと思う。

最後になるが、プレゼンラウンドと筆記試験の成績(順位、得点)を開示して欲しかった。自分たちが集中して一生懸命出した結果がわからないのは非常に残念だった。刺激的で非日常的な素晴らしい3日間でした。ありがとうございました。



滋賀大会代表 滋賀県立守山高等学校 2年 大塚 遥輝

エコミクス甲子園は、振り返ると長くて短いものでした。この大会ではたくさんのことを学びました。

まず、各大会の振り返りを少し書きます。今後出場される方の参考になることは多いかなと思います。

地方大会は標準的な経済学の知識が主でした。事前学習教材をよく勉強すれば問題ないと思います。全国大会は幅広く、レベルの高い知識が必要でした。各国の経済状況や規模、取引用語、経済史、マクロ、ミクロ経済学など、たくさんの分野を学習する必要があります。1人で習得できる量には限界があり、また自分1人では出会わなかったであろう知識を得るためにも、ペアとの協力は必須で



全国大会感想 Final tournament report

す。当たり前ですが、2人ともよく勉強するべきです。今回これを痛感しました。

全国大会には知識問題だけでなく、プレゼンの発表も試験としてあり、これは非常に大事です。プレゼンで上位3位に入った3組(12チーム)は、ほぼもれなく予選を早い段階で通過します。予選を通過する順番は準々決勝以降の勝敗に大きく関係するので、プレゼンを取ると有利です。

エコミクス甲子園は、単なるクイズ大会ではなく、チャンスを与えてくれる場所です。全国大会では、全国の優秀な高校生と出会い、偉大な起業家の方とも会えました。さらに僕はテレビに出演するチャンスも得ることができました。地方大会を勝てば東京まで連れて行ってくれるのですからそれだけでもありがたいことでした。全国大会には、想像もできない出来事が沢山あります。どの経験も貴重で、とても深いものでした。だから、全国大会まで行くこの大会の本当の面白さを味わえると思います。この大会と出会えたことは、とても幸運だったと思います。

最後に、この大会を主催して下さった金融知力普及協会、スタッフの皆さん、たくさんのことを教えて下さった水谷さん、御支援くださる森さん、大変感謝しています。ありがとうございました。また、同じ部屋になった宮城代表の2人、プレゼンでも協力した富山代表の2人、共に過ごして、とても楽しい3日間でした。いつかまた会える日があれば嬉しいです。

滋賀大会代表 滋賀県立守山高等学校 2年 齋藤 巧太郎

僕がエコミクス甲子園に参戦した理由の一つに、「前年の地方大会の雪辱を晴らす」というのがあった。去年(2016年)の地方大会では調子が振るわず、予選落ちという悔しい結果であったため、今回はこの思いを払拭すべく参加しようと考えていた。

ここまで書いておきながら、実は今年は去年ペアを組んだN君が既に他の人とペアを組んでおり、僕は当初は地方大会に出場する予定は無かった。しかし、N君が地方大会に出られなくなり、僕に代わりに出てくれないかと頼んできた。僕は前述の理由を持っていたため、快く引き受けた。これが今年ペアとなる大塚君との出会いである。

幸運が重なって、地方大会は見事優勝することができた。決勝用の事前学習教材を片手に、僕達は17時に会場入りした。そのまま始まったエコミカ大会は、ルールを当日確認したにも拘らず、3戦して全勝することができた。その後オリエンテーションを聞き、宿泊棟に向かった。相部屋の宮城代表の2人といろいろな話をして盛り上がった。

2日目は「予選ラウンドで一番配点が高い」と予想していたプレゼンテーションラウンド。僕は出た意見を纏めてパワーポイントに打ち込んだ。結果として優秀賞には選ばれなかったが、他の代表の人と意見交流ができ、とても良い経験になった。夜のペーパークイズでは、地方大会のそれとは違いとても難しく、この先のラウンドに対する不安も生まれ、決して良いと言える出来ではなかった。

3日目の決勝ラウンドは、相方の膨大な知識のおかげで準決勝まで進むことができた。感謝の意しかない。

この大会に参加して、僕は今まで金融経済に関しては無知であったが、この2年でそれに対する興味が芽生えるようになった。このような素晴らしい大会を企画して下さった金融知力普及協会の皆様には感謝の意を表したい。



京都大会代表 洛南高等学校 2年 石川 賛

この一年、全国大会で優勝することを目標に据えて勉強に励んできた僕たちにとって、予選敗退という結果はあまりにも不甲斐ないものでした。誇張を抜きにしても、間違いなく今まででの人生で一番悔しい出来事でした。

でも、そんな悔しさを吹き飛ばしてしまうくらいいい思い出も山ほどできました。行きの新幹線で食べた駅弁は美味しかったし、大学の食堂のご飯も美味しかった。前夜祭では美味しいものを沢山食べることができ、3日目に食べたカツサンドは今まで食べたどのカツサンドよりも美味しいカツサンドでした。また前夜祭のビンゴ大会では、いろんな学校、金融機関の方とお話することができ、とても素晴らしい時間を過ごすことができました。頂いた「ケロリン桶」は一生の宝物にしたいと思います。そして何より、3日目の全国大会本番。残念ながら準々決勝以降に出場することはできませんでしたが、趣向が凝らされたルールの中で繰り広げられるハイレベルな戦いに、客席から見るだけでもハラハラドキドキがとまりませんでした。

今回東京で過ごした3日間、また、それに向けて勉強に取り組んできた1年間はとても有意義なものであり、必ずや今後の人生の糧となるものであると確信しています。お世話になったスタッフの皆様や京都銀行の皆様、そして一緒に出場してくれた巽さんには感謝してもしきれません。本当にありがとうございました!

京都大会代表 洛南高等学校 2年 巽 愛那

昨年度、エコミクス甲子園の京都大会が新設され、今年と同じペアで出場したが、結果は準優勝。もっとしっかり対策すればよかったとか、もう一度やり直したいとか、それまでに感じたことのない後悔や悔しさが湧き上がってきた。だから今回の全国大会出場が決まったときはとても嬉しかったし、一層気合を入れて臨んだ。

全国大会2日目のプレゼンラウンドでは、私自身初めての経験が多く、このような実践的能力も問われるのがエコミクス甲子園なのだ改めて実感した。その後のペーパークイズや3日目のラウンドでも上手いかず、結局私たちは準々決勝に進むことができず敗退した。昨年の京都大会で負けた時、人生でこれ以上悔しい思いをすることはなかなかないだろうと感じていたが、早くも一年で更新してしまった。

反面、東京に行ったことがあまりなかったのも、正直全国大会に





行けるだけで嬉しかった。行きの新幹線では車内販売のアイスを買ってはしゃぎ、宿舎に着いてからは敷地内を歩き回って、建物の陰に溶けずに残っている雪を見つけてはしゃいだ。1日目のエコミカ大会や2日目の前夜祭などの、他校の高校生や金融機関の方々と交流する場も設けられていて、とにかく3日間を通してとても楽しかった。悔しい思いもたくさんしたが、それによって自分たちの改善すべき課題を再認識できたため、本当に参加できてよかったと思う。



大阪大会代表 大阪星光学院高等学校 1年
木村 秀太

エコミクス甲子園に出場しようとしたきっかけは、昨年先輩が全国大会に出場していたからです。クラスメイトを誘い、8月にはエントリーを済ませてしまいました。そこから地方大会に向けて勉強し、その日を迎えました。相手は不安そうな一方、僕はなぜか自信満々でしたね。その感触通り、地方大会を勝ち抜けることができ、全国大会進出が決まりました。すると今度は全国大会に向けて勉強し(ここだけの話、僕は多忙な日々が続いて、地方大会ほど対策ができなかったので相手には申し訳ないです)、いざ本番!ここからは軽く振り返ろうと思います。

1日目
学校の授業を抜け新幹線で東京入り。エコミカ大会は練習の成果が出ず惨敗。「たはいや」は面白かったです。

2日目
エコ甲を制するにあたって絶対に避けては通れないプレゼンテーションラウンド。グループみんなで協力した結果、何と準優勝することができました。まさかの結果に自分でもびっくり!これが3日目の結果に大きく影響することになります。筆記クイズは難しかったけど、思いのほか取れていたようでした。

3日目
前日に積んだポイントが効き、中間発表5位で準々決勝進出!順調すぎて自分でもわけがわかりません。準々決勝では序盤にミスをするも、最後はここでも予選順位が効いてまさかの準決勝進出!!でも、準決勝はルール複雑さ、問題の難しさに歯が立ちませんでした。純粋に力不足を痛感しました。決勝の壁を感じました。

総括
高1にしてはかなりのいい結果でとても嬉しかったです。でも、悔しさも残る結果でした。来年はまた全国の舞台に戻ってきて、今度は優勝を目指したいです!!最後に、この大会に携わっていらっしやる全ての皆様、本当にありがとうございました!

大阪大会代表 大阪星光学院高等学校 1年
尾崎 巧基

「尾崎〜エコ甲参加しようぜ〜。」(この発言には記憶違いが含まれている可能性があります)これが僕の冬の過ごし方を大きく変えてしまいました。良い意味で。

金融や投資というお金を右から左に動かして、利益を得ていくという少し悪いイメージがあったことは否定できませんし、金融商品は全部投機のようなものだと思込んでいました。しかし、エコ甲の勉強をしていくうちに金融、経済について学ぶことはとても大事なことだということがわかりました。この社会が今日のように豊かになったのは金融の役割が大きかったということが実感できました。学んだことの一例ですが、日本人は一般的に貯蓄が好きで国民性だと言われています。しかし、この国民性は政府の政策によるものが大きいということには驚きました。

大会では趣向を凝らしたルールのもとで行われたクイズはとても面白く、やる側としても観戦する側としても両方楽しめました。またエコ甲には純粋なクイズ大会だけではなく、今までに学んだ金融知力と昨今話題のコミュニケーション能力、説明する能力が求められるプレゼン大会もあり、とても面白かったです。

この大会を主催してくださった方々や支援してくださった方々、運営してくださった方々、そして僕をこんな素晴らしい大会に誘ってくれた友人に感謝します。

第13回大会にも絶対出ます。本当にありがとうございました。



兵庫大会代表 神戸女学院高等学部 2年
中島 理乃

どうして数学とか化学の甲子園はあるのに、経済の甲子園はないのだろう…。と思っていた時にたまたまポスターで見つけた大会がエコ甲でした。地方大会敗退の前のリベンジをかけた全国大会。1日目はアクティビティ、2日目は、森氏の基調講演があり、その後、初対面の高校生たちとプレゼンラウンド。地方創生というテーマで福島が当たり、その上女子校では普段関わることのない男子とする、ということで不安でした。最初の方こそ話も弾まず、どうなるのかと戦々恐々としていましたが、お昼ご飯で仲良くなり、最終的には「ベンチャー企業」の強みを活かした挑戦的なプランが作成できました。決勝には進めなかったものの、前夜祭でお褒めの言葉を頂いたりして嬉しかったです。そして3日目、早押しで「下半期は何ヶ月」という超常識的な問題に答えられず、全国の怖さを感じました。結局敗者復活戦でも勝ちあがれず、予選敗退という結果に終わってしまいま



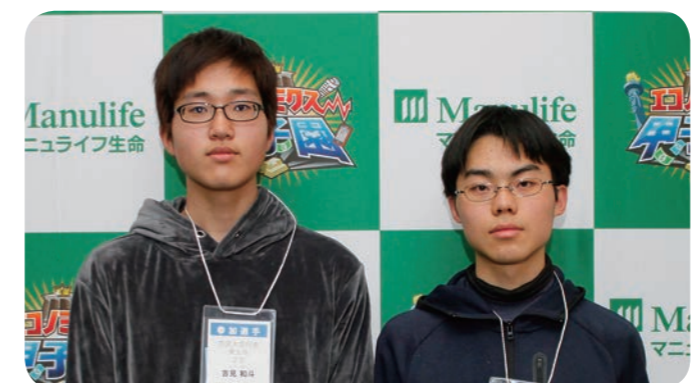
した。自分の勉強不足を痛感する結果でしたが、それ以上に普段関わることのない経済界の方、全国から来た高校生と関わり、話せたことに価値がありました。

最後にベアの山本さん、応援してくれた両親、友達、先生方、東京に同行し、応援してくれた中畑さん、エコ甲を開催してくださった池田泉州銀行さん、金融知力普及協会さん、スポンサーの皆様、そしてスタッフの皆さんに感謝します。こんなに楽しい大会を開催して下さい、ありがとうございました。エコ甲ロスから抜け出せません(笑)

兵庫大会代表 神戸女学院高等学部 2年
山本 亜侑

今回のエコミクス甲子園は、2度目の挑戦でした。昨年度の兵庫大会では決勝に進むことすらできず、ベアの中島さんとリベンジを誓って1年、どうにか決勝には行きたいと準備をし、臨んだ今年の大会でしたが、優勝は正直予想外のことで、渡された大量の学習教材に慄きつつ、嬉しさより達成感より驚きが勝った瞬間でした。大会までは、分担して1問1答を作ったり、休みの日に2人で勉強したりと、それ自体が既に楽しかったです。迎えた大会では力及ばず予選敗退、と準備不足を痛感する結果となりましたが、多くの貴重な経験をさせて頂くことができました。1日目のエコミカ大会に始まり、2日目の短時間で企画からプレゼン完成まで持ち込む課題、3日目の様々な趣向を凝らしたクイズなど、全国大会での3日間は私にとって何もかもが新鮮でした。全国各地の高校生が一堂に会して競い合うあの空気感やある種の一体感あの場でしか味わえないものだったと思います。

素敵なプログラムの数々について行くだけで必死な3日間でしたが、プレゼンの基本的な形式やアピールの仕方、コミュニケーションのとり方、何より知識のアウトプットなど、うすらとは自覚していたはずの、自分に欠けている所をぐりぐりと抉られた大会でした。「知識」だけで終わらぬよう、「人間力」にまで昇華できるよう。この大会で得た経験を胸に日々精進していきたいです。スタッフの方々をはじめとする、この大きな学びの機会に関わってくださった全ての方に感謝します。ありがとうございました。



奈良大会代表 東大寺学園高等学校 2年
吉見 和斗

僕が初めてエコミクス甲子園に参加したのは、高1の時でした。なんとなく経済学に興味を持ち始めていた僕は、友人を誘って出る

ことになりました。そこでまず、経済・金融の知識の多さに驚きました。こんなにも様々な仕組みがあって、社会は動いているんだなあと、感心するばかりでした。その年は同じ学校の先輩方が全国に行かれましたが、友人と「来年こそは」と、全国大会を目指して1年間勉強し、今年は東京に行くことができました。

僕は本当に全国大会に行けてよかったと思っています。普段の生活では絶対に体験できないようなことを経験できました。2日目のプレゼンテーションでは、秋田県の地方創生について話し合い、企画を考えました。始めはあまり話が出ず、少しずつしか進みませんでしたが、昼食を終えてからはメンバーの緊張がほぐれ、どんどん話が進みました。僕がすごいなと思ったのは、話せるようになるとみんな当然頭が良く、スラスラお互いの意見を理解し、企画がまとまっていたことです。プレゼンは残念ながら上位3チームには選ばれませんが、良い出来だったと自負できるくらいのものでした。その後の前夜祭も、いろんな人と交流でき、とても有意義でした。

そしていよいよ本番、3日目。六本木ヒルズという豪華な場所で、全国大会が開かれました。第1ラウンドの最初で、「経世済民」を答えられましたが、シード通過はできませんでした。第2ラウンドでも通過できず、午後の第3ラウンドでようやく準々決勝に進出しました。あの時の喜びは忘れられません。

その後「テレワーク」が答えられず敗退しましたが、その後の戦いを見て、まだまだ実力不足だったなと感じました。しかし、全国レベルに初めて触れることができ、とても良い経験になりました。

最後に、この大会を企画してくださった金融知力普及協会の皆様、地方大会を開催してくださった南都銀行の方々、本当にありがとうございました。経済・金融に関する知識を勉強する機会を頂いただけでなく、とてもレベルの高い世界に触れることができました。この経験は、必ず将来役立てたいと思います。

奈良大会代表 東大寺学園高等学校 2年
藤澤 達也

思えばこのエコミクス甲子園、あと一步の連続だった。昨年は、奈良大会第3位。今年はリベンジし、奈良大会は優勝、全国大会へ。しかし、予選上位12組にはギリギリ残れず、第2ラウンド、第3ラウンドを経て準々決勝に。そして、第3ラウンド勝ち抜け組が圧倒的不利なルールの下で敗退。もし昨年地方大会で優勝していれば、もし筆記であと1問でも正解していれば……。考えるとときりが無い。

しかし、あと一步とは言いつつも、優勝チームや決勝、準決勝に残ったチームの方々と比べるとやはり差は大きかったように思う。私にとってまさに「初耳」な単語を当たり前のよう答えたり、複雑なルールを理解し、他のチームと駆け引きしたり。到底及びでなかったというのが正直な感想だった。

優勝された長崎西のチームは、前回大会敗退から1年間、勉強を重ねてこられたそう。僕らはクイズ研究会でもないけど、ずっと努力してきた、その努力が実ったような気がします。この言葉が(多少の誤差はお許しください)非常に印象に残っている。今回の大会には、クイズ研究会の、あるいはいわゆる進学校として有名なチームがそれなりに出ている。その中での優勝は、本当に努力されたのだろう。努力が報われた、そんなことを言える彼らには敗北感しかない。

とまあここまで書いてきて、我ながら悔しさが文章に滲み出ている。今まではどうでもよかった経済について、本気になって勉強した3ヶ月、あるいは1年だった。優勝したかったなあ……。しかし、閉会式で喋っていた何とかさん(名前は忘れましたが)曰く、「優勝」よりも、負けてしまった人の方がその悔しさを胸に頑張るらしい。見てろよ、長



崎西(笑)。
 ま、こんな思いをすることができたのも、エコ甲のおかげである。誘ってくれた吉見君、付き添いに来てくれた塚本さん、そして何よりスタッフの皆さん、ありがとうございました。



和歌山大会代表 智辯学園和歌山高等学校 1年
 安田 圭一朗

関西空港で家族に見送られ、飛行機で東京へ向かいました。到着時間の都合で1日目のエコミカ大会には参加できず、本格的なプログラムには2日目から参加しました。私たちは3日目の大会本番で選手宣誓をさせていただいたのですが、それを除いて一番印象に残っているのはプレゼンテーションラウンドです。それは私たちにとって大変難しく、しかし有意義なものだったからです。私たちのチームは三重県を基盤としたベンチャービジネスを考えるというテーマでディスカッションを行い、投資家を対象にしたプレゼンを作成しました。しかしそもそも三重県について私たちが知っていることはごく限られていました。また、プレゼンメンバー8人の知識は全く違っていたので、課題解決の方向性についても意見がよくまとまりませんでした。メンバーはそれぞれ自分の身近にあるビジネスを参考にしようとしたのですが、8人の出身地は都会から地方まで、温暖な地域から寒冷な地域までさまざま、うまく組み合わせるのが難しかったです。これからの社会を生きる私たちにとって、地方創生は重要なテーマです。しかし普段の学校の勉強では地方創生について考えることも無ければ、そもそもグループでディスカッションしてプレゼンを作るような機会さえほとんどありません。今回のプレゼンラウンドでは、違った知識や意見を持つ人と課題を解決する難しさを実感しました。こういった点から、今回の全国大会では貴重な経験を積むことができたと思います。

和歌山大会代表 智辯学園和歌山高等学校 1年
 大谷 竜斗

関西空港を後にし、東京に着いた時は東京の人とビルの多さに驚きました。エコミカ大会には間に合いませんでしたが、無事会場に着き、その日は明日への期待を胸に寝ました。そして土曜日の午前中は森社長の講演を聞かせていただきました。ベンチャー企業や起業に興味があったので、講演は有意義なものでした。昼からの、プレゼンラウンドは初対面の人と真剣にビジネスプランを考えましたが、これがとても難しかったです。初対面で気まずく、意見も出しにくかったです。そんなこともありプレゼンラウンドの結果はあまり良くなかったです。そして前夜祭では他県のチームと仲良くなったり、智辯

のOBの方とお話ができたりして、楽しい時間を過ごせました。また、僕達和歌山県代表が選手宣誓をさせていただくことが発表され、やりがりの僕はとても嬉しかったです。

そして日曜日、選手宣誓はうまくいきましたが、クイズは予選ラウンド敗退しました。でも、その後のクイズは楽しめました。全国大会のクイズはとても難しく、全くわからない問題ばかりでした。そんな難しい問題も相手はスラスラ答えることができていました。脱帽です。自分ももっと多くの知識を身に付けたいと思いました。また、この大会に誘ってくれたおかげで、金融、経済の楽しさがわかったので、相手の安田にはとても感謝しています。この大会を通してわかったことは、金融、経済はめっちゃ面白い!ということです!



鳥取大会代表 湯梨浜高等学校 2年
 杉本 麻好

地方大会に参加することを決めたのは締切日の前日でした。そのため、準備期間は短かったので、基本的な知識をとりあえず詰め込んで臨み、当日は2人で力を合わせ何とか全国大会への切符をつかみ取ることができました。

全国大会は、とても充実しておりあっという間でしたが、いろいろな場面でたくさんの刺激を受け、自分の力不足を痛感させられた3日間でした。その中でも、特に印象深かったのはプレゼンテーションラウンドと前夜祭です。

まず、プレゼンテーションラウンドでの議論は、非常にレベルが高く、圧倒されました。入賞はできなかったものの、議論の内容やチーム内の雰囲気などは満足いくものでした。昼食の時には、互いに自己紹介・質問をし合い、楽しい時間を過ごすことができました。チームの皆さん、本当にありがとうございました。

また、前夜祭では、金融機関の方々や他県の代表の皆さんとより交流を深める良い機会となりました。非常に思い出に残る体験でした。

エコミクス甲子園に参加することで、金融知力の奥深さを知りました。大会に向けて勉強するうち、保険や年金、金融、投資など将来役に立つ知識を得ることができました。今回の経験を大切に、これからの人生をより豊かにするために、金融経済について学び続けたいと思います。最後に、金融機関、大学生スタッフ、参加者の皆様、大変有意義な時間を頂き、本当にありがとうございました。



鳥取大会代表 湯梨浜高等学校 2年
 岸本 万由子

この大会に出場したきっかけは、学校でチラシが配られたことだった。私は理系なので、正直、最初は気にもしていなかったが、友達に誘われ、出場することになった。しかし、まさか全国大会に行けることになるのは夢にも思わず、それだけでとても嬉しかった。

結果は、予選敗退と、残念な結果だったが、学んだことは2つある。まず、全国の高校生のレベルの高さだ。3日目の全国大会本番でももちろん感じたが、それより、2日目のプレゼンの方がとても印象的だった。テーマは、地域の特性を活かし、2020年以降の課題を乗り越え、日本を元気にするようなビジネスプランを考えること。私は最初、何をすればいいのかわからなかったが、同じグループの皆がたくさんの意見を言ったり、まとめてくれたりして、途中からは私も自分の意見を言うようになり、何とか時間内に仕上がった。皆の口からは、自分では絶対に思いつかないような意見が次々と飛び出してきて、ただただ圧倒されるばかりだった。しかし、これが全国のレベルなのかと思いつくと同時に、自分ももっと頑張らなければいけないと思い、今後の自分にとって大きな励みになった。決勝に進むことはできなくても、本当に良い経験になった。

次に、自分が今いる世界の小ささだ。この大会で、他校の人達と一緒に、地元や学校のことについて話すことで、鳥取県にいただけでは絶対に知ることができなかった様々なその土地ならではの問題や、方言について知ることができた。これは、家や学校で勉強しているだけではわかるはずもなかったことばかりだ。こういう知識は大学受験には必要ないかも知れないが、大きな世界を少しでも垣間見ることができたのは、私にとって大きな喜びと驚きがあった。それだけで、自分が一回り大きくなったような気がした。そうした会話を通して他校の人達との距離も縮まったので、こんな風に知らない人と仲良くなれるものなのだ、少し安心することもできた。

最後に、このような貴重な体験をさせていただいたエコミクス甲子園のスタッフの皆様、銀行の皆様、本当にありがとうございました。いつか社会に役立つ人になれるよう、ここで学んだことを活かして、頑張っていこうと思います。



鳥取大会代表 湯梨浜高等学校 2年
 岸本 万由子

僕たちは唯一の商業高校として参加しました。この大会を通してたくさんの人と交流して、自分のレベルの低さを痛感しました。

1日目で印象に残っているのは「エコミカ大会」です。僕はエコミカ大会に向けて、友達と何回も練習していたので、スターターデッキの部で3位を取ることができました。上位入賞者には景品があると思っていたので、豪華な景品を楽しみにしていたのですが、豪華どころか何ももらえなかったのが、悲しかったです。想像していたよりもハードスケジュールな1日で就寝時間は結局24時でした。僕はいつも22時には寝ているので、このハードスケジュールのせいで優勝できなかったと言っても過言ではないと思います。

2日目は気まずい1日でした。そして、一番自分のレベルの低さを自覚した日でもあります。2日目のメインはプレゼンテーションラウンドでした。話し合いが始まる前は、「チームに貢献したい」という気持ちでいっぱいでしたが、いざ話し合いが始まると、その会話のレベルの高さに驚いて、ほとんど話し合いに参加することができませんでした。そして、情けないことに僕たち以外のメンバーは全員2年生でした。僕たちは3年生としてのプライドを捨て、ひたすら見守っていました。

3日目は、エコミクス甲子園本戦でした。僕たちは予選ラウンドを敗退したので、敗者復活戦に賭けました。敗者復活戦ではびったりと答えを合わせて、目立つことができたので良かったです。結果は準々決勝で敗退しました。負けた後に「もっと勉強しておけば」と後悔したので、今後は同じようなことで後悔しないように色々なことに挑戦していこうと思います。

鳥根大会代表 鳥根県立松江商業高等学校 3年
 武田 理玖

私は、鳥根県大会代表として、エコミクス甲子園全国大会に参加しました。

1日目の夜にエコミカ大会へ参加しました。いよいよ2日目からは全国大会が始まるという状況で、緊張していました。しかし、エコミカ大会で他県の代表選手との会話が広がっていくにつれて、その緊張感も次第に無くなりました。エコミカ大会が終わる頃には、エコミクス甲子園優勝を狙っている敵同士とは思えないほどの雰囲気でした。

2日目の予選のプレゼンテーションでは、青森県、神奈川県、兵庫県代表の皆さんとチームを組み、福島県から日本を元気にするビジネスプランを考えました。ビジネスプランを考えるにあたり、その地域の特性や持続可能かということなど、様々な事柄に対してベストな案を考える必要がありました。そんな中でもチームの皆さんは考えつく意見を可能な限り発信し、より良い選択へと導いていきました。その知識力に尊敬すると同時に、私の力不足を痛感させられました。

3日目は、本番でした。ここでも、単語の勉強不足を痛感しました。今回の大会では、他県の高校生から、とても良い刺激を受けました。これからももっと知識を蓄える必要があるという事を気づかせてくれたチームの仲間やライバルに感謝したいです。また、森様のお話や閉会式でのお話など、私たちの将来にとっても役立つ知識を与えてくださった方々、そして、このような素晴らしい大会を運営してくださったスタッフの皆さんと、金融機関の皆さんに感謝します。ありがとうございました。





岡山大会代表 倉敷市立精思高等学校 1年
佐々木 永遠

私はこのエコノミクス甲子園を通して、色々な面で成長した。一つは集中力、記憶力、持続力の向上である。エコ甲に向けて、勉強を始めた時は、あまり力が入らず集中できなかった。その理由は、勉強嫌い、集中力が持たない、中途半端、スマホ依存など、エコ甲に出会うまでの自分自身にある。だが、学習を進めていくうちに、先生や先輩のサポートもあり、集中力や持続力とともに、金融や経済に関する用語の記憶浸透に比例して、エコ甲の勉強内容ができるようになった。

もう一つは何事に対しても相談する力が身に付いたことである。些細なことだと思うが、この力が身に付いているかいないかでは大きな差がある。当初、私は先生や友達に相談というものをあまりせず、自分がすべて背負い込んでいた。だが、エコ甲を通して、先生に様々な相談や質問をし、先生からの確かなアドバイスをいただいた上で、自分でよく考えることが成長の一つの鍵になることに気づいた。これはペアの三宅君と互いに相談し役割分担を決めて、切磋琢磨して勉強したことが効率の良い勉強にも繋がったともいえる。

他にも成長したことは枚挙にいとまがない。ただエコ甲に向けての勉強は大変だったが、二人で目標に向けて努力することで、お互いに成長し、とても有意義な時間を共有することができた喜びは何にも代えがたい。全国優勝は叶わなかったが、来年度の大会ではその悲願達成に向けて精進を誓う。

岡山大会代表 倉敷市立精思高等学校 1年
三宅 健太

私はこのエコノミクス甲子園を通して、色々な経験を積むことができた。その経験を3つ挙げると、まず初めに、先輩とのつながりである。高校入学後、上級生と会話をする機会はほとんどなかったが、エコノミクス甲子園への参加をきっかけに、2年前に岡山大会で優勝した先輩をはじめ、多くの実績を残した先輩方と知り合い、学校生活や趣味など、エコ甲以外の場面でつながりを持てたことは前向きに学校生活を送る1つの要因となった。

次に、勉強への取り組みである。岡山大会に向けては、先生から与えられた問題をひたすら解くだけで、自ら疑問に感じたことや、分からないことを調べるという発想はなかったが、全国大会に出場した生徒の多くは自ら書籍やインターネットを活用して、問題の解決に当たっていた。こうした姿に刺激を受け、今後は全国大会で出会った仲間のように、積極的に取り組む姿勢を身に付けたいと考えている。

そして、「楽しさ」や「辛さ」から新たな気づきを覚えたことである。楽しかったことと言えば、先輩の背中を見ながら無心で努力を積み重ねていくうちに、実力の高まりを実感できたことである。辛かったことと言えば、中学校まで勉強する習慣がなかった自分にとっては考えられない勉強量であり、精神的に病んでしまいそうな瞬間もあった。ただ、改めて考えてみると、こうした経験は本当に大切なことだと気づくことができた。

最後に全国大会では実力不足を感じ、とても悔しい思いをした。来年はこの悔しさをバネに目標に向け、やるべきことはすでに決まっている。



広島大会代表 安田女子高等学校 2年
葉畑 香澄

私は今回エコノミクス甲子園に参加して、とてもいい勉強になりました。

全国の高校生と交流することが出来、楽しただけでなく、コミュニケーション能力もつけることが出来ました。エコノミクス大会では3回中1回しか勝つことができませんでしたが、台湾の方とお話できてよかったです。

プレゼンテーションではテーマが難しくその県の特徴から調べていく必要があり、他県のチームの方とたくさん議論を重ねました。前夜祭のビンゴ大会私たちのペアは2人とも当たって嬉しかったです。

筆記クイズは1問目から難しく、計算問題も思考力を要する問題でしたが、短い試験時間の中でも一生懸命解きました。早押しラウンドでは0ポイントでしたが、なんとか準々決勝に進出できました。準々決勝では全員が正解することがしばしばあり、差がつかず最後までドキドキする試合でした。準決勝のオークションクイズでは他チームがどのくらいの値段で土地を購入するか分からず、値段を決定するのが大変でした。決勝でも初めの問題で思うようにポイントを稼げず、また他チームを自分たちの作った選択肢で惑わすことが出来ず、惜しくも準優勝でした。どのラウンドでもドキドキハラハラする場面がありました。

東京に来る前はいろいろと心配することがありましたが、みなさんとてもフレンドリーで、楽しい3日間を過ごすことができました。

金融知力普及協会の皆様、地方大会を主催して下さった金融機関の皆様、大学生スタッフの皆様、大変お世話になりました。ありがとうございました。



広島大会代表 安田女子高等学校 2年
菅 満理奈

エコノミクス甲子園全国大会はとても楽しくあっという間の3日間でした。今大会で金融知力の奥深さを知ると共にたくさんの仲間を作ることができ、大変充実した経験になったと感じています。

プレゼンテーションラウンドでは2020年以降の日本を地域から元気にするビジネスの考案がテーマでした。私の中で2020年以降と言えば「東京オリンピックの影響」という考えしか無かったのですが、話し合いの中でオリンピック以外にも少子高齢化などの課題が出てきており、自分の視野の狭さを実感しました。それでも、チームの皆さんのおかげで2位という好成績を残すことができました。Dチームの星光学院、福島、山形南の皆さんにとっても感謝しています。

3日目、早押しで得点できなかった私達ですがプレゼンのアドバンテージが大きかったのか予選を8位で通過することができ、準々決勝ラウンドに参加しました。運も味方してくれ、2位で準決勝ラウンドに。そこで私達はなかなか正解することができず苦戦していましたが、なんとか乗り切ることができました。そして決勝ラウンドは初日に練習をした、「たはいや」ゲーム。最後の2問で優勝を逃してしまった悔しさは忘れられません。来年は是非、後輩たちに優勝してもらいたいです。

最後に大会を運営して下さった関係者・大学生の皆様、もみじ銀行の皆様、応援して下さいました先生方・先輩方・後輩たち、そして各都道府県代表の方ありがとうございました。



山口大会代表 大島商船高等専門学校 3年
鳴瀬 駿

此の度、全国大会に出場しました。半年という短い間で経済学を独学で学んできましたが、経済学は非常に興味深くとても面白い分野だなと感じました。全国大会は、全国から強豪が集まってくるということで非常に楽しみにしておりました。その人たちと一緒にプレゼンテーションをしたり、経済のクイズ大会をしたりするのは初めてで、大変貴重な体験をさせて頂きました。

プレゼンテーションは、秋田県が(いずれ)抱える問題を解消するために何の企業を起業するか、というものでしたが、議論が難航して進まないときもありました。しかし、無事にプレゼンテーションを完成させた時はとても嬉しかったです。達成感がありました。

最終日のクイズ大会では惜しくも敗れてしまいましたが、白熱したバトルで楽しかったです。

もっと頑張らないといけないと思ったし、やっぱり経済学は面白い

など感じました。私たちは地方大会の2週間前にエコノミクス甲子園を知り、経済学を初めて知ったのですが、経済学を知るきっかけを作ってくれたのがエコノミクス甲子園でした。そこで学んだことはきっと人生の財産になると、そう信じております。

地方大会を主催して下さいました山口銀行の皆様、全国大会の運営に携わったスタッフの皆様、全国大会の行き帰りの引導、参加者の皆様、そしてエコノミクス甲子園に関わった全ての皆様に感謝します。ありがとうございました。

山口大会代表 大島商船高等専門学校 3年
藤 匠海

緊張し続けていた決勝大会での3日間では多くの思い出、貴重な経験、友達を得ることができました。そして、経済の面白さを知ることができ、人生の大きな糧となりました。東京タワーやスカイツリー、レインボーブリッジなど多くの名所を遠くからながら見ることも時間のない中でよい癒しとなりました。交通手段の飛行機では初めての加速度や景色に興奮し、宿泊中のおいしい食事にも大変感謝しています。

元タクイズが好きということでこの大会に参加したため、プレゼンテーションラウンドはとても面倒なものだと思っていました。しかし蓋を取ってみれば、こんなによい友達のつくる機会はなく、大きな思い出の一つとなりました。クイズの本大会では手に汗握る怒濤の展開だったので、その時間は一瞬に感じるほど楽しかったです。今まで多くのクイズ番組を見てきましたがそのようなものには到底及ばない面白さで、一生超えることのないものだと思います。

「一将功成りて万骨枯る」という言葉では、一人の勝利の背景には多くの人の助けや努力があるとされます。今回の自分は惜しくも「万骨」の方でありましたが、それも1チームの勝利のためだと納得しております。

今大会で、記録を残すことはできませんでしたが、それも自らの知識不足、運不足、経験不足に他ならないと思っており、この経験をバネにさらなる飛躍を目指して「知」の道を邁進していきたいと思えます。

最後に、今大会を運営して下さった多くの方々、支援していただいた銀行をはじめ各機関、そしてともに戦った同士に最大限の感謝をしたいと思います。





徳島大会代表 徳島市立高等学校 2年
齋藤 有沙

エコノミクス甲子園に参加したのは、高校生活の思い出作りしようという軽い気持ちからでした。地方大会を突破できたのも本当に運が良かったからです。地方大会の決勝の資金運用クイズは、資金運用の難しさと面白さを教えてくれました。

全国大会は、想像以上に楽しかったです。エコノミクス大会に始まり、プレゼン大会、前夜祭、筆記クイズ、そしてハリウッドホールでのクイズと、盛りだくさんの内容でした。なにより、全国各地から集まった同級生と色々な話をして、互いの金融知力をぶつけ合えて、本当によかったです。

特に楽しかったと心に残っているのはプレゼン大会です。時間が限られている中で、和気あいあいと話し合いが進み、自分たちの満足のいくものができました。休憩時には、お互いの地域の方言や部活の話などですごく盛り上がりました。普段なら絶対会うことがなかったであろう、全国に友達ができ嬉しいです。

また、私たちのペアは残念ながら準々決勝に進めませんでしたが、準々決勝以降の白熱した闘いは手に汗握るもので、見ていて面白かったです。闘いが進むにつれて問題の難易度が上がっても、それにスラスラと答えていく皆に脱帽しました。

今回、エコノミクス甲子園に参加したことで、初めて金融に興味を持ちました。将来、株や投資に挑戦してみたいと思っています。

最後になりましたが、エコノミクス甲子園を開催して下さった金融知力普及協会様、阿波銀行様、スポンサーの皆様、そして多くの大学生スタッフの皆様、本当にありがとうございました。

徳島大会代表 徳島市立高等学校 2年
安井 涼葉

エコノミクス甲子園は、今まで生きてきた中で最も楽しいものであった。充実したイベントやレベルの高い各都道府県代表の方々に圧倒され、刺激を受けた3日間だった。これからその思い出を時系列に振り返ってみたいと思う。

まず1日目では、とてもハイテンションなスタッフの方に写真を撮られるところから始まった。友達ができるかなあとペアの人と話しながら、緊張した面持ちでエコノミクス大会に参加。

大会中に色々な人と話したが、そのうちの1人が「相手が勝った原因を探り、それを自分のものにするので勝つ。」と言っていたことに感銘を受けた。

2日目のプレゼンラウンドでは、チーム内でとても結束が強まった。皆率先して意見を出し、協力して物事を進められたことで何とかプレゼンを完成させることができた。このように自分の意見をはっきりと表明したり、リーダーシップを発揮したりできる人は自分の周りにいなかったのが新鮮だった。その後の前夜祭では普段は絶対に話せないような日本のトップの方々とは話ができ、心躍る時間だった。2日目の夜の自由時間には友達も多くできて、和気藹々とおしゃべりを楽しんだ。

3日目は早々に敗退したので特にこれと言った思い出はない。このようにメインの全国大会では良い結果を残せなかったが、それ以外の時間で多くの学びが得られた。今までこんなに充実した日々は無かったと思えるほど、素晴らしい時間を過ごせた。このような機会を用意して下さったスタッフの方々に感謝するとともに、これからも積極的に他人とコミュニケーションをとる姿勢を大切にしていきたい。



香川大会代表 香川県立高松高等学校 1年
松村 早紀

まず、エコ甲に関わって運営して下さった方々、本当にありがとうございました。スタッフの方々の温かく巧みな運営のおかげで楽しい意義のある3日間を過ごすことができました。

エコ甲を知ったきっかけは、「エコ甲っていうのがあるよ。」という現社の先生の一言でした。そしてこの機会に、苦手意識のあった経済に取り組むことにしました。

ビギナーズラックというのか、運にも助けられて迎えた全国大会では、新しい発見ばかりでした。プレゼンでは、自分の考えを仲間うまく伝えるコミュニケーション力のなさを痛感いくつものアイデアをうまく合わせて広げることの難しさを感じました。また、同年代の人たちとの会話を通して自分にはなかった考え方を得、また知識の豊富さにも多くの刺激を受けました。そしてこれらのことは、経済に限らずいろいろなことをもっと頑張ろう、と思うきっかけになりました。

この大会を通して、経済は思っていた以上に身近に私たちと繋がっているということを知りました。新聞の経済面にも興味を持って目を通すようになりました。野中先生の魅力的なお話やお話ぶりは、鮮烈に今も心に残っています。熱くててきぱきとした運営をして下さった大学生スタッフの方々のようになれるよう、これから日々を過ごしたいと思っています。そして何より、人間的に成長できた、全国大会という場に来ることができたことを心から感謝します。



香川大会代表 香川県立高松高等学校 1年
三枝 日向子

エコノミクス甲子園香川県代表として参加した3日間は驚きと感動の連続でした。

まず1日目。ついたらすぐのインタビューに戸惑い、エコノミクス大会の時に女子の圧倒的な少なさには驚きました。香川県大会では、男女比率が半々くらいだったので、男ばかりの会場に一瞬躊躇しましたが、それをつかの間、すぐに他県の知らない男子とも仲良くなることができました。そして、その後のオリエンテーションでは、過酷なスケジュールが待っているのが分かり、少し恐くなりました。特に就寝時には本当に苦労しました。私は普段21時には眠たくなり、22時には寝るというような生活を送っていたため、21時からの筆記試験など、もう眠たいのにまだ何かあるのか……ということがたくさんありました。そんなときに、ペアの子が私を支えてくれ、頼りになりました。凄く感謝しています。

そして2日目には、講演とプレゼンテーションラウンドがありました。人見知りの私は、知らない人たちと話し合っ一つのプレゼンを作ることができるのか本当に不安でした。しかし、班の方々は、みんなが意見を言いやすい雰囲気を作ってくれ、私も勇気を出して自分の考えたことをたくさん発表できました。こうやって、他県の高校生と一緒に話し合う機会はほとんど無いので、とても良い機会になりました。私が考えもしないような意見をみんなが出してくれるので、刺激的で有意義な活動だったと思います。

最後に3日目のエコノミクス甲子園全国大会当日。地方大会とのレベルの差に圧倒されました。自分の勉強不足が身にしみて分かり、これからもっと経済や金融のことを知りたいと思いました。その中でレベルの高い問題に次々と答えていく決勝進出者の高校生。同じ高校生として負けてられないと思いました。

初めは、参加賞の図書カードがほしくて参加したエコノミクス甲子園香川県大会でしたが、経済や金融が私たちの生活に密接に関わっていることが分かり、とてもよい貴重な経験となりました。この大会に関わった全ての人と両親への感謝の気持ちを忘れずに、これからも、賢い消費者になるために、経済、金融を学んでいこうと思いました。



愛媛大会代表 愛媛県立今治西高等学校 2年
越智 耀亮

学校にあるポスターを見て、面白そうだなあと、ただ単純に思っ出場した愛媛大会。自分たちは理系で、経済など習ったこともな

かったが、自分たち流に対策をしたら、予選1位、決勝も1位で愛媛大会を制し、東京への切符を手にすることが出来た。本当に嬉しかった。

全国大会1日目は、移動とエコノミクス大会。飛行機はあつという間だったが、羽田空港から、宿舎までが長かった。新宿行きのバスは、渋滞に巻き込まれ、予定より時間がかかってしまった。エコノミクス大会は、一試合のみの参加となったが、他校の人とも交流でき、楽しかった。また、埼玉代表の栄東の方たちと部屋が同じで、クイズのことや、進路のことなど、いろいろ話せて刺激になった。

2日目は、内容が盛り沢山だった。基調講演にプレゼン、そして、疲れ果ててからの筆記クイズ。基調講演は、非常に面白く、聞き入ってしまった。「迷ったら、やってみようではなく、迷う前にやってみよう」という森さんの言葉に感銘を受けた。プレゼンは、札幌南、高知学芸、宮崎大宮の人たちとだった。全員同級生だったので、活発な意見交換が出来たと思う。決勝プレゼンには進めなかったが、みんなと協力して、一つのもを作り上げられたことは非常に貴重な経験となった。筆記クイズ前の、交流会では、もみじ銀行の方とカーブの話で盛り上がったり、今治西OBの方と同郷トークに花を咲かせたりした。あと、エビピラフが美味しかった。その後の筆記クイズは、難しすぎた。これが全国レベルか、と思い知らされた。

そして、3日目全国大会本番!結果は、残念ながら予選敗退だった。力の差をとて感じた。来年、ディフェンディングチャンピオンとして、愛媛大会に出たいが、受験があるので、おそらく厳しい。残念。だから、それは後輩たちに託して、全国の舞台に出場してほしい。そして、日本一を取ってほしい。

最後に、この大会を運営して下さった、金融知力普及協会をはじめとするすべての関係者の皆様に感謝したい。また、素晴らしい愛媛大会を開催して下さった、伊予銀行の皆様にも感謝したい。本当にこのような貴重な経験をさせていただき、ありがとうございました。

愛媛大会代表 愛媛県立今治西高等学校 2年
森 想

今回エコノミクス甲子園に出場することで金融と経済に関する知識をつけることができました。まだまだ浅く足りないものではありません。株価や為替の値動きに一喜一憂し、それが私たちの生活に直結する社会、仮想通貨など新しいお金の世界が構築されつつある社会、そんな現代社会に生きる私にとって経済、金融についての自分の意見をもつことは義務であるし必要不可欠なことです。ですから、例え浅いものだったとしても知識を得ることは私にとって非常に有益なことだったと思います。そして大会に出場し競い合うことで自分のあらゆる力の不足を痛切に実感しました。だからこそこれからは自身の向上に努めたいです。また全国大会に出場することで各地の高校生と話をすることができ、自身の視野を広げることができました。これは必ず今後生きると思います。

さらに、お金の見方を考える機会にもなりました。お金は価値をはかるものであり、信用に基づくものであり、交換手段であり、その他多くの機能を持つものです。しかし、私はそれをほとんど理解できていないし、これから勉強をしても完全に理解しきれものではないと思っています。ただあるのは「お金はお金だ」という漠然とした認識です。そしてこの「お金はお金だ」という認識が、本来、一道具であるはずのお金を、大袈裟に言うならば万能の神くらいにまで昇格させてしまっていたように思います。しかしお金について学ぶことで、お



全国大会感想 Final tournament report



金は人の作り出した道具に過ぎないのだと再認識するとともに、以前より一層お金との適切な付き合い方を考えるようになりました。経世済民という言葉にあるように、社会をよくしていくため、お金の長短を理解し、より良い経済の在り方について一人ながら考えていきたいと思ひます。



高知大会代表 高知学芸高等学校 2年
百瀬 柁

僕がエコノミクス甲子園に出場したのは、2歳年上の兄が地方大会に出場しており、その時兄が負けたのを見て、僕が出場するときは必ず優勝しようと思ったのがきっかけでした。そしてまず一緒に出てくれる人を探そうと思い、周りの人全員に声をかけた結果、出てくれる人が見つかり出場することになりました。その後何とか地方大会で勝ち、全国大会へ行けることとなり、とても嬉しかったです。ただ、そこからはテストや2年に1度の行事などが重なりあまり知識をつけることなく全国大会へ進んでしまったことをとても後悔しています。

全国大会1日目は朝早くから東京へ行き、少し観光をした後会場へ向かいました。そこで行われたエコノミクス大会では青デッキと呼ばれる強いデッキを使ったものの、点数が足りず優勝できなくて悔しかったです。また4人部屋で同じ部屋の人たちがとても個性的な人達で面白かったです。

2日目はプレゼンがありました。入賞することは叶いませんでしたが、いろいろな価値観の人と話すことができ、いい経験になりました。前夜祭ではマニュアルライフ生命のCEOの方とツーショットを撮ることができて良かったです。3日目の大会は敗者復活戦で負けました。

僕はこのエコノミクス甲子園の全国大会で全国の高校生とたくさんのお話を交わしてとてもいい刺激になりました。またこの大会を通じて金融知力を身につけることができ、今まで理解できなかったニュースなどもわかるようになり、経済によりいっそう興味を持つようになりました。今回のようなとても貴重な経験をさせていただいてありがとうございました。

高知大会代表 高知学芸高等学校 2年
松田 昇大

学校に貼り出されていたポスターがきっかけで出場したエコ甲でしたが、そこからたくさんのお話を得ることができました。1日目はあまり行く機会のない東京で観光をすることができ、とても楽しかったです。会場に着いてすぐに行なわれたエコノミクス大会ではスターターデッキの部で優勝することができ、まさか出来るとは思ってなかった

ので驚きを隠せませんでした。優勝景品も豪華だったので最高でした。そして、僕はその夜にどの高校の人と一緒に寝るのか不安でしたが、とてもフレンドリーで楽しい人達だったのでとても楽しく過ごせました。その人達は千葉県代表だったのですが、とても頭も良く、これからの受験のこととかも話せていい経験になりました。

2日目の活動では、他校の見知らぬ人たちとグループで協力して、プレゼンを行うというものでしたが、集団の意見をまとめることの難しさや、終わった後の達成感を味わうことができました。結果は奮わなくて悔しかったですが、普段できないようなことができました。前夜祭では予想もしてなかった立食パーティーで、各企業のお偉方がたくさんいてびっくりしました。その時にマニュアルライフ生命のCEOのお方と写真を撮ったり、話せたりしたことは滅多にないことなのでとても良かったです。

3日目の六本木では早押しなどのクイズが行われましたが、後一步及ばず準々決勝に進出することができませんでした。全国の壁の高さを思い知らされました。そして終了した全国大会でしたが、とてもいい経験になりました。参加させていただきありがとうございました。



福岡大会代表 福岡工業大学附属城東高等学校 2年
中村 徹舟

僕たちはエコノミクス甲子園に2年連続で出場しました。1年目は地方大会で敗退してしまい、2年目は去年の悔しさをバネに勉強した結果、地方大会で優勝することができました。そしてこの勢いで全国大会も制覇しようと思い、頂いた教材以外にも学校の政治経済や日経新聞のテキスト等を隅から隅まで覚えました。

そして迎えた全国大会。1日目、2日目の様々な行事では、他校生や大学生スタッフの方々と交流したり、銀行員や経営者の方々から貴重な話を頂いたり、とても有意義な時間を過ごすことが出来ました。そして本番の3日目、前日の筆記テストの出来が悪く、早くも苦戦を強いられてしまいましたが、なんとか準々決勝に上がることができました。しかし、その準々決勝のクイズで、僕たちは焦りから簡単な問題を立て続けに落としてしまいました。これによって、僕たちの敗退が決まってしまうました。観客席に戻って準決勝・決勝の様子をみていると、「追証」「サーキットブレーカー制度」「ESG投資」「のれん代」等、自分たちが勉強していたことばかりが話題され、準々決勝さえ勝ち抜いていけば優勝していたと確信したと同時に、あの場面で焦ってしまった自分が不甲斐なく思えました。このように悔しい結果に終わってしまったエコ甲ですが、経済について深い知識を得ることができたり、全国の優秀な方々と交流ができた等、出場して得られたものはとても大きかったと思ひます。



全国大会感想 Final tournament report



エコノミクス甲子園で学んだことを生かして、これから少しでも社会で活躍できるような人間になっていきたいと思ひます。

福岡大会代表 福岡工業大学附属城東高等学校 2年
小早川 聡志

私は、先日行われた「第12回エコノミクス甲子園全国大会」で、素晴らしい仲間と刺激に満ちた3日間を過ごすことが出来ました。

1日目は、全国から集まった各地の代表と親睦を深めるため、「エコノミクス」という金融知力を駆使したカードゲームの大会に参加しました。初めは皆緊張しているようでしたが、時が経つにつれて、互いに打ち解け合うことが出来、良かったです。

2日目は、まず、高級路線のトラベルサイト、「一休.com」の創業者である森正文さんの講演を聴き、企業経営の大変さと、人の上に立つことの難しさを改めて学びました。

そして、講演終了後に発表された「地域から日本を元気にするビジネスを考案する」というテーマに基づいて、香川県、群馬県の代表の方とグループを組みました。そして、共に長崎県を舞台にした日本活性化のためのビジネスについて議論を交わし、アイデアを出し合っ、それをまとめてプレゼンテーションをすることが出来ました。

そして、最終日の3日目。会場の六本木ヒルズに移動して、大会本戦に臨みました。これまで培ってきた知識と思考力、閃きと勘を信じて戦いましたが、惜しくも準決勝目前で敗退してしまいました。

ですが、決勝では、長崎西、ラサール、安田女子、土浦第一のハイレベルな戦いをみることが出来、大変刺激を受けました。

私は、この3日間を通じて、金融経済について深く学べたことのみならず、非常に高いレベルの仲間達と切磋琢磨して、多くの貴重な経験をすることができました。全国大会出場によって得られた経済の知識や金融知力、仲間との協力体験は、これからの人生における大きな財産になったと思ひます。



佐賀大会代表 弘学館高等学校 1年
城 正人

僕の印象に残ったのは、2日目にあった、プレゼンラウンドだ。4つの様々な地域から集まった、エコノミクス甲子園前には縁もゆかりもなかった仲間たちと共に、知恵をしばりあい「島根県の地域起こしのビジネス」を考えるのは、非常に良い経験になった。

僕らの班は、午前中話がかかり大きく膨らんでしまった。豊富な予算がある国策として行うには良い案であった。しかし、予算がかかり過ぎてしまい却下となってしまった。そのことで、相当なタイムロス

してしまっ。反省点として覚えておきたい。

全国大会における戦績は自分の努力、実力不足で奮わないものとなってしまったが、楽しい時間を過ごすことができた。また、今回、日本中、いや世界の友と親睦を深められたことは、本当に貴重な機会であったと思う。特に同室となった神奈川県代表の先輩たちとは、エコノミクス甲子園の話題だけでなく、学校のこと、住んでいる地域のこと、受験のことなどを語り合った。

エコノミクス甲子園では、経済の勉強だけでなく、普段は話すことのできない仲間たちと、非日常でとても楽しい時間を過ごすことができた。僕は高一で、来年も出場資格があります。これから一年間努力「金融知力」を身に付け、地方大会で優勝し、全国大会に於いて今回の反省を十二分に生かし、ニューヨークを勝ち取るため戦いに挑みたいと思ひました。こんな素晴らしいチャンスを与えてくださった金融知力普及協会の皆様、スポンサーの皆様、大学生スタッフの方々、そして引率の佐賀銀行宮崎さん3日間ありがとうございました。

では、また来年お目にかかれるよう一年間頑張ります。来年もどうぞよろしくお願い致します。

佐賀大会代表 弘学館高等学校 1年
河村 晃希

大会の存在がクラスで発表された11月頃、たまたま席が近かった城君が、とても興味を示しているように見えたので、試しに「出たい?」と尋ねてみた。すると、「うん!!」と目を輝かせた返事が返ってきた。自分はこの時、彼の意思を聞いたに過ぎなかったのだが、この一言がきっかけとなったのもあり、彼に懇願されて参加することになってしまった。そんな自分だから、もちろん経済のことなどずぶのド素人な状態だった。テキストが大量に届いたものの、何から手を付けたらよいか、流し読みをする程度のもので、全く自信など持てていなかった。

そんな状態で地方大会に臨んだのだが、筆記試験も相方の半端ない知識に救われ、その後のクイズ対決でも相方の力量頼み、唯一役に立ったかもしれない場面は、筆記試験において、学校の授業で学んだ内容の問題に力を発揮したことくらいだろうか。地方大会を終えた時点の感想としては、正直、「これではまずいぞ、自分!!」であり、全国大会へ向けては、「どうせ相方頼みだろう?」とからかう友達も、そして相方さえも見返してやりたい!!」へと変化していた。

寮生活の自分達にとっては、配布されたテキスト頼みの勉強しか方法がなかったが、大会後に控える学年末考査のこともほったらかして、全国大会へ向けての猛勉強を開始した。

大会については、宿舎にほぼ缶詰め状態で、驚きのスケジュールだったが、到着日の夕刻から始まるエコノミクス大会、2日目の他校と共同で行うプレゼン対決、そして合宿ばりのラジオ体操等のスケジュール。

大会運営側の鬼のような計画、そして、与えられた居住環境に悪意を感じつつも、無事に3日目の本番の大会を迎えた。

1日目のエコノミクス大会は、ゲーム形式で経済を習得するもので、楽しく参加できたが、正直、このゲームを覚える時間を本番の勉強に当てたかったのが本音だ。

2日目のプレゼンは、ひとつの県についてチームで調査し、企画書等を作成し、最後に発表する。自分達のチームは島根県についてプレゼンすることとなったが、島根県について経験値も知識も皆が皆無で、唯一、旅行で行ったことのある自分が意見を述べることとなった。また、他校生は上級生ばかりで、1年生は自分達のみだったのだが、1年生ならではの発想と意見を上手に取り入れてくれ、





発言の機会を与えてもらった。途中、完成間近だった案が振り出しに戻る、というトラブルも起こったが、何とかチームで乗り越え、上位入賞は叶わなかったものの、初見の人達とのコミュニケーションのとり方、協調の方法など、大人の世界のようなものを体感し、とても有意義な時間を過ごした。さすがに、上位入賞者のプレゼンは同じ高校生とは思えないほど見事なものだった。まず、画面設計の上手さに驚き、内容の濃さが全然違った。そして、とてもまとまった文章で解り易く、具体的でかつ実用的だった。

その後の交流会後に筆記試験が開催されたが、「個人戦だったらどうしよう…」「足を引っ張りたくない…」と不安だったが、チーム戦だったので、少し安心して臨むことが出来た。しかし、周りから聞こえてくるベンの音の速さと、自分達の状況の差に愕然とし、勉強不足を痛恨し、後悔を抱いたままの筆記試験終了となった。

3日目の全国大会本番、予選第1ラウンド、1番手の組で登場したが、全く問題が解らないまま退場、力量不足を痛感した。

続く、予選第2ラウンド、4択クイズで正解すると、その後の近似値クイズに挑めるのだが、さっそく最初の4択で正解し、近似値クイズに挑戦できた。

一番近似値であったにもかかわらず、同じ値のチームが他にも1校おり、その場合は、前日の筆記試験の成績の良い方が勝ち抜けるというルールなので、負けてしまった。やはり、ここでも筆記試験での後悔の念を改めて胸に刻む結果となってしまった。

予選最後の第3ラウンド、1分間で12問を連続して答えるという、かなり酷なものだった。「少しは自分も貢献しなければ」との思いからか、答えがパッと閃いてきた。しかし、緊張しているのか、相方の調子が思わしくなく、上手く連携出来なかった。その後、午後の大会は観覧席で観覧者となったわけだが、最後まで楽しい大会だった。

この大会を通して、色々な面で成長できた気がする。金融の知識については言わずもがな、であり、普段の学校での勉強、そして寮生活での勉強時間への姿勢も変化したと思う。そして、大会では色々な地域の同年代の人との交流、更に海外の参加者もいたことで、国際的な交流までも経験でき、今までよりもっと、グローバルな方へと視野が広がった。

最後に、運営に携わっていただいたたくさんの大人の方々、そして、僕らと同じく大会経験者で、ボランティアとしてお手伝いして下さった、お兄様、お姉様方、地方から僕たちを引率してもらった銀行の方、本当にありがとうございました。

軽い気持ちで応募した僕ですが、こんなに貴重な体験を得るとは思いもよらなかった。また、来年もリベンジ目指して、挑戦したいと思います。



長崎大会代表 長崎県立長崎西高等学校 2年
山口 温大

2017年2月5日。第11回エコノミクス甲子園。準々決勝で敗退した僕たちは、金大附属高校の優勝を観客席で見ている。「来年はあの場に立ちたい…」その一心で、僕たちは1年間、準備をしてきた。まず、「クイ研」の強さを知った僕たちは、彼らに負けないように、そして彼らに憧れて、長崎西クイズ研究会を自称し、物理部の活動と見せかけて早押しボタンを自作し（高く買えなかった）、早押しの練習をしたり、クイ研のある他校にかけあって練習させてもらったりした。もちろん、知識の準備も力を入れた。事前教材を読み込むのはもちろん、政経用語集や時事用語集なども使い、LINEには毎日、経済ニュースが送られてくるように設定し、経済の講演会も聞きに行き、学校の地理の授業もよく聞き、準決勝の例の問題に備えて英語のリスニングも頑張った。そして、2018年2月。遂に全国大会を迎えた。2日目。去年の反省から、プレゼンでもっと積極的になるということも一つの目標としていた。結果は、予選落ちとなってしまったが、去年よりも積極的に議論に参加でき、楽しめたので悔いはなかった。（洛南、栄東、伊勢、本当にありがとう。）3日目。第1ラウンドでの運もあり、何とか準々決勝へのシードにギリギリ12位で滑り込むことができた。その後、ラ・サール、安田女子の知識量とゲーム進行の上手さに圧倒されながらも、相方の戦略のおかげでなんとか決勝戦に駒を進めることができた。そして、「たほいや」を練習していたということも功を奏し、最後には、念願の「優勝」を掴み取ることができた。

2年間エコ甲に参加することができ、本当に良かった。全国の意識の高い高校生を知ることができ、とても刺激を受けた。プレゼンや前夜祭ではコミュ力もかなり鍛えられた。そのおかげで、様々なことに挑戦することができるようになった。僕の高校生活はエコ甲で支えられているといっても過言ではない。NY研修でもしっかりと学んできます。応援して下さった友達、家族、先生方、共に戦った全国の高校生、こんな素晴らしい大会を運営して下さった主催者、スポンサーの方、十八銀行の方、スタッフの方、本当にありがとうございました。エコ甲最高!

長崎大会代表 長崎県立長崎西高等学校 2年
深松 恵杜

私は去年もこの全国大会に出場し、自分の勉強不足が原因で準々決勝敗退に終わった。自分のふがいなさを悔いて去年の感想文に感想文というよりは反省文と言えるほどの反省を書いた。



その時に味わった悔しさを1年間忘れることなく努力し、相方に頼りっぱなしだった去年の状態を変えようとした。

そして本番。2日目のプレゼンラウンドは地方創生のためのベンチャー企業についてだった。私達は宮城県の創生について考えた。去年の反省から積極的に議論し、いいプレゼンを作れたと思ったが、結果は上位3チームには入れなかったの、「また今年もか…」という思いだった。しかし、その後の筆記クイズ、3日目の早押しクイズで何とか予選を12位でギリギリ通過した。

準決勝では私の戦術が他のチームに阻まれ、他のチームは着々とゲームを進めていくのにかかり焦り、「まずいかも…」と思ったが最終問題で一矢報いることができ、なんとか進んだ決勝。ここでも上手くいかず、一時は最下位に。しかし、11問目で自分たちの選択肢を他のチームが選び、一気に逆転。そのまま優勝。決まった時には頭が真っ白になり、ステージ裏に行き、スタッフの皆さんに「おめでとう」と言われてやっと実感が湧いてきた。

エコノミクス甲子園は私にとって間違いなく人生の転換点となったと思う。NYに行ったら、日本ではできないような体験がたくさん出来ると思う。ここで学んだことをこれからの人生で活かすのはもちろん、日本に何かしらの還元ができればいいと思う。

最後に、地方大会を主催して下さいました十八銀行の皆さん、プレゼンで同じチームだった洛南、栄東、伊勢の皆さん、同部屋だった新潟明訓のお2人、そして全国大会を主催して下さいましたスポンサー、スタッフの皆さん、本当にありがとうございました。



宮崎大会代表 宮崎県立宮崎大宮高等学校 2年
笹山 順平

学校からの案内で初めて知ったエコノミクス甲子園でしたが、案内を見た瞬間参加したいという衝動から友人を誘って地方大会にエントリーしました。そこで何とか優勝することができ、全国へ切符を手に入れました。決まった時の喜びもつかの間、大会終了後に渡された分厚く、中身の濃いテキストをみてただただ不安に駆られました。そこから早いもので出発当日。それでもまだ実感が湧かないまま飛行機に乗り込みました。しかし、状況が一変したのは宿舎に着いてからでした。他県から続々と集まってくる代表をみて圧倒されると共に、どうにか戦わなくてはという気持ちに駆られました。

それからのプログラムは地元には絶対会うことができない、他県の高校生や、来賓の方々との交流が盛り沢山で、とても貴重な経験をすることができました。迎えた3日目の本戦では予選通過をしたものの、準々決勝で敗退という自分の勉強不足とメンタルの弱さを痛感させられる結果となり、とても悔しい思いをしました。ですが、こ

の3日間で味わったのはその悔しさだけでなく、新たな知識を得られた嬉しさや、大会を通して仲良くなった仲間との友情など、本当に色々なことがありました。私たちは2年での参加で、来年またこの楽しい思い出を作るとは叶いませんが、今回得たことを絶対忘れずにこれから過ごし、努力して、大学に入ったら経済の勉強にまた打ち込みたいと思います。

最後になりましたが、この大会に関わって下さったすべての方に感謝します。本当にありがとうございました。

宮崎大会代表 宮崎県立宮崎大宮高等学校 2年
梅木 康多

この大会に参加して私は様々なことを学びました。

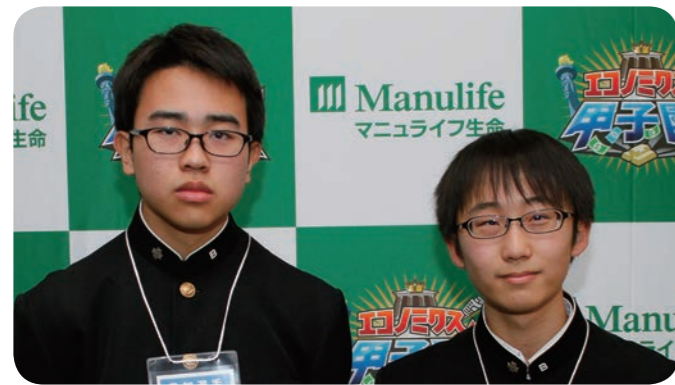
1日目、まだ不安も抜けず緊張がある中、宿舎に着き、受付を終えるとすぐにエコノミクス大会が始まりました。これが良いブレイクスルーになったと感じています。思っていた以上にみんながフレンドリーで不安に思っていた私もだいぶ緊張が解け、楽しむことができました。その後の大会で、その時当たった人と活動することもあり、打ち解けるのも早く出来ました。2日目ではたった6時間で決められた題材をもとにビジネスプランを作るのは大変でしたが、いつも学校でしていることを活かすことができ良かったです。その後の前夜祭では普段話す機会のない方々と話したり、他県のみんなの話を聞いたりでき、楽しい時間を過ごすことができました。筆記試験がその後にあったのは体力的にきついものがありましたが、朝一ですのを考えると、夜の方が、頭がまだ働いていたと思うので、まだまだ結果だったと思います。3日目はついに本番。早押しでは他の学校の回答がとても早く、対抗できず悔しかったです。第2ラウンドで運良く準々決勝に進めたときは嬉しかったのですが、いざ準々決勝が始まると、自分の勉強不足を感じ、まだまだ知るべきことは沢山あると感じました。

ヘアの人に頼まれてなんとなくで出場したこの大会でしたが、今までなかなか触れることのなかった「経済」という分野を学ぶに当たって、とても良い機会になりました。まだまだ知らないことが沢山あることをこの全国大会を通してよく思い知ったので、これからもこの分野に興味を持ち続け、知識を身に付け、その知識を実生活に活用できるように学び続けたいです。

また、私のように「経済」という分野に疎い人にも楽しんでその知識をつけ、興味を持たせることの出来るこの大会の素晴らしさを感じることが出来たので、まだ早いかもかもしれませんが、今度はそれを発信する側に立ちたいと思います。多くの方に支えられているこの大会に参加する側ではなく、今度は支える側として携わることが出来るなら、それはとても魅力的なことです。この先、大学でのことはまだ分かりませんが、機会があったら是非また今度は支える側としてこの大会に参加したいです。

最後に、文章上ではありますが、この第12回大会を支えて下さった方々に感謝申し上げます。本当に貴重な経験をさせていただくことができました。





鹿児島大会代表 ラ・サール高等学校 2年
伊東 篤志

1日目：移動&エコノミカ大会。金大附属の2人と同じ部屋で3日過ごす。前回優勝校からパワーを吸い取る。雪を見て興奮する鹿児島と雪にうんざりする石川。環境がまったく異なった地域の人と話すのはとても楽しかったです。

2日目：プレゼンラウンド。知徳（静岡）、岐阜（岐阜）、球陽（沖縄）と同じグループ。「地域創生の観点から2020年以降の問題点を鑑みたビジネスプランを考案する」という課題。午前中はかなり煮詰まっていたが、昼ご飯のあたりからだんだんと形になっていった。原稿もスライドもかなりギリギリの完成でしたが、決勝プレゼンで望外の1位を取ることができ、とても嬉しかったです。前夜祭のあとは45分間（長い）筆記クイズ。もはや学校の試験ではなかなか厳しい問題群だった。

3日目：本番。第2ラウンド終了時点でプレゼンチーム全部準々決勝に進出できました。嬉しい！

準々決勝、準決勝と順調に1位通過しつつに決勝戦。が、世の中思ったほど甘くはなかった。

「全国3位」。立派だと称賛してくれる人がいる。とてもありがたい。負けはしたものの、ただただ楽しかった3日間。

エコ甲がなければ得られなかった「金融知力」、「経験」、そして「友人」がいる。そしてエコ甲を通して感じられた「喜び」、「楽しみ」、そして「悔しさ」がある。今度はそれを高校生たちに伝えられる立場になりたいと思うようになりました。

地方大会主催して下さった鹿児島銀行様、チームメイトの赤塚を含め、一緒に戦ったすべての高校生、ボランティアスタッフの方々、関わって下さった全ての皆さんに最大限の感謝を伝えたいと思います。

エコノミクス甲子園、とても楽しかったです！本当にありがとうございました！

鹿児島大会代表 ラ・サール高等学校 2年
赤塚 孝紀

僕がエコノミクス甲子園を知ったのは高1のときでした。学校の政経の授業が好きだったこともあり、参加を決意し、地方大会に出場しました。高1の時の地方大会では決勝で敗れてしまいました。そして来年は絶対に優勝すると決意し望んだ高2の地方大会で無事優勝し全国大会へ出場することができました。

正直に言ってしまうとここで気が緩んでしまったのでしょうか。事前

教材は読んだもののそれ以外の本などを買うこともせず、あまりこれといった対策をせずに大会を迎えることになってしまいました。

そして迎えた全国大会1日目。会場に着くと夜ご飯を食べる間もなくエコノミカ大会が始まりました。運良くオリジナル部門で優勝することができ嬉しかったです。

大会2日目はプレゼンテーションラウンドでしたが、テーマが予想していたものと違い焦りました。方針すらなかなか決まらず、結局プレゼンが完成したのは発表開始の5分前でした。予選プレゼンの時点で入賞できないの確信していましたが、蓋を開けてみると予選1位という結果で非常に驚きました。そして決勝プレゼンも1位をとることができ、非常に嬉しかったです。

大会3日目は前日に1位だったこともあり、あまり緊張せずに臨めました。予選を1位で通過できたものの決勝では知識量でまったく歯が立たず3位という結果に終わってしまいました。来年は受験生なので出場できないのが非常に残念ですが、後輩に思いを託したいと思います。

最後に地方大会を主催して下さった鹿児島銀行様をはじめ、この大会を開催・運営して下さった方々、応援してくれた友人や家族、そして一緒に戦ってくれた相方、全ての人に感謝を述べたいと思います。ありがとうございました。



沖縄大会代表 沖縄県立球陽高等学校 2年
島袋 稜平

今回は、第12回全国高校生金融経済クイズ選手権 エコノミクス甲子園 マニュアルライフ生命カップ全国大会に参加させて頂きありがとうございました。

1日目は、那覇空港から羽田空港までの飛行機が遅れ、東京で渋滞にも巻き込まれてしまい、エコノミカ大会には参加出来ませんでした。

2日目は株式会社一休の創業者の森正文様が講演会をして下さりました。この講演会では、森様の実体験を通して、ベンチャー企業を立ち上げる上で大切な事をお話しして下さいました。質疑応答の時間で出た、「優秀な人とはどうゆう人物の事か。」という問いに対して、森様は「めげない人、誰もやらない事を出来る人。新しい事を出来る人。」と仰っていました。これからの社会で生きて行く中で、自分自身が「優秀な人材」になるために、この講演会の内容を忘れずに新たな発想を生み出せるよう、専門する分野以外の知識もつけていきます。

講演会の後では、[2020年以降の日本を地域から元気にするビジネスプラン]をテーマにプレゼンテーションの作成、発表を行いました。



した。このアクティビティーでは、投資家を納得させるビジネスプランの作成方法をグループ全員で考えました。前半は良い考えや意見は出るものの一つにまとめるとなると上手くいきませんでした。しかし、後半になり、時間も残りわずかになると全員で役割分担を自然と行い、間に合うことができ、プレゼンテーションでは1位を取らせて頂きました。

前夜祭では、神山孝雄様を始めとする様々な金融に関係している方とお話しをする機会がありました。お食事もちろん美味しかったです。普段ではお目にかかれない人達とお話し出来たことが嬉しかったです。

前夜祭の後の筆記試験、3日目のラウンドでは、問題が難しく、太刀打ち出来ませんでした。ラウンドの内容も複雑でゲーム性があり、最後までどのチームが勝つか分からず、とても楽しかったです。

エコノミクス甲子園に参加させて頂いて、ミクロ・マクロ経済の動き、金融とは何か、多種多様な金融商品の特性は何か、など、普段では学ぶ機会があまりないような事を学びました。それと同時に、この知識は今後の社会を作る私たちには必須であるという事に気づかされました。これからは金融関係にも目を向けて、生活をより豊かにしていきたいです。

沖縄大会代表 沖縄県立球陽高等学校 2年
岩橋 明

今回エコノミクス甲子園に出場させて頂きました。岩橋明です。去年の出場者の感想を拝見させて頂きましたと、東京に行きたかったから参加した、というものがありませんでしたが、私が出場した理由は、科学グランプリの雪辱を晴らすためです。私たちのチームは県大会で第3位だったので、派遣には行けず、不完全燃焼感だけが残りました。そんな時にエコノミクス甲子園のチラシが配られたので、その時の燃えかすはそこで燃やすことに決めました。相手の稜平は理系なので（自分もですが）誘うのはためらいましたが、快く参加してくれたので感謝です。

ただ、そんな理由で出場したからか、やはり悔いは残ってしまいました。1つ目は、ベスト8にすら残れなかったことです。予選はプレゼンテーションラウンドの配点が大きかったようで、同じグループのラ・サール、知徳、岐阜高校の方々のおかげで予選は通過できましたが、その後本戦であえなく破れてしまいました。事前学習教材をたくさん勉強しただけで満足してしまっただけが敗因だったと思います。他県の方たちが余裕で答えている間自分達は何もできなかったことは、本当に悔しかったです。結局、自分達は事前学習教材の内容以外はほとんどわかりませんでした。2つ目は、チキってしまってあまりいろんな人達に話しかけられなかったことです。前夜祭にはいろんな大企業の上の方の人達がいらっやっていました。その中で大体10人くらいの方々とお話しさせて頂いたのですが、その誰も彼もが素晴らしい話を聞かせて下さっただけに、もっと沢山の方の話を聞いておけばよかったと後悔しました。

ただ、悔いが残って残ってはいらぬものの、全体として楽しかったので、よかったです。経済はほとんどの進路において重要なので、出場してよかったと思います。金融知力普及協会の皆さん、支えて下さった方々、ありがとうございました。



インターネット大会代表 島根県立横田高等学校 2年
松田 千明

学校の廊下の隅に貼ってあったポスターでエコノミクス甲子園の存在を知り、後輩に頼んで興味本位で出場しました。まさか全国まで行くことができるとは思っておらず、自分たちのレベルが全国大会で通用するのかという強い不安がありました。結論としては、全く通用しませんでしたし、勉強不足を痛感しました。しかし、大会は想像を超えるおもしろさで、また出場したことで得られたものはすごく大きかったと思います。

もっとも大きく印象に残ったのが、まわりの高校生のレベルの高さです。2日目のプレゼン大会では、同じチームになった人たちの知識や思考力の深さに感動しました。また代表チームの発表では、この短時間でこれほどのものを作るのかと驚きました。はじめ、自分はプレゼン内容のアイデア性や論理構造にばかり目が向いていましたが、それよりも、いかにアイデアを具体化し、おもしろいと思ってもらえるように相手に伝えるのが重要なのだと分かりました。

このエコノミクス甲子園は、知識を競う場、という面の他にももう一つ、まわりとの協力や交流から学ぶ場、という面もあると感じました。私にとっては後者から得られたことがとても大きかったです。結果は振るわなかったけれど、大会のために学んできた知識はこれからの将来に大きく役立つだろうし、また大会そのものを通して得られた学びは、これからの人生の糧になると感じています。この大会が、経済をおもしろいと思えた原体験になりました。本当に幸運だったと思います。大会に関わって下さった全ての方、このような貴重な機会を与えて下さってほんとうにありがとうございました。

インターネット大会代表 島根県立横田高等学校 1年
福原 稔也

経済学という言葉の放つ物々しい雰囲気とその色々なものに圧倒されながら挑んだ大会でした。島根県の山の奥の奥の奥にある奥出雲。そんなところから来た僕らは、大会の雰囲気に呑まれているながらも一生懸命に健闘したと思っています。

大会中、考えていたのは「金融知力」のこと。（もちろん、クイズのことについても考えてました笑）自分達がこれからの時代を生き抜いていくなかで最低限持っているべき金融の力、金融知力。経済の勉強をただで本場に、その力が身に付くのか自分の人生に役に立つのか、そう考えていました。でも、大会のなかでプレゼンをしたときに「これもひとつの力」かと感じました。金融知力は、自分達の人生をより豊かにしてくれる、そんな経済の力だと思います。しかし、実



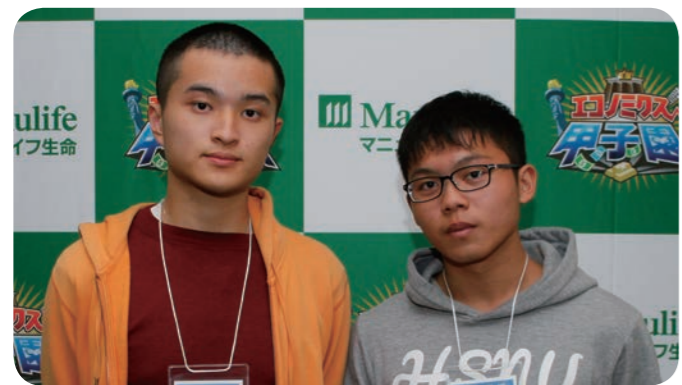
際はそれだけではなく経済の意味「経世済民」としての金融知力もあるのだと思います。

だから、僕はこの大会において、経済を学ぶ、学べる機会をもらえたことに対する感謝の気持ちを持たせていただきました。

大会の結果としては、大喜びできるほどのものでもなかったかもしれませんが、それでも上に書いたようなことを感じただけでも本当に収穫のある大会だったと思います。

大学は経済学部に行く予定はありませんが、それでも勉強してきた知識を自分のため人のために生かせるように、勉強していきたいと感じました。

このような大会を開催していただき本当にありがとうございました。



台北代表 国立台湾師範大学附属高級中学 2年 陳智

私陳さとしは今回の大会で多くのことを学び、多くの人と出会い、成長することができた。このような体験は、今までの人生の中でもほとんどなかった。これからもないのではないかと思います。

全国大会に出場することは喜ばしいことであり、また同時に不安なことでもあった。日本語で勉強するのは本当に困難なことだったが、私にとって、これは人生の一大挑戦だった。もし、この機会を掴み、壁を乗り越えることができたら、自分の大きな成長に繋がると思い参加を決めた。だから、このエコノミクス甲子園大会の開催に関わる一人ひとりの方に心より感謝しています。台北代表として参加できたのは幸せな事です。私は今高校2年生で、大会に参加するのも初めてだったし、いろいろ分からないこともあったが、何よりも、私は日本文化に興味があり、それを学ぶことへの期待と熱意がある。子どもの頃からずっと日本文化に接触してきた。例えば、剣道は今まで十二年続けて来た。その中で日本の精神を学び、特に“剣道は剣の理法の修練による人間形成の道である”や“剣道は礼に始まり礼に終わる”などの教えは私の人生の糧になっている。また、アニメは私の日本に対する興味を深めるきっかけになった。アニメを通して学園祭や運動会やお祭りなど日本の学生生活を垣間見る事ができる、また日本語学習の面では教科書で学べない生きた日本語が学べると思う。

今回の大会で印象深かったのは一日目の晩のエコノミクス大会と二日目のプレゼンテーションだ。台湾でエコノミクスの練習をして来たとはいえ、まさか二位になれるとは思ってもよはず本当にびっくりした。プレゼンテーションはたぶん難しいだろうと思っていたが、皆でアイデアを出し合って進めていくうちに面白くなってきた。いろいろな県の学生と知り合えるのは嬉しいことだ。最後に審査員である銀行の方々の前でプレゼンテーションを行ったとき、期待と緊張の気持ちが入り混じっていたが、作り上げた喜びで大きな達成感が得られた。全国大会三日目の金融経済クイズ選手権は今ま

で私が見て来た様々な大会と全く違うものだった。プログラムの内容はたいへん面白く台湾で見た事がない工夫されたものばかりだった。また会場全体の雰囲気や、ステージの作りから、早押しクイズのボタン、答えを書き込むボードや選択肢の札など細かい部分まで一体感があり感激した。この大会を通してたくさんの友達と知り合っ一緒に大浴場でお風呂に入ったり、将来の夢を語り合ったり、お互いの文化を話し合ったりでき、特別な体験になった。今後も連絡を取り続け一生の友達になれたらと思う。

最後に、こんなにも貴重な機会を私達に提供してくれた大会参加者の皆様には深く感謝申し上げます。今後もこの素晴らしい大会がさらなる発展を遂げることを切に願っております。

エコノミクス甲子園、来年も待っているよ〜!!!

台北代表 国立台湾師範大学附属高級中学 3年 張浚哲

エコノミクス甲子園で素晴らしい思い出が沢山できたと思います。大会の楽しい始まりとなる一日目、そぞくと会場に集まってくる各地方代表と一緒にエコノミクス大会を楽しみました。台北代表の私たち二人は勉強のため集まるときにエコノミクスの練習も順調に進めていたため、我々二人は三回勝つことができて達成感が得られました。その後、初めて知った「たはいや」ゲームと言うものを体験しました。

そして、来たる二日目と三日目。そこでかけがえのない友達を作ることができました。プレゼンラウンドで力を合わせた仲間と前夜祭で仲良くしてくれた皆さんに出会えて本当によかったです。一緒に過ごした三日間の思い出は一生忘れられません。みんなと会話していると、自分の言語力が強くなってきた感じがしました。

前夜祭が終わり、いよいよ金融知力で闘う本番です。筆記クイズでは勉強してきた経済知識で半分以上答えられたが、早押しクイズで答えが思いつかなくて0点で第1ラウンドを終え、自信が崩れてしまいました。しかし、「諦めちゃこの後ゼッタイ後悔する」と考えて、気を取り直して第2ラウンドと第3ラウンドを迎えることができました。結果は準々決勝ラウンドに入れなかったけど、諦めなかったので後悔はありません。それに、準々決勝以降のますます盛り上がりつつ試合を見ながら私も応援に力が入り本当に楽しかったです。

大会がきっかけで、エコノミクス甲子園に向けて勉強するうち、金融、投資など将来役に立つ分野と幅広い知識を得ることができました。だが、本番となると、自分の知識量は他校の参加者たちに遠く及ばないと痛感しながら、金融知力の奥深さを知ることとなりました。三年生なので残念ながら来年の大会に挑む事ができませんけれど、これからも私達の生活を豊かにする経済の知識についてもっと勉強していきたいと思っています。

東京に滞在した時間も感謝すべきことがいっぱいです。台湾では旧正月に家族で食卓を囲む習慣がありますが、今年は大会に参加するため家族と過ごせないことで、応援に駆けつけてくれた台湾師大附の学務主任（日本の生徒指導部長にあたる）がお正月料理の代わりに焼肉をごちそうしてくれ、温かい気持ちになりました。その後も新宿で和食、築地で寿司、幡ヶ谷で焼き肉等を食べられ、日本の食文化を味わうことができて幸せでした。

また滞在中に東証や朝日新聞社、日本銀行に貨幣博物館など様々なところを見学させていただきたくさん学びました。言語の違いの影響に加えて、様々な場所でのたくさんの人付き合いにかなりの疲れを感じましたが、珍しい体験なのでありがたいという気持ちを胸に抱きながら楽しむことができました。

エコノミクス甲子園は金融知力を身につけるだけではなく、日本全国の高校生たちと知り合うこともできて、様々な稀有なる経験で見聞を広めることができます。台湾の高校生に貴重な機会をくれた方々と支えてくれた皆様に感謝の気持ちを伝えたいと思っています。是非とも台湾の後輩に参加を勧めたいと考え、自分も機会があればスタッフとして貢献したいと思っています。

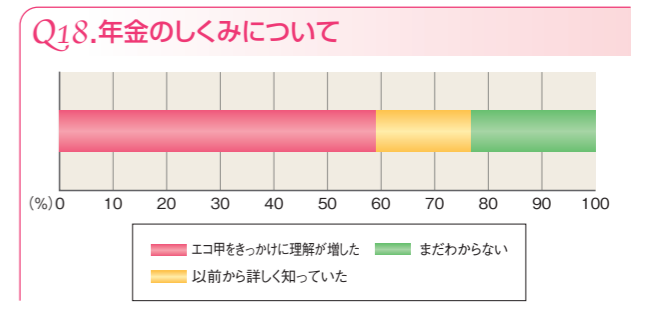
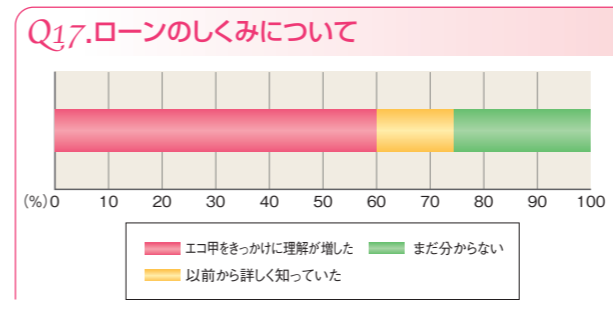
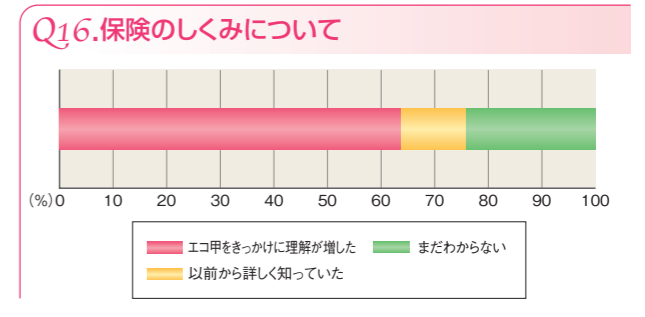
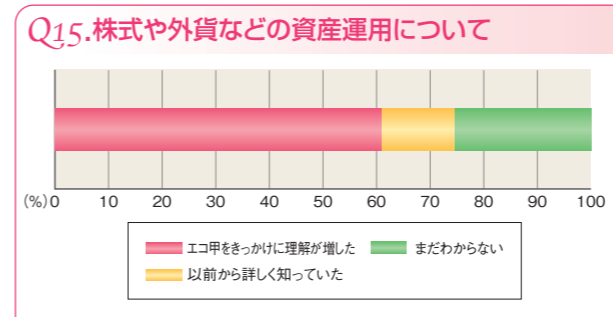
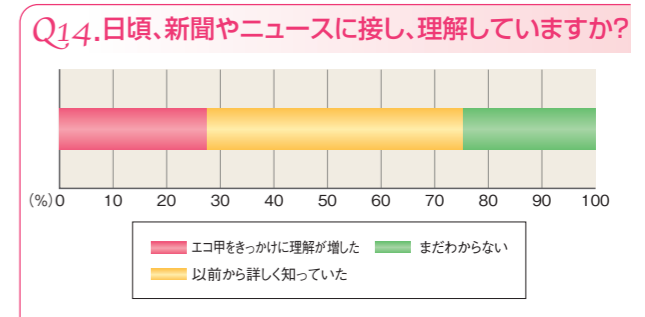
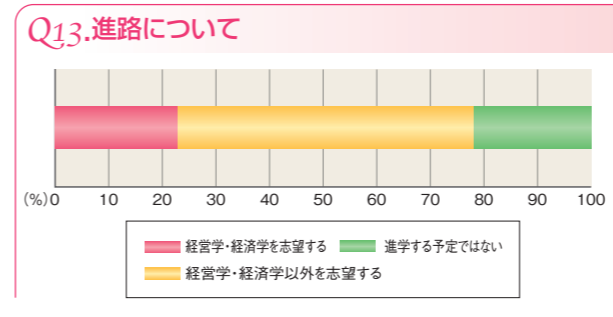
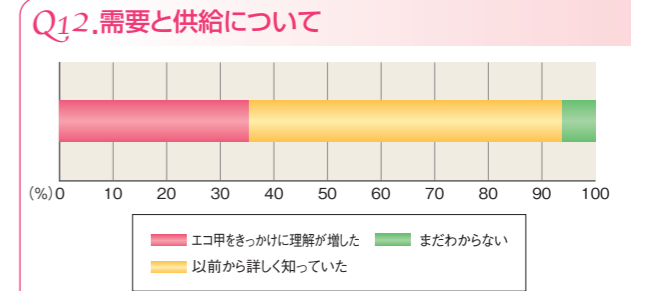
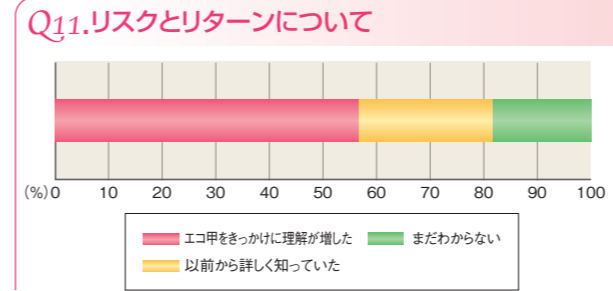
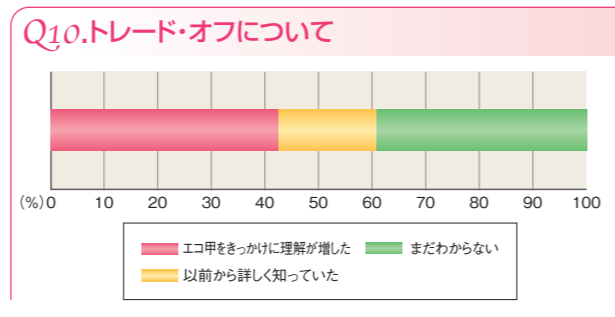
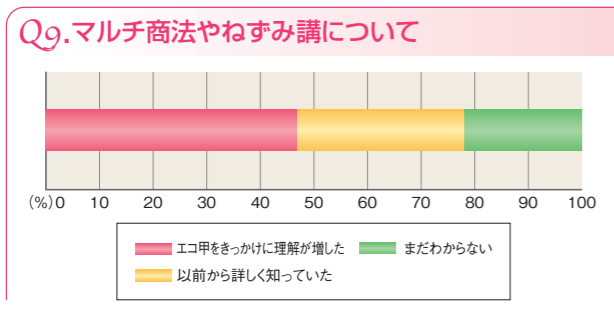
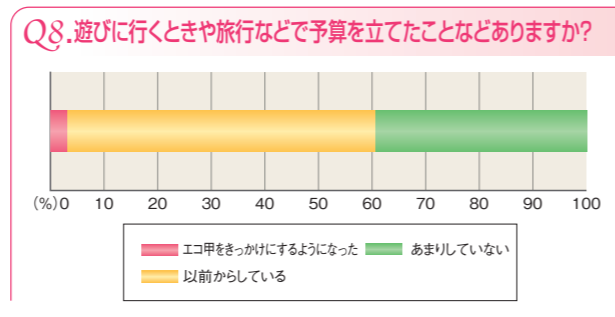
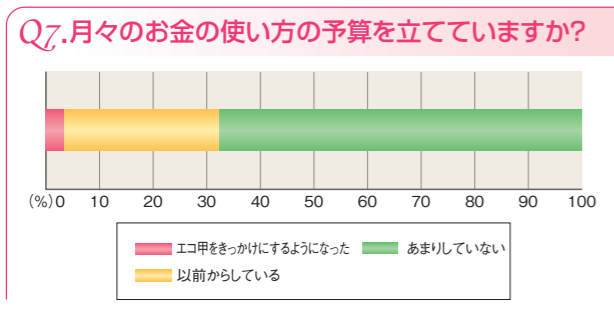
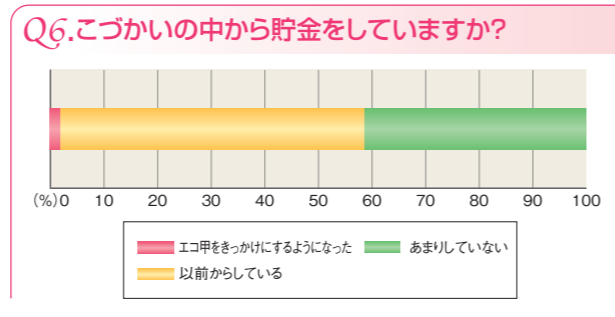
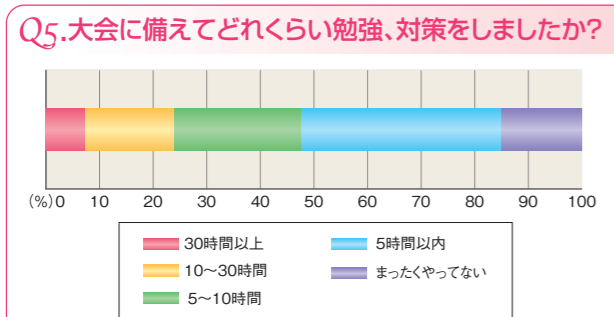
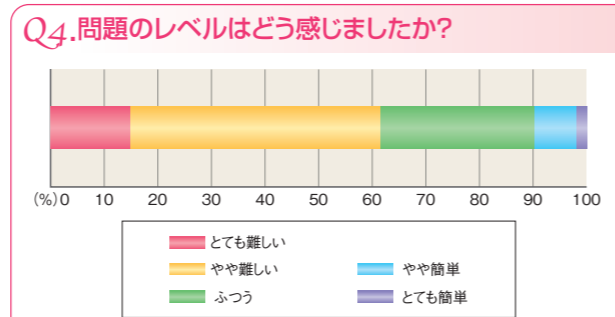
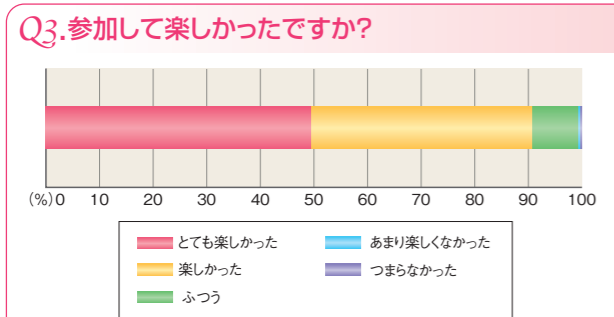
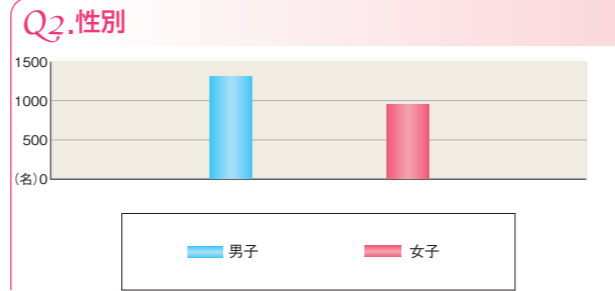
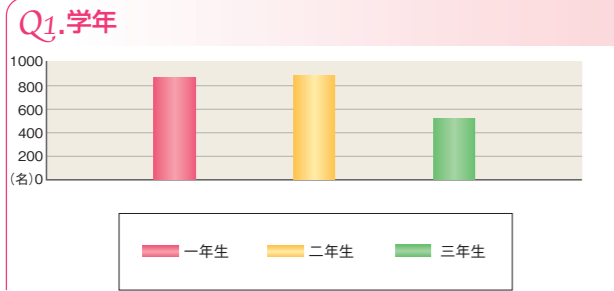


エコノミクス甲子園では各企業・団体様から寄贈していただいたテキストを、事前学習教材として無料で参加生徒に送付しております。

事前学習教材の内容から何題かクイズが出題されるので、生徒たちも大会前にしっかりと勉強してくれています。

単純にテキストを配布するよりも高い学習効果を上げています。

 <p>■ 今日から役に立つ、経済の読み方と投資の基礎 (作成:金融知力普及協会 寄贈:シティ) シティホームページ http://www.citigroup.jp/jp/</p>	 <p>■ ビギナーズのためのファイナンス入門 (作成:寄贈:金融広報中央委員会) 金融広報中央委員会ホームページ http://www.shiruporuto.jp</p>
 <p>■ これであなたもひとり立ち (作成:寄贈:金融広報中央委員会) 金融広報中央委員会ホームページ http://www.shiruporuto.jp</p>	 <p>■ 大学生のための人生とお金の知恵 (作成:寄贈:金融広報中央委員会) 金融広報中央委員会ホームページ http://www.shiruporuto.jp</p>
 <p>■ そんぽのホント(フレッシューズガイド) (作成:寄贈:日本損害保険協会) 日本損害保険協会ホームページ http://www.sonpo.or.jp</p>	 <p>■ 株式会社制度と証券市場のしくみ (作成:寄贈:日本証券業協会) 日本証券業協会ホームページ http://www.jsda.or.jp</p>
 <p>■ NISAではじめるJリート (作成:寄贈:不動産証券化協会) 不動産証券化協会ホームページ http://www.ares.or.jp</p>	 <p>■ 初めてのJリート (作成:寄贈:不動産証券化協会) 不動産証券化協会ホームページ http://www.ares.or.jp</p>
 <p>■ もっと知りたい税のこと (作成:寄贈:財務省) 財務省ホームページ http://www.mof.go.jp</p>	 <p>■ 基礎から学べる金融ガイド (作成:寄贈:金融庁) 金融庁ホームページ http://www.fsa.go.jp</p>
 <p>■ 少額短期保険で描く保険の未来 (作成:寄贈:日本少額短期保険協会) 日本少額短期保険協会ホームページ http://www.shougakutanki.jp</p>	 <p>■ ほけんのキホン (作成:寄贈:生命保険文化センター) 生命保険文化センターホームページ http://www.jili.or.jp</p>
 <p>■ マナブとメグミのお金のキホンBOOK (作成:寄贈:全国銀行協会) 全国銀行協会ホームページ https://www.zenginkyo.or.jp</p>	 <p>■ 前払式支払手段ご利用者のみなさまへ (作成:寄贈:日本資金決済業協会) 日本資金決済業協会ホームページ https://www.s-kessai.jp</p>
 <p>■ わかりやすい投資信託ガイド (作成:寄贈:投資信託協会) 投資信託協会ホームページ https://www.toushin.or.jp</p>	 <p>■ 2017年版 REIT GUIDE (作成:寄贈:投資信託協会) 投資信託協会ホームページ https://www.toushin.or.jp</p>
 <p>■ 経済用語図鑑 (作成:寄贈:大和証券投資信託委託株式会社) 大和証券投資信託委託株式会社ホームページ http://www.daiwa-am.co.jp ※全国大会出場者へ寄贈していただきました。</p>	 <p>■ アメリカの高校生が学ぶ経済学 (作成:寄贈:大和証券投資信託委託株式会社) 大和証券投資信託委託株式会社ホームページ http://www.daiwa-am.co.jp ※全国大会出場者へ寄贈していただきました。</p>





大会名	取材 (TV)	取材 (新聞)	取材 (その他)
北海道 オホーツク地区予選		北海道新聞	経済の伝書鳩
北海道 釧路・根室 地区予選		北海道新聞 釧路新聞	
北海道 十勝地区予選		十勝毎日新聞	
北海道	NHK	釧路新聞 十勝毎日新聞 函館新聞 ニッキン	J:COM
青森	NHK	東奥日報 デーリー東北新聞 陸奥新報	
岩手	岩手めんこいテレビ 岩手放送 テレビ岩手 岩手朝日テレビ	岩手日報 盛岡タイムス	
宮城	仙台放送		
秋田	NHK 秋田テレビ	秋田魁新報	
山形		山形新聞	
福島	福島中央テレビ (司会協力) 福島テレビ	福島民報 福島民友	
茨城		茨城新聞 常陽リビング	
栃木	とちぎテレビ NHK	下野新聞 朝日新聞 毎日新聞	
群馬	群馬テレビ	上毛新聞	FM 群馬
千葉		千葉日報	
神奈川	YOU テレビ	神奈川新聞	
新潟		ニッキン 日本経済新聞	
富山	北日本放送 富山テレビ放送 チューリップテレビ	北日本新聞 毎日新聞 富山新聞	
福井	FBC 福井放送 福井テレビ	福井新聞	
山梨		山梨日日新聞	
長野		長野市民新聞 長野日報 信濃毎日新聞	
岐阜 飛騨地区予選		岐阜新聞 中日新聞	高山市民時報
岐阜	テレビ愛知 岐阜放送	岐阜新聞	
静岡	静岡放送	静岡新聞	



エコノミクス甲子園は、高校生の金融経済リテラシーを高めるという理念にご賛同いただいた、各社様のご支援により成り立っています。感謝の思いを込め、ここにご協賛をいただいた各社をご紹介します。

プラチナスポンサー



ゴールドスポンサー



シルバースポンサー



ブロンズスポンサー



地方大会主催金融機関の皆さま





Special Thanks (順不同)

後援・協賛・協力の各社様はじめ、お力をお貸しいただいたすべての皆様 (肩書きは当時)

株式会社トラノテ 代表取締役 荒畦 悟 様 	株式会社 TEEMA CEO 上野 聡太 様 	株式会社 MS&Consulting 代表取締役社長 岡崎 陽子 様 	IT BPO 株式会社 シニアビジネスエキスパート 阿部 和彦 様 	国際青年環境 NGO A SEED JAPAN 理事 田川 道子 様 
--	---	---	---	--

株式会社みずほフィナンシャルグループ IR 部 参事役 菊池 佑介 様 	株式会社ウィーン 代表取締役 森 正文 様 	株式会社 MS&Consulting 代表取締役社長 並木 昭憲 様 	マニライフ生命保険株式会社 代表執行役 森田 均 様 	東洋証券株式会社 営業企画部 顧問 櫻井 歩 様 
---	---	--	---	--

認定NPO法人 金融知力普及協会 理事長 金子 昌資 様 	大和証券投資信託委託株式会社 執行役員 重田 修 様 	近畿日本ツーリスト株式会社 執行役員 関東営業本部長 高川 雄二 様 	ときわ総合サービス株式会社 代表取締役社長 山下 朗裕 様 	ラッセル・インベストメント株式会社 運用部 シニアアナリスト、 ポートフォリオ オンボーディング 高坂 美佐子 様 
--	---	---	---	---

三井不動産株式会社 日本橋一丁目オフィス 所長 佐伯 正人 様 	認定NPO法人 金融知力普及協会 シニアアドバイザー 吉田 憲三 様 	株式会社TOC 代表取締役 作田 忠 様 	株式会社一休 内部監査室 室長 大橋 広樹 様 	シティグループ・ジャパン 会長 田中 達郎 様 
---	--	---	---	--



マニライフ生命保険株式会社 代表執行役社長兼 CEO ギャビン・ロビンソン 様 	一般社団法人 投資信託協会 会長 岩崎 俊博 様 	認定NPO法人 金融知力普及協会 理事 野中 ともよ 様 
--	---	--

金融知力普及協会をお支えいただいている各社
株式会社経済法令研究会 サンメッセ株式会社
シティグループ・ジャパン・ホールディングス合同会社
SMBC日興証券株式会社 公益社団法人日本証券アナリスト協会
日本証券業協会 マニライフ生命保険株式会社 三井不動産株式会社

各地方大会、全国大会でのボランティアの皆様

ボランティアスタッフ

亀山 尚輝 恵谷 建介 齋藤 賢太 吉峰 広貴 大城 奈々 多賀谷 光 寶藏 蓮也 濱元 貴大	縄田 寛希 住吉 康大 末武 大河 岡本 尚樹 古谷 和弥 井上 桃子 横山 智紀 栗野 息吹	藤田 蘭丸 関原 悠吾 嵯山 明音 堀島 正道 仙田 晴紀 山田 怜旺 山村 玲雄 高場 理人	岡本 秋星 山根 有輝也 松原 尚生 松田 直晃 三浦 正基 大森 菜央 堀田 瑤子 寶藏 花穂	羽藤 晶 佐藤 賢斗 池田 麟太郎 杉本 安里紗 平山 一帆 山本 桐也 小幡 尚輝 江尻 智森	志村 将也 小谷 健太 井村 一政 青木 寿太 童 菲 折笠 崇光 高木 佑輔 中川原 杏奈	神谷 涼介 渡邊 幸輝 中村 翔太郎 御手洗 伸 西川 陽之 北島 拓哉 岡辺 公志
--	--	--	---	---	---	--

ユークレイル・エイト





第12回エコノミクス甲子園
ボランティアスタッフ
リーダー

亀山 尚輝

エコノミクス甲子園は今年第12回大会を迎え、過去最多の全国517校、1297チームの高校生が参加しました。各都道府県の代表や台北からも集まった全国大会は、離間に次々と正解する高校生の知識量に驚き、逆転に次ぐ逆転の決勝戦にどよめき、大いに盛り上がりました。

僕はこのエコノミクス甲子園を運営するボランティアスタッフの一員として今年大会に関わらせて頂きました。エコノミクス甲子園の大きな目標のひとつは、これから社会人や大学生となって、一人暮らしを始めたりより自立した生活を送ったりする高校生に必要な「金融知力」を身に付けてもらうことにあります。高校までの授業ではそういった金融や経済の仕組みについて学ぶ環境が少なく、僕自身もエコノミクス甲子園を知るまでは金利政策や株式投資など、ニュースで耳にはしているものの、その仕組みや本質を理解はしていませんでした。

こうして僕は高校生の時に「エコノミクス甲子園に出場することである程度の金融経済の知識が身についた」というところまでは来ましたが、実はそれ以上の経験を「出場」という形ではなく得ることが出来ました。それが冒頭に触れたボランティアスタッフです。

エコノミクス甲子園は、過去に全国大会に出場した大学生が有志でボランティアスタッフとして運営に携わっています。ボランティアスタッフは北海道から沖縄まで日本全国に50名以上おり、またその担当内容は多岐に渡ります。まず、ほぼ全ての都道府県で行われる地方予選と全国大会で使われる問題の作成、戦略的で個性的なオリジナルルールの考案、全国大会当日の高校生の案内やその日読まれる司会台本作成、そしてステージにおける配置や音響まで行うのです。またこの報告書もボランティアスタッフが制作に携わっています。

僕はこのスタッフを通して、普段の大学の授業やサークル活動では得られない多くのことを学ばせていただきました。1年間を通して1つのイベントを作り上げていくということ、それには様々な人の力が合わさっていること、それぞれの実務的な能力はもちろん、発想力や構想力、対応力が必要なこと。社会に出れば求められるけれどもなかなか教えてもらえない、そんなことが濃縮された1年でした。

だから僕は、高校生の時も大学生になった今でも、自分の経験値になり、思い出となっているこのエコノミクス甲子園に感謝しています。そしてこの貴重な経験は、限られた人だけではなく、より多くの人が享受できるものだと思っています。

第13回エコノミクス甲子園に出場する高校生が増えること、そして運営するボランティアスタッフが仲間と楽しく成長できることを願っています。



第12回エコノミクス甲子園
ボランティアスタッフ
サブリーダー

齋藤 賢太

第12回エコノミクス甲子園で学生スタッフサブリーダーを務めました齋藤賢太と申します。私は当初「金融経済を学びたい」というより「クイズに興味があった」という単純な理由で参加し、第9回では全国大会に進出できました。このとき初めて大学生スタッフの存在を知ったのですが、以来大会に携わりたいと思ってました。そう思ったのはやはり、出場してこの大会の様々な魅力を感じたからだと思えます。この大会の魅力で最初に思い浮かぶのはやはり、具体的な目標を持って楽しく金融経済の知識を学べることだと思いますが、それだけではありません。

一つは、貴重な経験ができ、純粋に楽しめることであり、これは全国大会はもちろんですが、地方大会でも十分味わえます。私は第8回では地方大会で敗れましたが「悔しい、来年はリベンジしたい」と感じましたし、スタッフになってからいくつかの地方大会を見学して、各主催金融機関様の努力により高校生が楽しみ、白熱した戦いに臨むことができると感じております。

そしてもう一つは多くの高校生が活躍できる機会があることです。中高の授業で学ぶ金融経済は他の科目に比べればとて多少なく、対策を始める前の段階での実力差は小さいのではないのでしょうか。私を含め参加者の多くは普段から金融経済を勉強しているというより、対策を始めてから興味を持ったのではないかと感じております。エコノミクス甲子園は様々な高校生が活躍できる大会であり、例えば、全国大会出場者の所属している部活は本当に様々です。

エコノミクス甲子園は大会である以上、最も優秀なチームを決めるという側面がありますが、より多くの高校生が楽しみ、活躍できる大会になるように努力してまいりました。

さて、エコノミクス甲子園は十二支を一周し、次は第13回が開催されます。第13回はこの下に挨拶があります関係者を中心として今回よりも素晴らしい大会を作りますので、1組でも多くの高校生に参加していただけるよう願っております。



第13回エコノミクス甲子園
ボランティアスタッフ
リーダー

関原 悠吾

はじめまして！第13回エコノミクス甲子園にてボランティアスタッフのリーダーを務めさせていただきます、関原悠吾です。私は高校2年生の時、第10回大会に富山県代表として全国大会に出場しました。そしてエコノミクス甲子園との出会いは私の人生を大きく変えました。

参加動機は漠然と「この大会に出て優勝したら目立てるやろな〜」って感じで、なんともまあ田舎の目立ちたがり屋の高校生みたいな感じでした。そんな感じなので一回目は高校一年生の時に参加したのですが、地方大会では4位に終わり全国大会には進めませんでした。しかし、私はそこで悔しさを感じたと同時に金融経済分野を勉強することの楽しさに気づけました。それまでどこか気になってはいたけど知らなかった、ちょっと難しいお金の話が理解できるようになり、日常生活においても勉強の成果を実感する場面が増えました。そこからは勉強もはかどり、二年目にして全国大会に出場することができました。

残念ながら全国大会の結果は散々なものでしたが、そこで私の世界観が大きく変わりました。それまで私は全国区の大会に参加したことがなかったので、「全国には自分の同世代にこんなにもすごい人がいるのか…」と愕然とした記憶があります。全国大会出場者は単に頭が良いだけの人は少なく、それぞれが多岐にわたって活躍実績のある人ばかりでした。大会期間中、感動しっぱなしだったことをいまでも鮮明に覚えています。

この経験を忘れることなく、大学に入ってから一年間ボランティアスタッフとして活動し、そして第12回大会で初めて、運営側として全国大会に参加しました。自分の役割柄高校生と直接交流する機会が多かった私は、高校生のいきいきとした姿を間近で見ることができました。それはまさに感動の再来であり、来年は自分を中心になって大会を作り上げたいと決意した瞬間でもありました。

正直な話をする、全国大会の結果も進学先の大学も、大勢いるボランティアスタッフのなかでは決して優れているわけではありません。エコノミクス甲子園に出会った高1の夏の私は自分がボランティアスタッフのリーダーになることは想像もしていなかったでしょう。1年前ですら想像していませんでした。だけど、私は思い切って挑戦することの大切さをエコノミクス甲子園を通して学びました。エコノミクス甲子園に参加することでもちろん金融知力は身に付きます。しかしそれだけでなく、その他にも多くの気づきを与えてくれるのがエコノミクス甲子園です。第13回大会も全力で取り組み、素晴らしい大会にしてみせます。多くの高校生の参加をお待ちしております。



第13回エコノミクス甲子園
ボランティアスタッフ
サブリーダー

堀島 正道

こんにちは。第13回エコノミクス甲子園のサブリーダーを務めます、堀島正道です。私がエコノミクス甲子園に出会ったのは高校2年生の夏です。必死に相方を探し、出るからにはベストを尽くそうと勉強に励んだのを覚えています。そして、運良く地方大会を勝ち抜け、辿り着いた全国大会。活躍はできなかったものの、それ以上に大事なことを学ぶことができたと思っています。

一つは、「経済や金融を学ぶことの楽しさ」です。ニュースや大人の会話で聞いたことはあっても詳しくは知らないことは、高校生には誰でも多くあると思います。しかし、経済や金融の知識はどんな人でも近い将来に必ず必要となります。卒業や就職の後にいつか理解しなければならぬと漠然と思っていたことを、クイズという形で楽しく学べるというのは高校生にとっては貴重で素晴らしい経験です。私は現在、経済学部に通っていますが、この道を志したのもエコノミクス甲子園に出たおかげです。人生を変えるような影響を与えてくれたこの大会に深く感謝しています。

もう一つは、「友達との絆」です。高校生の時に一緒にエコノミクス甲子園へ出場した相手とは、全国大会当日まで毎日のように2人で勉強をしました。おかげでお互いに何でも話せるような仲になり、大学生になり遠く離れた今でも交流が続いています。2人で勉強したり一緒に東京に行ったり、エコノミクス甲子園だからこそこの経験で一生の友ができることを是非多くの人に知ってほしいです。

上記の2つ以外にもエコノミクス甲子園に出場して、人生が変わったり何かを得たりした人は多くいます。普段はなかなか会うことのできない方々との交流や、全国各地の優秀な高校生との交流など、エコノミクス甲子園でしか味わうことのできない経験や興奮をもっと多くの高校生に届けたいと思っています。第13回大会も高校生の皆さんにとって充実したものになるように運営していきます。是非、多くの方のご参加を心からお待ちしています。



第13回エコノミクス甲子園
ボランティアスタッフ
サブリーダー

井村 一政

こんにちは。第13回エコノミクス甲子園ボランティアスタッフのサブリーダーを務めます、井村一政と申します。僕は高校一年生の時、第9回大会で全国大会に出場しましたが、早々に敗退してしまいました。リベンジを誓って臨んだ高校二年生の第10回大会では、地方大会で惜しくも準優勝と、全国大会への出場権を逃して悔しい思いをしたのを覚えています。地方大会で敗退が決まった時、おそらく自分はもうエコノミクス甲子園と関わることがないだろうと思いました。しかし、大学に進学してからも当時の悔しさが忘れられずに、大会に運営側から関わりたいと思い、第12回大会からスタッフをさせてもらっています。

思えば、エコノミクス甲子園は、僕の進路選択にも影響を与えました。当時はこれといって興味のある分野のなかった僕ですが、地方大会、全国大会にむけて勉強した経験から、ニュースや新聞に目を通すようになり、今は大学で主に経済について学んでいます。

また、大学生になり一人暮らしを始めてから特に実感したことです。エコノミクス甲子園で得た知識は実生活でもとても有用です。保険、預貯金、税金などをはじめとして、お金に関する知識は、生きていくうえで知っておいて損のないことばかりです。

その他にも、学校の授業では教わらないことを友人と自分たちのペースで勉強したり、全国大会で多くの優秀な同年代と話し合っ、銀行員さんの前でプレゼンをしたりと、僕がエコノミクス甲子園に出場しなければ経験することのなかっただろう、多くのことを経験することができました。

第13回大会も、高校生の皆さんにとって楽しく有意義なものになるように取り組んでいくつもりです。皆さんと全国大会で会えるのを心より楽しみにしています。



エコノミクス甲子園 過去開催実績

開催回数	地方大会開催年	全国大会開催日	参加校数	参加チーム数	優勝校
第1回	2006	2007年2月18日	25	33	ラ・サール高等学校
第2回	2007	2008年1月13日	90	237	開成高等学校
第3回	2008	2009年1月25日	154	425	東大寺学園高等学校
第4回	2009	2010年1月10日	201	535	ラ・サール高等学校
第5回	2010	2011年2月12日	237	600	灘高等学校
第6回	2011	2012年1月22日	244	647	東大寺学園高等学校
第7回	2012	2013年2月17日	335	860	東海高等学校
第8回	2013	2014年2月2日	378	1,023	千葉県立千葉高等学校
第9回	2014	2015年2月15日	401	1,134	宮崎県立宮崎西高等学校
第10回	2015	2016年2月28日	410	1,121	新潟県立新潟高等学校
第11回	2016	2017年2月5日	448	1,171	金沢大学人間社会学域学校 教育学類附属高等学校
第12回	2017	2018年2月18日	517	1,297	長崎県立長崎西高等学校





エコノミクス甲子園全国大会 県別出場校一覧

回数	第一回	第二回	第三回	第四回	第五回	第六回	第七回	第八回	第九回	第十回	第十一回	第十二回	
開催年	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	
北海道			旭川東	旭川東	札幌西	旭川東	旭川東	札幌旭丘	札幌南	札幌南	札幌南	札幌南	4年連続 4回目
青森								青森	青森	青森	弘前	青森	2年ぶり 4回目
岩手				水沢	盛岡第三						盛岡中央	盛岡第三	7年ぶり 2回目
宮城				仙台第一	仙台第二	仙台第二	仙台第二	仙台第二	仙台二華	仙台二華	仙台第一	古川黎明	初出場
秋田			秋田商業	秋田商業	秋田中央	横手	秋田	秋田商業	秋田西	秋田	秋田	由利	初出場
山形							山形東	山形南	山形東	山形東	鶴岡南	山形南	4年ぶり 2回目
福島		福島 【東北】	福島 【東北】			会津学園 【関東】	福島	福島	福島高専	白河	福島	福島	2年連続 6回目
茨城							竹園	土浦第一	水戸第一	土浦第一	並木中等	土浦第一	2年ぶり 3回目
栃木							宇都宮 【ネット】	矢板東	宇都宮	宇都宮	宇都宮	宇都宮	4年連続 5回目
群馬							富岡	前橋	高崎女子	前橋	ぐんま国際	四ツ葉学園	初出場
埼玉			浦和	浦和	早稲田本庄	早稲田本庄	栄東	春日部	栄東	栄東	浦和	栄東	2年ぶり 4回目
千葉	県立船橋 【関東】			渋谷幕張	渋谷幕張	市川	渋谷幕張	県立千葉	渋谷幕張	柏	東葛飾	渋谷幕張	3年ぶり 5回目
東京	開成	開成	開成	開成			立川	立川	渋谷	早稲田	お茶大附属	早稲田	2年ぶり 2回目
神奈川			聖光学院	聖光学院	横須賀	逗子開成	聖光学院	聖光学院	横須賀	慶応義塾	聖光学院	栄光学園	初出場
新潟							国際情報	新潟明訓	新潟	新潟	新潟明訓	新潟明訓	3年ぶり 2回目
富山			片山学園	高岡商業	片山学園	高岡	高岡	高岡	高岡	高岡	富山	富山	2年連続 2回目
石川		金沢大附	金沢大附	金沢大附	金沢大附	金沢大附	金沢泉丘	金沢大附	金沢大附	金沢大附	金沢大附	金沢大附	4年連続 10回目
福井			高志	高志	福井高専	福井高専	藤島	藤島	藤島	高志	羽水	藤島	3年ぶり 4回目
山梨					甲府南 【関東】	甲府南	甲府南	甲府南	甲府南	甲府南	甲府南	甲府南	2年ぶり 7回目
長野							長野	諏訪清陵	松本深志	松本深志	松本深志	松本深志	3年連続 3回目
岐阜					県立岐阜	県立岐阜	県立岐阜	岐阜東	県立岐阜	県立岐阜	県立岐阜	県立岐阜	4年連続 7回目
静岡						島田商業	三島	浜松西	静岡雙葉	静岡	知徳	知徳 *	2年連続 3回目
愛知	南山女子 【大阪】	滝	名大附	名大附	名大附	旭丘	東海	東海	滝	滝	滝	東海	4年ぶり 3回目
三重						津	三重	川越	川越	宇治山田商業	四日市商業	伊勢	初出場
滋賀									水口東	膳所	守山	守山	初出場
京都								洛北 【ネット】	洛北	洛北	洛南	洛南	初出場
大阪	星光学院					清風南海	星光学院	開明	金蘭千里 星光学院【10回記念】	星光学院	星光学院	星光学院	2年連続 4回目
兵庫		漣 【関西】		漣	漣	漣	関西学院 【ネット】	漣	漣	漣	神戸女学院	神戸女学院	初出場
奈良			東大寺 【京畿】	東大寺	奈良学園	東大寺	智辯奈良C	智辯奈良C	智辯奈良C	東大寺	東大寺	東大寺	3年連続 6回目
和歌山												智辯和歌山	初出場
鳥取							鳥取西	鳥取西	湯梨浜	青翔開智	湯梨浜	湯梨浜	2年ぶり 2回目
島根							松江北	浜田	松江商業	隠岐	情報科学	松江商業 【ネット】	3年ぶり 2回目 初出場
岡山		岡山白陵	岡山朝日	岡山朝日	岡山白陵		岡山城東	岡山白陵	倉敷精思	倉敷精思	倉敷天城	倉敷精思	2年ぶり 3回目
広島						広大福山 【中国】	修道	広島学院	修道	広島学院 近大東広島【ネット】	広大福山	安田女子	初出場
山口							宇部	宇部	宇部	下関西	下関西	大島商船	初出場
徳島				城東	城ノ内	城ノ内	徳島市立	徳島市立	城東	徳島市立	徳島市立	徳島市立	2年連続 4回目
香川		観音寺第一	高松	観音寺第一	高松	高松	高松	高松	高松	高松	観音寺第一	高松	2年ぶり 8回目
愛媛			愛光	愛光	松山東	松山西	松山西	松山西	松山西	愛光	愛光	今治西	初出場
高知							高知学芸	高知小津	土佐	高知学芸	高知学芸	高知学芸	2年連続 3回目
福岡				西南学院			修猷館	修猷館	筑紫丘	大牟田	修猷館	福工大城東	初出場
佐賀				致遠館 【九州】	致遠館	致遠館			致遠館	致遠館	致遠館	弘学館	初出場
長崎					長崎北	長崎南山	長崎商業	佐世保北	精進三川台	精進三川台	長崎西	長崎西	2年連続 2回目
熊本						熊本 【九州】							
大分											安心院	安心院	
宮崎							宮崎西	宮崎第一	宮崎西	宮崎第一	宮崎第一	宮崎大宮	初出場
鹿児島	ラ・サール 【福岡】	ラ・サール 【九州・熊本】		ラ・サール	ラ・サール 鶴丸【桜者寮】	ラ・サール	ラ・サール	鶴丸	鶴丸	鶴丸	鶴丸	ラ・サール	5年ぶり 7回目
沖縄		昭和薬科	昭和薬科	昭和薬科	昭和薬科	昭和薬科	那覇国際	那覇国際	昭和薬科	昭和薬科	昭和薬科	球陽	初出場
中国											上海甘泉	上海甘泉	
台北												台湾師大附	初出場
出場校数	5	10	16	20	24	25	34	40	40	44	48	47	

【 】内は所在地の県以外で実施された予選（第一回）・地方大会名。第二回のラ・サールは2チーム出場
 □は全国大会優勝校
 *静岡「知徳」は前校名「三島」



第1回



第2回



第3回



第4回



第5回



第6回



第7回



第8回



第9回



第10回



第11回



第12回

